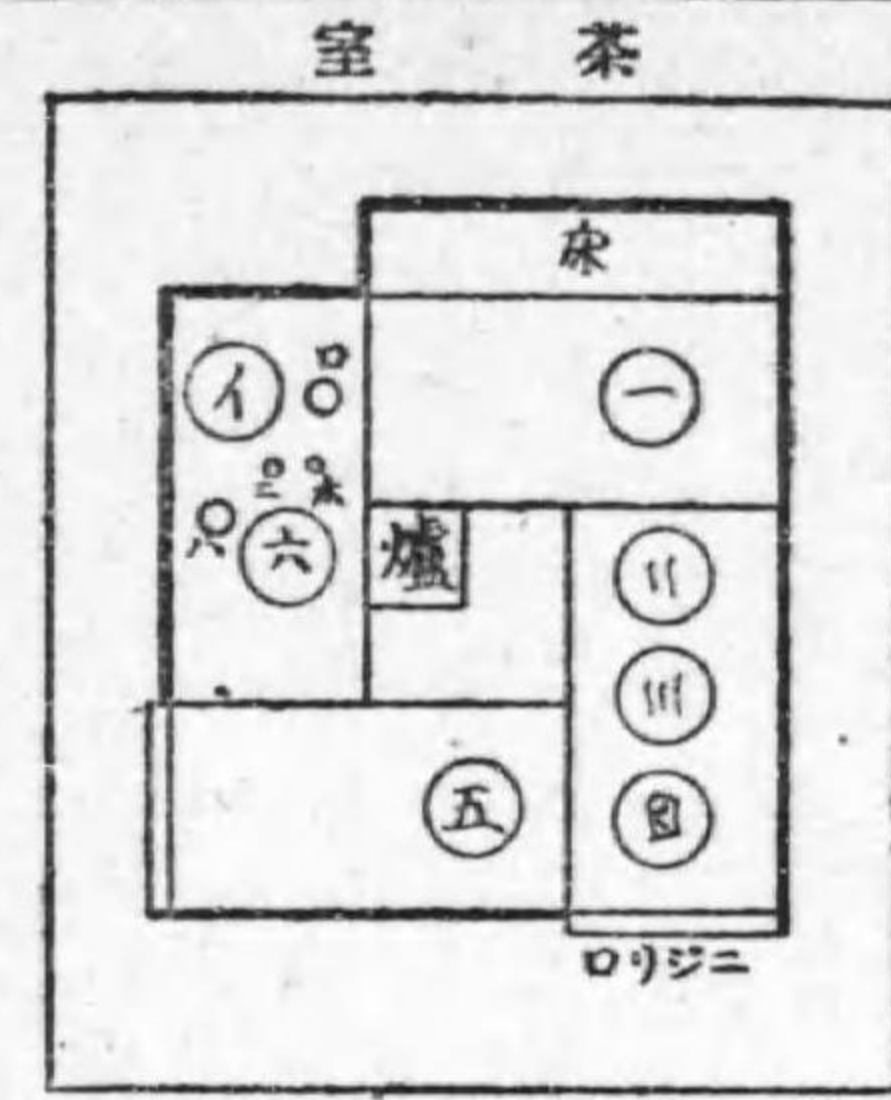


火箸は鐵鑪などがあり、猪箆も爐と風爐によつて違ひ、灰焙は土で造り、灰皿も爐によつて區別がある。即ち風爐の場合では竹の皮でその柄を巻き、爐には桑で造つたものを用ひる風爐の五徳の前に立てる前土器、陶器または銅器の水差、香盒にも種類があり、茶碗にも多くの種類と名稱がある。茶杓に象



るが、面桶といつて板を曲げて作つたものも用ひられる。茶入は濃茶にのみ用ひ、薄茶には茶を用ひる。茶は漆塗で大小形状を異にし種々の名稱がある。茶入袋は金襴織子で作られ、柄杓にも爐と風爐によつて區別し、爐は柄先にて竹の皮の方が短く風爐は柄先まで竹の身の方が短かい。蓋置は普通竹の輪に一筋かけて切つたもので、其他陶製銅製などもある。

茶釜にも種々あつて荒徳、中荒徳、數徳などがあり、普通には中荒徳が用ひられる。荒徳は徳の數三十二、中荒徳は四十六數徳は五十六で、荒徳は信樂、伊羅などの茶碗に用ひられるのである。

茶釜は作と形によつて名も同じでないが、通例は焙口、雲龍、輪口、葦屋、霞などが用ひられる。茶巾はテリ布、高宮布の二種あり、寸法は一尺に五寸または一尺五分に五寸五分である。袱紗地も種々あり、色は紫、黄、茶、紅等であるが普通は紫を用ひ、婦人などは紅を用ひる。寸法は疊目十九と二十一とである。風爐の臺は大小二種あり、大の方は九寸四分に九寸三分、厚さ四分五厘または四分八厘で、小の方は八寸五分に八寸二分、厚さ四分五厘、裏裏とも折目の板を眞に塗り、四方とも小口は黒に塗つてある。炭籠は爐には籠を用ひ、風爐には籠物を用ひる。但し春は爐にも籠物を用ひることがある。風爐先屏風は大きな座敷に風爐を置くとき又は、四疊半にも用ひる場合があり、寸法は内法で高さ二尺三寸、横三尺一寸で、その外縁がついて居る。懸草盆にも如心齋好みなどいふのを用ひるが、これには別に定りはない。燈臺も短檠も用ひるが、これに利休好みや如心齋好みがある。

茶室(數寄屋)は別に定まつた大きさはないが、普通は四疊半としてある。これは所作稽古の都合上勝手がいゝからである。即ち四疊半は六十度の角度に應ずるので、座作進退は自然法に叶ひ易く、器具の置き、點茶の扱ひ工合がよいからである。

第三節 濃茶平手前

濃茶に風爐と爐との區別があるが、風爐手前で學べば、爐は大同小異であるから、こゝでは風爐手前について述べやう。また茶室も大小廣狭種々あるが、普通用ひられる數寄屋即ち四疊半として説明する。

茶道具の運び方 客が皆着座するのを待ち、亭主は先づ袱紗を腰にはさみ、茶碗の中に茶巾と茶筌とを入れ、上に茶杓をのせ、これと茶入とを兩手に持ち出て、勝手口の外の左において襦を開け、敷居の外で挨拶する。このとき客一同が答禮する。これを總禮といふのである。

そこで亭主は茶碗及び茶入を持つて席に入り、水差の前に坐り、茶碗を假りに膝の前におき、茶入を水差の前の右に、茶碗をその左に直しておいて勝手へ立ち、水鉢の中へ蓋置を入れ、その上に柄杓を乗せて持ち出し、これを假りに襦の隙

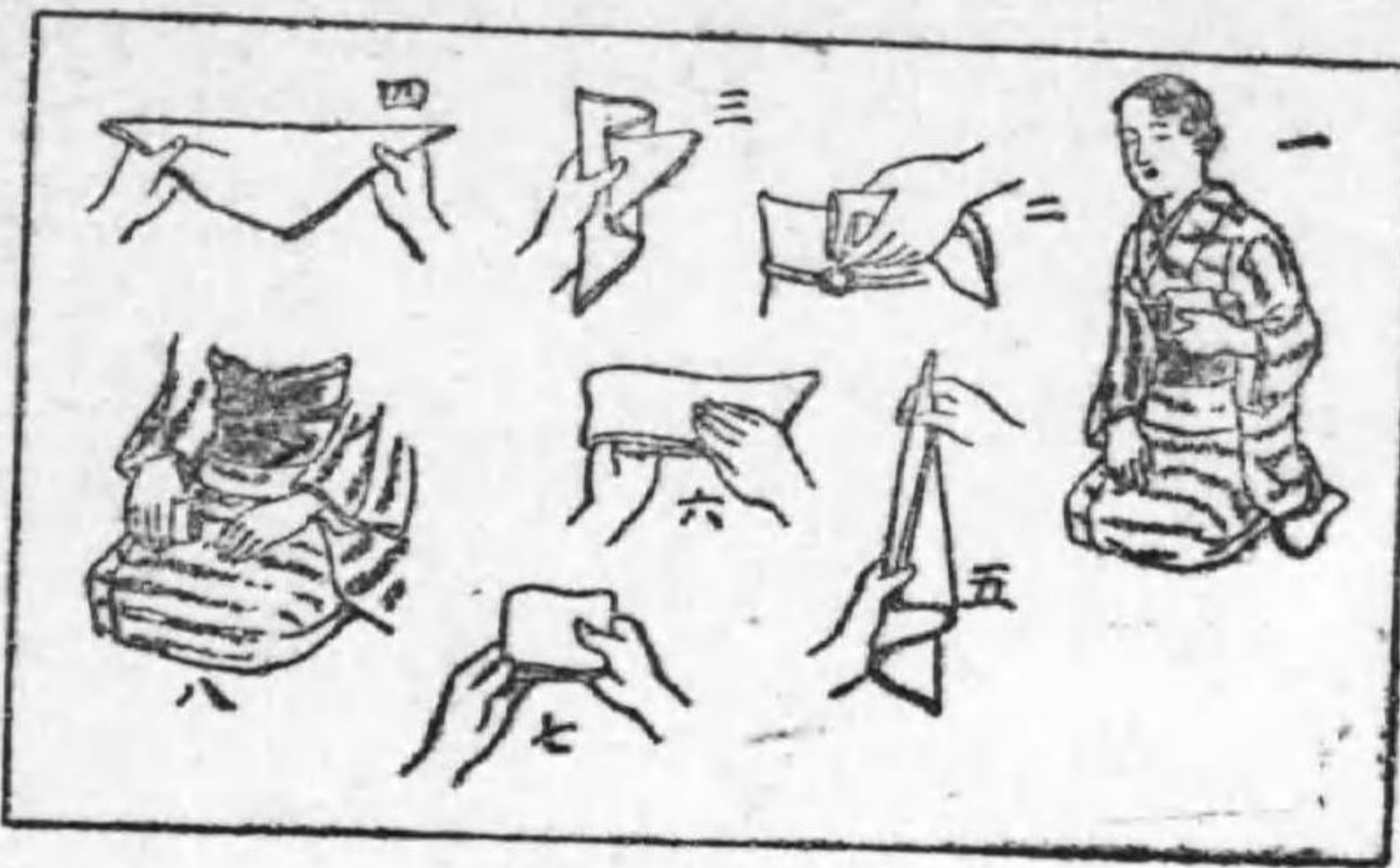
において勝手口を閉ぢ、それから再び、水鉢に蓋置と柄杓をのせたまゝ持ち進んで釜の前に坐し、水鉢は壁附の柱の際におき、柄杓を左の手でとつて、右の手に持ちかへ、また左で蓋置をとり、右の手に柄杓を持ちながら拵指と人差指の間へ摘み、さらに柄杓を左の手に移して持ち、膝の上に立て、右



茶器の出し方

茶入の出し方 總禮が終ると亭主は水鉢を少し前の方に繰り出し、左の手に茶碗を取り、右の手で居前になほし、また右の手で茶入をとつて茶碗と膝との間におき、左の手で押へて右の手に茶入袋の緒を解き、右の手に茶入を袋のまゝ取り上げ、左の手にのせて袋口を開き、茶入を取り出して膝の上におき、袋の形を直して左の手で水鉢の向ふにおくのである。

袱紗捌きと柄杓の扱ひ方 このとき両手が空くから、すぐ腰から袱紗をとつて左へ廻し、膝のわきで開き改めて折る。これが袱紗捌きで、捌いたならば右の手に持ち、左の手で茶入



きばさ紗袱

し、右にて茶碗の中の茶巾を取り、水差の蓋をいま拭いたところに載せ、右手に茶碗を膝の前の正面に直し、次に柄杓を

取つて持ちながら、袱紗を右の拇指と人差指の間に握み、柄杓は左にうつして膝の上に立て、右に持った袱紗で釜の蓋の上を軽く拂ひ、そのまま袱紗で釜の蓋を取り、これを蓋置の上におき、此處で袱紗を腰にはさみ、柄杓を右に持つて釜より湯を汲み茶碗の中に注ぎ、柄杓は釜の向ふの縁にかけて柄



方ひ扱の杓柄

を前におく。このときの柄杓の取り方は眞、おき方を取柄杓といふのである。

茶筌とち 次に右手で茶筌を取り、左の手に茶碗を握へながら茶筌を茶碗の中で洗ふ。これを茶筌とちといふ。茶筌とちが終つたならば、茶筌は元のところにおき、茶碗は左に取り上げて湯を水鉢の中にあけ、茶巾を右にもち周圍を三拭半に拭

き終り、茶巾を揃んで茶碗の中に入れゆの字なりに拭く。そこで茶碗を下において茶巾を取り上げ、これを開いて縦に三つに折り、また横に三つに折り直して、今度は釜の蓋の上に乗せ、両手とも空になつたらば、暫時両手の指を組み、氣を落ちつけるのである。

茶のはき方 茶を茶碗に入れる仕方茶のはき方といふ。先づ右に茶杓を取り、左に茶入を取り上げ、右に茶杓を持つたまま指先で茶入の蓋を取り、これを小板の右の隅におき、茶入を茶碗の左の縁の上に横にし、右の茶杓で茶を掬ひ出して茶碗に入れる。そこで茶杓は茶碗の上に架け、茶入を縦に起し



方て點の茶

右の指頭で軽く胴の處を叩き、中の茶を正しくならし右の拇指と人差指で握むやうにして茶入の縁を拭き、その指は腰の袱紗にて拭く。次に右で茶入の蓋を取り上げてこれを覆ひ、左の手で元の位置に直し次に右で茶杓を取つて茶碗の中の茶の塊りをこな

し、茶杓を茶入の上におくのである。

茶の點て方 次に水差の蓋を取つて水鉢の陰に柱に寄せかけおき、右に柄杓を取り水差の水を三柄杓釜に注ぎ込み、一柄杓湯を汲み上げ湯返を



末始の碗茶

湯を汲み上げ湯返をしてよく水と湯を混和させ、次に湯を汲んで茶碗の中へ半分ほど注ぎ、残り半分は釜の中へ返して柄杓は釜の向ふへかけ、柄杓は手前の方へ向ける。このおき方を切柄杓といひ、拇指と人差指で輪をこしらへその上に載せておく。そこで茶筌を右の指先で握み、茶碗は左の手で押へ、茶筌で強く茶碗の中を掻きたてると、茶は湯と交つて一面の泡となるから、茶筌を茶碗から放して茶入の右に逆さに立て、右で茶碗を取り上げて左の掌に載せ、右の手を扱ひながら、一際くり出して茶碗の表を客の方へ向け、先づ上客の方に向ひ、腕中から袱紗(これは腰に挟むものとは別)を取り出し、茶碗と並べておくのである。

茶の飲み方 茶を點て終り、茶碗を出された上客は次客に挨拶をし、一膝降り出で、手を伸べ、先づ袱紗を取つて膝の前におき、次に茶碗を取つて膝の前におき、一膝退いて元の座にかへり、手を延ばして袱紗を取つて膝の下手におき、次に茶碗を取つて膝の前の上手におき、次客へ一禮して袱紗を右に取り左の掌に載せ、茶碗を右に取つて左の袱紗の上に載せ、戴いてから茶碗の表を左へ廻し一口飲む。このとき亭主は服加減如何と問ふから、客は結構なりと答へて袱紗は下におき茶碗だけ左の掌にもつて更に二口半飲み、その飲み口を右の手で、第一に人差指にて右より、第二に中指にて左より、第三に中指にてまた右より、交るく軽く三たび拭ひ、指は懐中の紙にて私かに拭き、次に茶碗の表を少しく右へ廻はして下におき、袱紗を取り上げ、茶碗をその上に載せて二客に進める。二客はまた三客へ一禮して後、上客のした通りにして飲み三客に廻す。かくして一碗の茶を客一同にて飲み廻すのである。この間亭主は自席にあつて、上客から茶の銘の質問、または生花の挨拶などあればこれに答へる。

茶碗及び袱紗拜見 茶碗が末座まで廻り終ると末座からこれを上客に返す。この末座のことをお詰といひ、お詰は上客

とともに物馴れた者が勤める。二客三客は何事も上客のした通りにすれば差支ない。茶碗がお詰から上客にかへつたならば、上客はこれを取り上げて茶の香を嗅ぎ、茶碗を見て二客へ廻す。二客以下は同様である。次に上客は袱紗を取つてこれを見、終つて二客に廻す。これも亦二客以下同様にして、何れも末座から上客へ返すと、上客は膝を繰り進みて亭主へ返す。このときの茶碗、袱紗のおき方は、亭主の出すときの通りにする。三客や四客が袱紗や茶碗を見てゐるうちに、上客は茶碗や袱紗の切地の由来等について亭主に尋ね、少しも時間に空のないやうにするのが法である。

茶碗の結末 茶碗が亭主に返つたら袱紗は懐中し、茶碗は常の如くに取り上げ、一膝降り出で釜の方に向ひ、先づ茶の點て方如何を檢べる。茶の點て方の拙いときは、粉が底に澱んで飲んだ跡にも残つて居るものである。そこで茶碗の表を右に廻し、最後の飲口を右方として前におく。このとき客から總禮にて挨拶をすれば亭主はこれを受け、柄杓を取つて湯を汲み茶碗へ注ぎ、柄杓は例の如くにおく。おき方は置柄杓といつて、中指と人差指とを輪にし、その輪の外の中指に載せておく。次で茶碗を取り上げ、揺り動かして中を洗ひ、湯は

水瀧にあけて茶碗を前におく。この時上客より「お仕舞ひ下され」と挨拶したならば、亭主は承つて水を汲み、茶碗を取り上げて茶碗の中ですゝぎ、茶筌とちをしてこれを元の處におき、次に茶碗を取り上げて水を水瀧の中にごぼし、茶巾で拭いた口を拭き、そのまゝ茶巾を茶碗の中に入れて前におき、茶筌を逆さにして、茶碗の中にある茶巾の上に立てるのである。

茶杓及び眞水差の始末 次に腰から袱紗を外して捌き、四角に疊んで茶杓を取つて拭ひ、茶杓は茶碗の上にふせて載せ、袱紗はまた腰に挟み、次に柄杓を取つて水差の水を汲み、三柄杓釜へ注して一回湯返しをし、柄杓をかへして左に持ち、右で蓋置の上にある釜の蓋を取上げ、釜に蓋をして、柄杓は代りて蓋置の上に乗せ、次に水差の蓋を取つて水差に蓋をする。このときに客から三器拜見を申し出るのである。

三器の示し方 三器拜見を申込まれたら、亭主は先づ柄杓を右に取つて左に持ちかへ、水瀧の上に伏せて載せ、そのまゝ水瀧を少しく後へ引き下げ、次に蓋置を右に取つて左に持ちかへ、水瀧の後の柄杓の柄の下におき、茶入を上客の方に向けて置きかへ、茶碗と小板と水差との中間の正面にうつし、

膝を繰つて上客の方に向ひ、腰の袱紗を取り捌いて右に持ち、茶入を左に取り上げ、右に袱紗を持ちながら一旦蓋を取り、中を檢べて蓋をし、次でこれを袱紗で拭いてそのまゝ袱紗を懐中に入れ、右に茶器をうけて正面を左方におき、次に袱紗を取り出して捌き、直ぐに疊んで茶杓を右に取り上げ、軽くこれを拭き、その茶杓の手を向ふにして茶入の右におき、袱紗を腰に挟む。次に左の手で茶入の袋を取り、掌に載せて形を正し、諸の留を右にして、右の手で茶杓の右に載せておくのである。



茶器の拜見

三器拜見の仕方 先づ上客は茶器を取り、懐中から用意の袱紗を取り出して疊の縁の外におき、茶入をその上において最初は左右から全體の形を見、次に兩肘を左の左右におき、茶入を取り上げて蓋を見、蓋を下に袱紗の上において掌を茶

入の口にあて、底を見、また蓋をしてこれを二客に廻す。茶入を取り上げるとき兩肘を下げるのは、取り落さない用心である。次に茶杓を取つて中の節の裏表、先、手元の順序に見て二客に廻す。次は茶入の袋であるがこれも同じく裏、底と見て二客に廻す。



茶碗の扱ひ方

二客以下もその通りにして末座から上客に返したら、最初並べてあつた通り、折返しにして亭主に返す、その前に亭主は他の道具を勝手へ運んで居るから、それを運び終つたとき客は結構な三器を拜見して返すのである。

見して有難かつた旨を述べ、一同禮にて返すのである。道具の片附け方 客が三器を拜見してゐる中に、亭主は先づ水鉢、茶杓、蓋置を持つて勝手口に至り、一旦下において襖を開き、再び持つて勝手へ入り、次に茶碗を茶巾と茶筴を入れ

たまたまに持ち去り、次に水差を持つて行く。かくて三器の返るのを待ち、それが返つたらこれを受けて、先づ茶入の袋を左の掌に載せ、次に茶杓をその上に載せて袋を二つに折り、次に茶入を袋の外に手に載せ、右の手を添へて持ちつゝ退くのである。すべて道具を運び去るときは、勝手口までは膝を立て後向きに退くのを最も正しとする。これが眞で行けば半ばは膝を立て半ば以後は、矢張り後ろに向きながら退くのである。直ぐに立つて退くのを草といひ、すべて勝手口に行くまでは、客に後を見せないやうにするが法である。かくて道具を運び終つたならば、これで濃茶の式はすんだわけであるから、亭主は最後に襖の外で一禮し、讀いて薄茶を呈する由を述べて、一旦勝手口を閉ぢて退くのである。

第四節 薄茶平手前

薄茶にも爐と風爐とがあり、その點て方は大した相違はないが、こゝでは違つたところだけを述べておく。

道具の運び方 濃茶のときは、菓子も出さず煙草も喫まないから何も出さないが、薄茶のときは先づ菓子器を出し、煙草盆を運び、客は煙草など吸ひながら待つのである。かくて亭主

はよき頃には水差を持ち出で、勝手口の外の假りにおき、襖を開けて一禮し、客は禮にて答へること濃茶のときと同じである。次に蓋を右、茶碗を左に持つて出で、さらに水鉢に蓋置と茶杓を添へて持ち出で、勝手口を閉し、座につくまですべて濃茶の通りであるが、其他秋紗捌き、茶筴とち、茶のはき方なども大差はない。

茶の點て方 これも濃茶と同様茶を點て終はつたら、先づ上客へ勧めるのであるが、茶碗だけで袱紗は添へない。挨拶は濃茶の如くして飲み終り、茶碗を返したならば亭主は受取つて座に復し、茶碗を左に廻して飲口を右にし、濯いだ後、湯をこぼすに便なるやうにして柄杓を行にとり、先づ水を一柄杓釜に注ぎ、湯返しをして湯を汲み茶碗をすゞぎ、茶巾で三拭半に拭き、茶碗を下において茶巾を出し、折目を裏表にかへして小板の隅におき、また前の如く點て、二客へ出す。かくして末座まで同じやうにするのである。

柄杓の扱ひ方 これも大差はないが、たゞ柄杓を取るには手を柄の下から出す。それから湯を空の茶碗につくときには、水を一柄杓づゝ汲み入れて湯返しをするが、茶のある茶碗へ取るときには釜に水を入れない。



菓子置の置き方

茶の飲み方 亭主が最初柄杓を取り廻す開いた時、上客は菓子器を取つて二客に進め、二客が隣したら、上客は菓子器をわが前に引きよせ、菓子を取つて紙の上に乗せ、菓子器は右の方へよせて茶の出るのを待つ。茶が出たところで次客へ挨拶して菓子器を茶碗の上に置して割つて食ひ、それから茶を飲み終つて茶碗を返す。二客以下はこれにならふのである。

第五節 煎茶

煎茶は茶道から遠ざかつてゐるやうであるが、根本は抹茶と精神を一にするものである。たゞ煎茶と抹茶と相違する點は、抹茶が風味を帯び比較的保守的であるに對し、煎茶は黄蘗の法脈を傳へ進歩的自由主義であることである。これは時代精神か

らいつても當然のことで、抹茶が宗元の氣風を傳承してゐるに對し、煎茶は南宋の精神をうけてゐるからである。従つて法式の上からいつても、抹茶は傳來の古器を尊重して製用するに反し、煎茶は寧ろ新しい器物を愛用する。要するに煎茶は歴史が新しいだけに流派は少なく、従つて法式所作といふものも比較的固定して居らず、各自の長所を發揮せしめるやうに出来てゐるのである。

緑茶の入れ方 緑茶を點れるには先づ水を選ぶことが必要で、ある有名な茶人が同じ川の流れた水でも、兩岸を流れてゐる水よりも、真中を汲んで用ひたお茶の方が遙かに優つて飲めるといつたくらゐである。これを點れるには、まづ充分に煮立つた湯を湯冷しの中へ移し、それが口中へ入れて温か過ぎるくらゐに冷めたとき、あらかじめ急須に茶を約半分くらゐ入れたものの中へ移す。そして靜かに二三分くらゐおき、すゝめる客だけの茶碗を揃へて、まづ急須の半分だけを全部に注ぎ、残りの半分をさらに又全部に注ぎ足すやうにし、決して一度に一人々々の茶碗に注ぎ込んではいらぬ。それは一寸置かうちに最初に注いだ茶碗のお茶と、一發後で注いだ茶碗のお茶とが味を異にするからである。

茶のすゝめ方 茶をすゝめるにはまづ茶碗を茶托に敷せ、これを兩手持つて客の前に跪いて出す。
茶の受け方 煎茶を出された場合の受け方は、まづ茶托を受け、茶碗の下におき、茶碗のみを持つて飲むのである。もし相客があつて同じ臺ですゝめられるときは、臺を取らずにたゞ茶碗のみを取り、また銘々に茶托のあるときは、茶托のまゝ受けるのである。

茶の飲み方 煎茶の飲み方は、右の手で茶碗を取り左の手を茶碗の底に添へ、飲み終つたならば茶托の上におく、茶托の上に茶碗を伏せたりするのは禮でない。
番茶の入れ方 番茶は一般の家庭に愛用されてゐるが、入れ方などについては少しも心を用ひず、たゞ湯をさして飲めばよいやうに考へられてゐるが、これにも色々心傳のあるものである。先づ第一に心得べきことは番茶の焙じ方で、あまり強くない炭火の上で、氣長に焙じなくてはならない。あまり焦げ過ぎては香ひが悪くなり、また餘り弱くてもその味を失くするものである。

お茶に用ひる湯は、何のお茶でも鐵瓶や藥罐よりは土瓶がよく、入れ方は一度充分に煮立つたら焙じた茶を茶葉に入れ

靜かに湯を注ぎ、成るべくお茶の冷めないやうに、再び煮立たぬ程度に火にかけて下す。かくして出来上つた番茶は一層香ばしく飲まれるものである。

第六節 紅茶

紅茶は一般の家庭に用ひられる冬の飲み物として必要なものである。用ひ方は湯はあまり煮立つたものよりも、一旦火から下ろしたものを用ひた方がよいのである。紅茶器の中へ中匙二杯ぐらゐの紅茶を入れて湯を注ぎ、温かい場所に二三分おいてから、紅茶濾で濾して温かい牛乳を加へて飲むやうにすれば最もよいのである。

第七節 洋式お茶の會作法

洋式のお茶の會には大茶と小茶の二種があり、大茶は高茶とも肉茶ともいひ、小茶はまた手茶、午後茶とも呼んでゐる。會の當日は主客とも同席し、茶具は主婦の傍の卓上に置き、主婦自ら茶を調へて客にすゝめるのである。

茶具は日常食堂で用ひるものよりは小形のものとし菓子、パン、手幣をのせる物の外は、他の盤はこの茶室に入れないの

が法である。大茶と小茶とに拘らず客がその席上で菓子を出したり、茶盤の世話をするなどは却つて非禮である。

會の目的は快談會心の話題によつて閑遊する點にあり、茶を飲み菓子を食べるのは、談話を助ける一法であるから、普通の食事の會のやうに強ひて茶菓をすゝめず、室内の所々に小卓を置いて談話を自由にせられるやう設備し、愉快な會合たらしめるやうにすべきである。

茶會に講師や落語家を招いて興を添へる場合もあるが、小茶會は極めて親睦を旨とするものであるからこれを避くべく、樂器などの設備があれば、客をして隨意に奏せしめるのである。

招かれた客は式が終ればいつでも自由に歸つてよく、また如何に談話に興があつても、午後七時後まで留まるのは禮に反するものである。

高茶の場合には卓上に白布をかけ、その中央に挿花を置き、夏時ならば果物を盛つた皿を陳列し、または熟した苺を銀器に盛り、傍に乳酥の臺を置くなど、客を喜ばしめる設備が必要である、また高茶には侍者の用向が多いから、氣の利いた給仕人をして主婦の客接待を補助せしめ、多數の客に對し悉く手落

ちなく満足を興へるやうにしなければならぬ。

第八節 主なる茶室

- 東求堂 (京都東山慈照寺内にあり、足利義政の茶室で我國茶室の濫觴とされてゐる)
- 眞珠庵通仙院茶室 (京都紫野大徳寺)
- 龍光院密庵茶室 (同上大徳寺)
- 時雨亭 (東山高台寺)
- 遼廓亭 (仁和寺)
- 紹益茶室、吉野茶室 (東山高台寺)
- 枕流亭 (醍醐三寶院宸殿前林泉中)
- 妙喜庵 (京都府山崎)
- 孤逸庵 (京都大徳寺塔頭最西)
- 慈照院茶室 (京都相國寺塔頭)
- 無色亭雲雲亭、今日庵、又隠、利休堂 (京都市小川裏千家邸)
- 明々庵 (松江市外菅田村有澤邸内)
- 聚光院茶室 (京都大徳寺方丈の西隣)
- 太虚庵 (洛北鷹ヶ峰光悦寺内)
- 湘南亭 (京都松尾西芳寺林泉中)

- 飛雲閣茶室 (京都西本願寺瀟湘園)
 - 實相庵 (堺市南宗寺塔頭)
 - 金地院八窓之庵 (京都南禪寺塔頭)
 - 松琴亭 (桂離宮御苑内)
 - 夕佳亭 (京都鹿苑寺寺庭内)
 - 六窓庵 (東京上野帝室博物館内)
 - 八窓庵 (東京麻布井上侯邸内)
 - 寒翠庵 (東京赤坂新坂町竹内邸内)
 - 一睡庵 (東京大森山王間島邸内)
 - 心月庵 (東京大森山王柳原松浦伯邸内)
 - 阿陋庵 (水戸市外借樂園)
 - 太郎庵 (東京高輪御殿山益田男邸内)
- 以上は何れも現存せる有名なるものである。

第五編 趣味と娯樂の味ひ方

第一章 園 藝

第一節 園藝の分類

園藝は農業の一部門で果樹、蔬菜、花卉等の栽培、造園の技術等を總稱する。普通の農業と異なるところは、園藝は集約的ではなく、且つ一般農業に比較して、科學以外に多くの技術を尙ぶ點にあり、一體にこれを分つて次の四種とする。

一 果樹園藝 各種果樹の栽培、繁殖、手入れ、種類改良から生ずる生産物の取扱、利用等を含めて行ふもので、園藝中最も集約の勞つたものである。

二 蔬菜園藝 蔬菜の栽培から、これが生産物の利用を含めたもので、路地園藝と高等園藝がある。これは果樹園藝も同様で蔬菜園藝にあつてはこの中の高等園藝は、硝子室又は硝子框を設けて栽培を行ふ。

三 花卉園藝 草花の外観、賞用の樹木の栽培を含み、普通温床温室のやうな特別の設備を用ひる。

四 造園術 一定の設計の下に地形を利用し植物、岩石等を配置して、調和の美を發揮せしめるものである。然かしこゝでは以上の全部にわたつて詳述することは出来ないから、一般家庭向きの卑近なものについて、左にその大略を記述するに止める。

第二節 蔬菜園藝

蔬菜 食用に供する園藝作物の總稱で、俗に青物、野菜などともいふ。大根、人参、牛蒡、芋、甘藷、馬鈴薯、葱、生薑等の根菜類、漬菜、甘藍、花椰菜、萵苣、菠菜、土當歸などの葉菜類、茄子、西瓜、南瓜、胡瓜、越瓜等の果菜類に類別し、蛋白と脂肪に乏しいが、すべて水分とビタミンに富んでゐる。これを作るには一般に温床を作つてその内に栽培するのである。

温床 硝子の蓋のある框(箱室)を地上に据ゑ、土塊を二尺か三尺掘り下げ寝葉、落葉、馬糞等を堆積壓迫し、二三回尿糞を撒布し濕氣を興へ、その上に肥えた土を六七寸敷き、寒暖計を入れ、八十度前後に平均するのを待つて植付を行ひさらにこれを他に移植するのである。

移 植 本畑は移植の二週間程前に鋤で打起し、腐敗した下肥を施し、當日は油糞などを撒布して土を撥き、薄い下肥を施す。

苗床で育つた苗を本畑に移すには、太りすぎた物や色の濃すぎるものは良くないから中等の物を選ばねばならぬ。胡瓜や南瓜についていふならば、本葉が二枚位出た時、茄子は四五枚で四寸内外になつた時、トマトや萵苣は二三枚出た頃がよい。茄子や瓜類は土をつけて移植し、苗についた表面の土が、本畑の地表より深くならぬやう注意する。根本を固く押しつけるのもよくない。また適當の濕氣があれば、殊更ら水をかけるには及ばない。すべて蔬菜類については、以上の注意が大切である。

第三節 花卉園藝

播種時期 夏から秋にかけて咲く草花は春に種子を蒔き、春に咲く草花は秋に蒔く。即ち朝顔、百日草、日々草、三色堇、金盞花、コスモス、サルピヤ、ホウセン花、ベチニヤ、鶏頭、ダリヤ、グラジオラス、カンナ等は春に蒔き、パンジー、金センカ、矢車草、アラセイトー、ヒナゲシ、デーデー、チューリップ、ヒヤシンス、櫻草などは秋に蒔くのである。

種子の蒔き方 春蒔く花は彼岸の前夜とし、蒔き方は家庭ならば路地へ、四尺に六尺ぐらゐの木框の床を作り、土はアラキダが適當であるが、それが無ければ普通の土を五六寸の深さに入れ、肥料は人糞か、シメカス、油糞、ニシン糞等の何れかを土に混ぜ、一週間ぐらゐ土になづませて置く。種子を蒔く當日は、移植しないものは、ペラ蒔きにしてもよいが、移植するものは列をそろへて筋蒔にし、その上から種子の大ききの厚味だけの土をかぶせる。尤も小さい種子ならば、上から土をかけずとも手で軽く押へたゞけでよい。その上にあまり厚くない蒔きをかけて置くと、普通の種子は十日間位で芽生へ、おじぎ草のやうな永いものでも三週間後には芽を出すが、種子の皮の厚いものほど芽生へるには長い時日がかかるのである。芽生へたら上の蒔きを取り除くのであるが、何分非常に弱いから急激な日光に當てぬやうに注意する。肥料はなるべく



一チンバ

薄くして一週間に二回ぐらゐの程度で、葉にかけぬやう根元にやるのである。

霜除 秋蒔いた種子は霜除を施さねばならぬ。この霜除は寒さを除けるために重要な役目を有してゐるが、第一の目的は苗の床の浮くのを防ぐためである。然かし秋蒔きのものは春蒔のものと比較すると寒さには比較的強いから、一般に考へるやうに霜除の撤去の時期などは、さほど遅くする必要はない。あまり遅れさせると霜除の下で苗がひよろ／＼と徒らに伸びるだけで、却つて苗のためによくない。霜除をとるのは大抵三月の十日前後がよい。霜除を取ると苗は雨に打たれるが、これは決して心配の要なく、却つて雨に當ることは苗のためによいのである。若しも撤去した後で苗床が凍るやうであつたら、朝のうちに如露で水を注いでやるやうにすれば氷は解けてしまふ。この水を注ぐことを忘れると、自然に氷の解けるときに、苗は幾分熱を吸収されるので萎へる虞がある。それでも霜除を撤らずに置くよりも、この方がまだ遙かに苗のために有利なのである。かやうにして發育した苗を三月の末か、四月の上旬にかけて移植するのである。移植と検分 移植すると苗は丈夫になり、花も立派なものが出

来る。この移植は二回位する必要があるが、簡単な方法は蜜柑箱の平たい鉢に植ゑ、そして花壇や花園などに移すのである。

チューリップ、ヒヤシンス、ダリヤ、カンナ、睡蓮等の球根は、是非春先に株分をしてやらねばならぬ。睡蓮を分けるには粘土を水鉢に溶いて、上水の澄んだとき水を捨て、柔らかい泥土の中に植ゑて、その廻りにニシンを肥料のためにさし込むのである。さうすると大きくなるに従つて一層葉が茂り、夏になつて美しい花を開くのである。種子の採り方 花の種子は自分で採るのがよい。買つたのは不確實であり、地質や氣候なども違ふので、發芽の具合からいつても、實質においても氣持においても、自分で取つたのとは大變な違ひである。種子を取る方法として注意すべきことは第一に親木を考へねばならぬ。即ち自分の思つた性質を具へた缺點のない親木を選んで取ることが肝要で、一般の花壇ならば紙をつけて目標をすとか別に移しかへるかして置く。さうして花も餘り澤山咲かせないやうにして、實のりのいゝ種子を選んで取るのである。親木の選擇を誤ると花はだんだん悪くなり、甚だしい例は八重咲のものが一重になる事もある。

る。親木が定まれば次は時期であるが、その時期は種子の落ちる前がよい。然し雨上りのときなどは腐敗しやすいから、二三日天気が続いたときがよい。採取した種子は日陰に乾かして、すつかり乾かして袋に入れ、風通しのよいところへ吊して置く。これは蟲がついたり腐つたりするのを防ぐためである。

第四節 草花の栽培

春の花作り 春の花は三月末から四月にかけて種を蒔くが、この時に蒔く草花は一年中で最も種類が多く、その主なるものは左の如くである。

一 ダリヤ 球根と種蒔とあるが、種蒔は花も小さく栽培も難かしいから、こゝでは球根を述べた。ダリヤの球根は太抵一つの莖に三四個づつつき、芽の出るのはその莖と球根との接合して居るところの、少しくびれ気味になつたところだけであるから、その大切なところを無難作に切り取つたやうなものを買つてはならぬ。苗床がなければ直ちに花壇に植えても差支ない。時季は三月の末から四月の中旬頃で、植える二三日前に土をよく知り返して柔軟にして置く。



ダリヤ

かり延びて面白くないから、この點を注意せねばならぬ。また濕氣の多い土地にはダリヤは適しない。特に見事な花を咲かせるには目的以外の花は摘まねばならない。
二 コスモス 花壇の日當りのよいところを耕し、土の表面を平にして種を蒔き、上から細粉した土を軽くかけ、その後ときどき細い孔の如露で水をやり、雨の降るときは板なり蕨なりを被せて置く。發芽して二寸ぐらゐの大きになつ



コスモス

たとき、花を咲かせようと思ふところに三寸ぐらゐの間を置いて本植をする。その後は暫くして、薄い下肥か油槽をたびぐや



百日草

り、四五寸延びたとき頭を止め、枝が又四五寸延びたらその枝の頭を止め、横に廣く枝を澤山出させるやうに仕立てる。そして中央の幹と太い枝には支柱をしてやる。
三 百日草 はコスモスと同様に播種し、植えるときには一尺乃至一尺五寸ぐらゐの間隔を置き、肥料はダリヤと同じものを月三回づつ秋まで續けてやる。

夏の花作り すべて花の栽培は三月から九月までの間が一番大切で、種蒔、苗の植付、株分、根分など殆んど皆この季の仕



朝顔

事である。
一朝顔 朝顔は誰でも作るが又これぐらゐの作りやうで變化優劣に富むものもない。播種の時期は四月末から六月初めまで、この間なればいつでもよい。深さ三寸ぐらゐで底に澤山孔をあけた箱を作り、肥料氣のない畑土を極く細い目の篩で通し、粗い土を底の方に細い土を上の方に一杯入れ箱ともに水中に徐々に入れ、土全體に水を含ませる。かくて箱を水から上げた後ち、種子は二分ぐらゐの厚

さに七八分の距離に蒔き、日當りのよいところに置いて、乾きすぎぬやうに注意すれば間もなく芽を出す。芽が出て貝割葉(最初に出る二枚の葉)が兩方に割れたらすぐ植ゑ換へるのである。
二 大輪咲きの作り方は、同じ朝顔でも最初の根は下に向つて

一本出るから、このときすぐ植あかへを行ふので、この根から鬚根が出るやうになつては手遅れである。鉢は口径五六寸の土鉢を用ひ、土は餘り固くならぬ畑土に砂を二割ぐらゐる混ぜたのがよい。そして前の箱に水をやつて、土を崩さぬやうに、また根を痛めぬやうに丁寧に抜いて一本づゝ植を込み、日當のよいところに置いて乾かさぬやうにする。物乾場などに置くのもよい。かうして木葉が出たころ油槽を極く薄く水に落して三日に一度ぐらゐる興へ、蔓が二尺ぐらゐる長さになつたころ、上の方の節に蕾が二つ三つ付くから、このとき下から二節残して切つてしまふ。残つた節から枝が出たら、鉢の縁の土に穴を二つほどあけて油槽の粉一握を入れてやると、この二本の枝がずんぐり成長し蕾を持つ。蕾は二本の枝に二つづゝつけて兩方の頭を切り除けてしまふのである。この方法で直径五寸以上の大輪を咲かせることが出来る。かうして四つの花が散つたら再び下の方に二芽を残し、上の枝を切つて前に述べたやうな方法を以てすれば又四つ咲かすことが出来る。かやうにして一本の木に十六の花を咲かせるのが一番よいのである。

三變り物の作り方は貝割葉のとき通り抜く。何の種類でも如



ブツリーユチ

一チヌーリップ は九月の末頃から十一月の初め頃までに、球根で植を込むのである。まつ五寸ぐらゐる距離に、四寸ぐらゐるの孔をあけて、その中へ一球づゝ丁寧に植を込み、その上から土を軽くか

割葉の葉先が少し上に向いてゐるのがよく成長する。變つたものは大輪咲と違ひ、あまり肥料をやらず水もまた少しく乾き加減がよい。さうしないと蔓ばかり延びてよい花は咲かない。また頭を止めないで藪か細竹の支柱を立てるのがよい。その立て方は二尺ぐらゐる長さの棒を、四本立てて輪を三つ付けるやうにする。

朝顔は咲いた花を、その日のうちに摘み取るやうにすれば後から後からと咲く。また水は吸み置いた水をやるがよ

く、ひどく暑い頃には一日三度ぐらゐるやらねばならぬ。

秋の花作り 秋の花もまた、その代表的なものを三つばかり挙げて説明して見やう。

け、平に押しつけて置き、冬は霜除をしない。一月頃に芽を出し三月末から追ひ々花を開く。鉢植にするには花の開く二三日前、根を傷けぬやう土とよもに掘り取り、四寸ぐらゐるの鉢に、三本ぐらゐるづゝ植を水をやや、花が済んだら以前の花壇に移して置く。花壇植の方は開花後そのまゝにして置くと、莖が弱るから六月初めにそつと球根を掘り取るのがよい。



ニスキートビー

まづ鉢作りなら十月頃肥料氣の少ない土を入れ、三寸鉢に三粒づゝ五分ぐらゐるの深さに種子を下し、日當りのよいところを選んで土の中に埋め込み、鉢の縁と土地の表面とがスレ／＼になる位にして置く。さうすると三四日で芽が出るから、一寸ぐらゐ

延びたら、下から二節残して頭を摘み枝を出させる。このとき油槽の薄い落水か下肥を興へるとよく成長する。冬期あまり凍りすぎるやうなら霜除をしてやる。かくて二月頃



ナリラネシ

播種する。この草は乾燥を嫌ふから、眞葉三四枚の頃までは、特に注意せねばならぬ。その後肥沃な砂地へ二

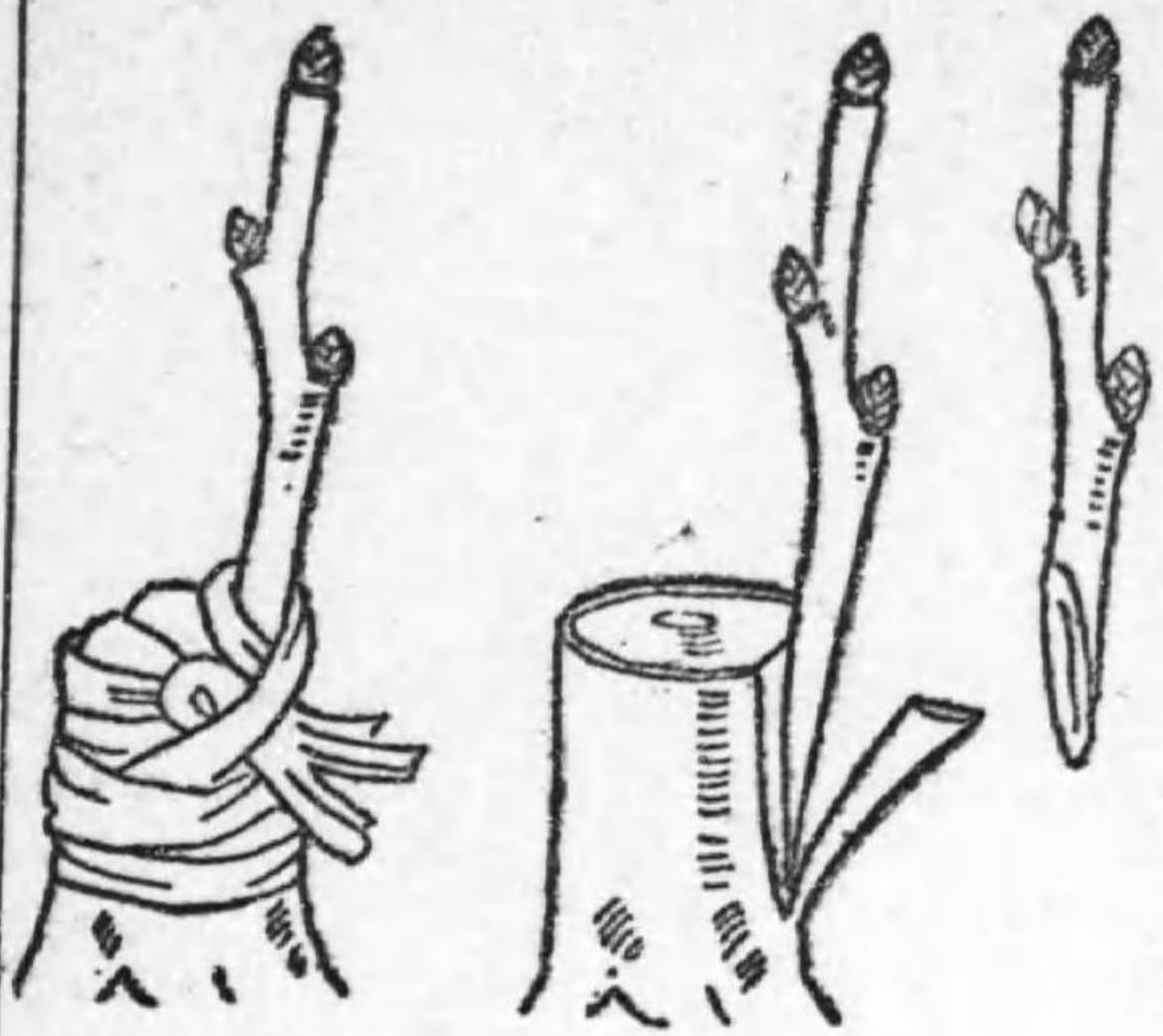
になり根も枝も充分に張つたら四寸ぐらゐる鉢に植をかへる。春暖の候になると成長が速くなるから、油槽か下肥を十日目ぐらゐるに少しづゝ興へ、三月の末にまた七寸ぐらゐるの鉢に植をかへ、蔓を充分に延ばし四尺ぐらゐるの支柱をやる。花壇に移さうとすればこの時にする。斯様にすれば四月には蕾を持つが、蕾を持つたら肥料を興へてはならぬ。花が咲き初めたら、出来るだけ切つてしまふやうにする。後から々と咲く。また前述の法をとらず初めから花壇に種子を下してもよい。その方法は矢張り十月頃花壇に充分肥料をやり、七八寸おきに一粒づゝ縦に二通り蒔きつけ、發芽後の手入は前述の鉢植と同様にする。

三シネラリナ 砂混りの土に肥料を施した床場へ八九月頃に

回ほど移植し、更に粘土質に植ゑ、結葉頃には寒風の當らぬ暖かいところに置き、ときどき温水を與へ、四五月頃には路地へ出して培養するのである。

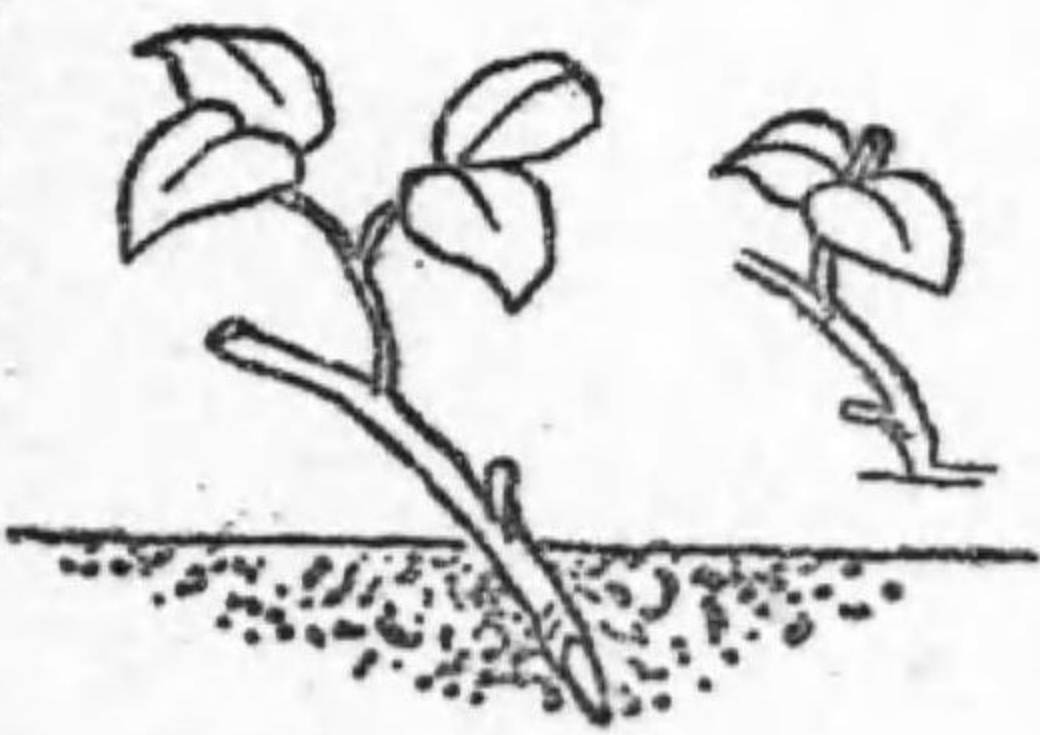
第五節 接木と挿木

接木は三月早々に初めるがよい。多くは果樹にするが殊に櫻、桃、梅、梨、柿、薔薇などは極めて容易で、素人も自由に出来る。ただ注意すべき點は臺木を縦に切るときと、枝をそぐとき



に綺麗にそがねばならないことである。そしてその削いでその削いで

だ枝を臺木の削つたところへはめ、上から接いで巻いて置けばよい。何れにしてもこの接木は同種同属の樹ならば、何でも容易に接ぐことが出来る。例へば白桃に赤桃を接いだりするなどは極めて容易である。廣島や岡山邊では一本の蜜柑の樹に、紀州蜜柑や温州蜜柑其他レモンなどを接木して、一本の樹からいろいろな柑類の果物をとつて居る。



挿木も春先に行ふ興味ある園藝の一つである。この挿木は落葉するものなら何んでもよい。ダリヤ、薔薇、菊、カーネーション、紫陽花などの枝をとつて、たやすく根を下すことが出来る。殊に蜜柑の空箱にして棕櫚の皮を敷き、その上に砂を入れ、その砂に挿木にする切り枝を挿し込んで、たびたび水をかけ、上からスリ硝子で蓋をすれば理想的である。蓋は箱の中を暖水で蒸らすためであるが、かうして根を下したものを移植すれば立派な草木が出来上がる。

第六節 素人出来る築庭

手紙一挺とシヤベルの一挺もあれば出来るといふ、都市生活者の築く小庭は樹石の配置はいふまでもなく自由に意匠する。名所の風景を部分的に模しても、繪葉書や寫眞の風景を見て創作しても差支ない。寧ろそれが好いのである。然かしこゝに注意すべきは、小庭の中に大きい景や多量の材料を入れることを避け、全くの断片的、部分的の景を作るといふことが大切な秘訣である。

主要なる庭樹 築庭用とする重なる樹木を、その種別に從つて挙げると、およそ次の如きものとなる。

- 一 常緑針葉樹類 松類、杉類、扁柏、コノチカシワ、アスナロ、榎、モミ、一位、ビヤクシン、榊、羅漢松、キヤラボク、ヒムロなど。
- 二 常緑闊葉樹類 モッコク、泰山木、トベラ、月桂樹、カシ、モチノキ、竹柏、オガタマ、木犀、椿(以上稍大木となるもの)、黄楊、マサキ、柘、南天、ナギイカダ、青木、ハマモッコク、葛南、クチナシ、夾竹桃、サツキ、蜜柑子、ツバジ、石楠花、八ツ手、瑞香、キリシマなど(以上小木)

- 三 落葉闊葉樹類 モミヂ、ニシキ木、梧桐、公孫樹、チヤンチン、榎、ヤマバウシ、肝木、サンザシ、赤目ガシ、キササゲなど。
- 四 花木類 櫻、梅、桃、椿、栞桐、海棠、モクレン、百日紅、ネム、ギョリウ、木蘭、夏椿、山菜夷等(以上稍大木となる) 木芙蓉、マンサク、金銀木、エニシダ、紫陽花、山吹、バラ、牡丹、シモツケ、萩、ドウダン、ビヤウヤナギ、コデマリ、ワウバイ、ウメモドキ(以上灌木性) 藤、ムベ、ツク、定家カツラ、夏藤、シクンシ、ナニハイバラ、ノーゼンカツラなど(以上蔓性木本類)

庭樹の繁殖法 一種を播きて繁殖させる。二挿木して繁殖させる。三とり木して繁殖させる。四株分けして繁殖させる。五接木して繁殖させる。

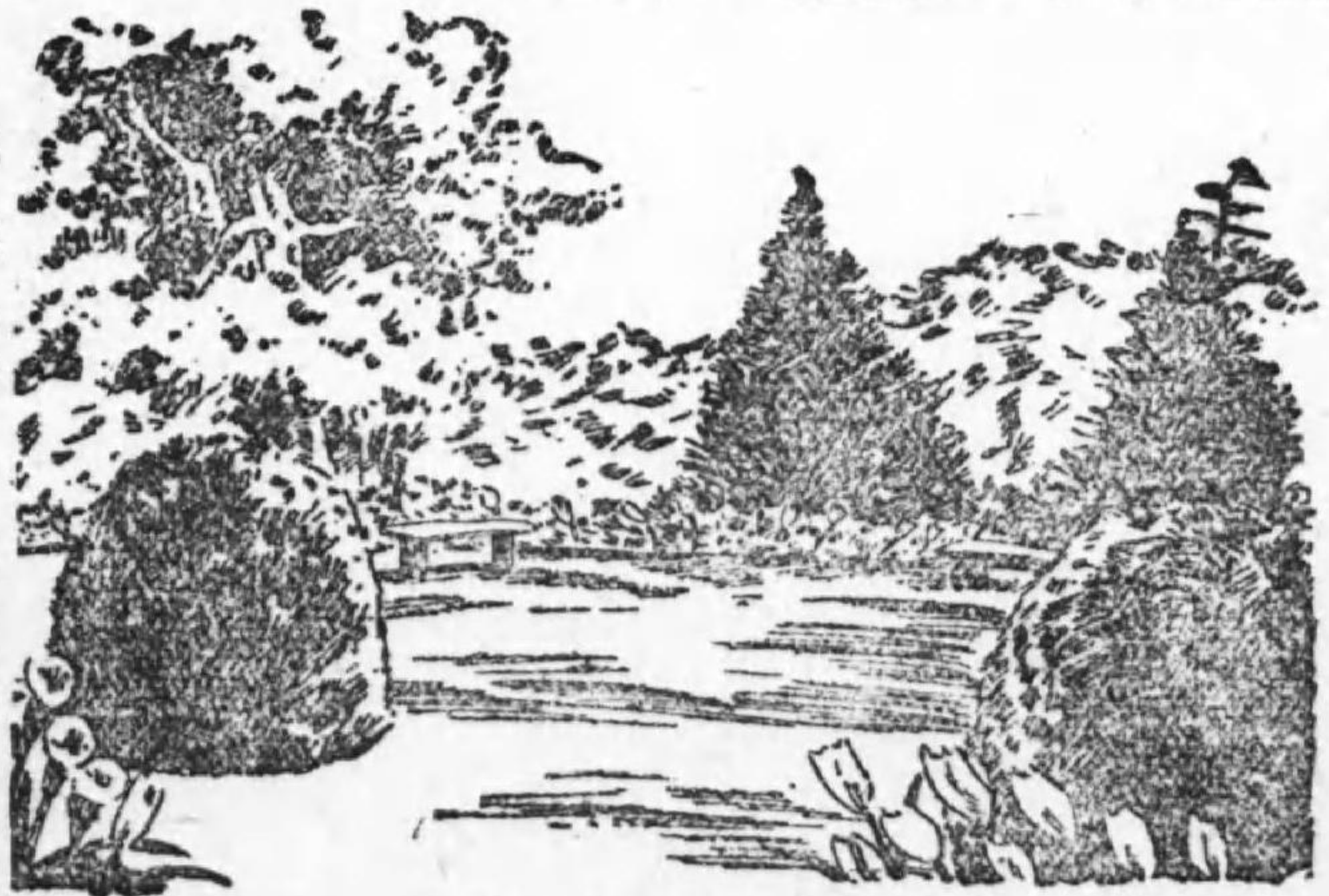
庭樹の植ゑかへ方 落葉樹類、松柏類、灌木類は十月上旬から十一月上旬へかけて、また春は彼岸前後がよい。常緑樹類は樹種によりや季節を異にする。櫻、椿の類は春四五月頃芽の少し發生した頃か秋の十月頃がよろしく、椿、山茶花などは入梅中、また寒氣を恐れるものは、成るべく秋よりも春に植ゑかへるのがよい。

梅、櫻、桃などの大木を植ゑかへるには、秋に根廻して翌春早く枝と根を切り詰めてさらに移植するのが安全である。植ゑ込みは成るべく速に植ゑ込み、根を永く大氣に晒すのはよくない。先づ植ゑる場所に少し大きく穴を掘り、底を平にし根の坐りを能くするため、中央を少し高くする。穴の底の土質が上部の土質より悪ければ、上部の土を入れる。穴が出来たら、樹木の枝や根を適宜に切り詰め、すぐ植ゑ込むのがよい。根は四方に廣げ、八分ほど土を被ひて後樹を少し引き上げ、二三度掘り廻かして残の土を入れ、根元の周囲を踏み付けて固める。そして灌水し、支柱を立て、樹木の動揺を支へるやうにする。

庭樹配置法 小庭は塀、石、盛土、石燈籠、手洗鉢、その他置物を主體として樹木を植ゑそろへる。又前栽即ち屋前の邊には各種の樹木を植ゑ込む。

樹木の種類により夏日の縁陰を目的に植ゑるものもあれば風防けのために植ゑるものもある。それ等はその目的によりよき場所を選んで植ゑるのである。

大木の下に下木を植ゑ、常盤樹の間に花ものを植ゑて、一庭の變化を作るのが最も肝要である。



法置配樹家

の一樹一石の小庭にも、深山幽谷の趣を模倣することが出来る。それが所謂趣味でありまた面白いのであつて、植木屋や

陰樹は日陰に、陽樹は日當の好い場所に植ゑぬと自然に背いて無趣味になる。小庭でも一概に山や谷の風情が寫せぬとは限らぬ。要は部分的にヒントを取るので、僅か二坪か三坪の庭敷前

庭師を頼んでは味へぬ妙味がある。却つて素人作りの庭に、その妙味を造り出すことが出来るのである。なほ樹木の性質と植ゑる場所は、一通り心得て置かねばならぬ。

生垣に植ゑるもの 生垣はそれを庭園の一部として見るものであるから、趣味と美觀とを具へるものを選んで植ゑなければならぬ。即ち

一 地味に適する種類の木を選ぶこと。二 生長の早いものを選ぶこと。三 家屋の品位を助くるものを選ぶこと。四 生垣用の木はその樹種に依りいろいろのものがあつる。左にそれを一通り述べて置く。

イ 植ゑて上品に見えるもの 棠棣、つゝじ、つげ、あすなろなど。
ロ 植ゑて美しく見えるもの かなめ、鎌倉ひば、ねづみもちなど。

ハ 生長の早いもの ひのき、まさき、からたち、杉など。
ニ 丈夫なもの まさき、ひのき、羅漢松など。
其他近來は薔薇を縦横に纏はした洋趣味のものもあるが、これは最も美觀である。

屋前屋後の空地に植ゑる木

- 一月開花 多至梅(紅花)、青木(紅果)
- 二月開花 梅、椿、臘梅(黃花)、迎春花(黃花)
- 三月開花 花桃(紅、白、緋)、椿、木蘭類(白、紫)、花木瓜(紅)、まんさく(黃)、とさみづき(淡黃)、金糸梅(黃)、山茶(黃)、蓮翹(黃)、瑞香花(紅、紫、白)、山吹(黃)
- 四月開花 櫻、紫荊(紅、紫)、ふじもどき(淡紫)、こでまり(白)、花うつぎ(紅、紫)、海棠(淡紅)
- 五月開花 牡丹、つゝじ、棠棣(白)、金雀花(黃)、藤(紫、白)、薔薇(淡紅、白、黃)
- 六月開花 芍薬、さつき、梅子(白)、石楠花(淡紅)、凌霄花(黃楊)、ねむのき(紅)、天女花(白)
- 七月開花 栢樹(紅、紋)、木槿(淡紅、白、淡紫)、紫陽花、がく、夏藤(白)、ぎよりのう(淡紅)、夏椿(白)
- 八月開花 百日紅、夾竹桃(淡紅、白)
- 九月開花 木芙蓉(紅、淡紅、白)、萩(白、淡紅)
- 十月開花 さんごじゆ(紅果)、木犀(白、黃)、うめもどき(紅花)
- 十一月開花 もみぢ、山茶花、にしき木
- 十二月開花 山茶花、やぶこりじ(紅果)、萬兩(紅、黃、白)

果、南天(紅)

配色の好い七種草の植込み(上段七種又は下段七種)

きよやう	紫	きよやう	紫
女郎花	黄	をこへし	白
すみぎ	すはう	みそまば	淡紅
われもかう	赤楊	やくし草	黄
藤袴	紫	くづ	紅紫
つゆくさ	藍	さくらたで	淡紅
はぎ	淡紅	かるかや	白

第七節 洋種の観葉植物

アスパラガス 十一月頃種子を取つて温床内の鉢に蒔いても、春季に古株を分けてもよい。肥料は油粕の腐汁、鉢土は重いのがよい。強い日光にあてぬやうにし、冬季は室内に取り入れて越冬させるのである。

クロトン 夏季に挿木又は取木にする。稍重い土に植ゑ二三年目の春に植ゑかへる。熱帯植物ゆゑ暖所に置くのがよい。

ケンテイア 多期暖所に置けば温室の必要はない。肥料は腐熟した油粕を春秋に根元に施す。二種あつてベルモニアは丈

が低く横にのび、フォルステリアナは勢よく上に成長する。**コリニース** 春季フリューム内又は温室に種子を蒔く。時々變種を生じて興味をひく、六月頃挿木して苗を仕立てよもよい。水肥を與へ日光に充分當てると、葉に色が出てから室内に入れて觀賞することが出来る。

サンセベラ 丈夫な草ゆゑ手入れに世話を要しない。霜にあてさへしなければ、照つても乾いても安全である。葉上の塵を恐れるから時々雑巾で拭ふのがよい。

カラチニウム 三四月頃その球根を暖かい土中に埋め置き、充分根を出させて鉢に植ゑ込む。時々薄い水肥を與へ、常に暖所に置けば葉色とも美しい。晩秋に葉が枯れた時抜き、乾かして暖所に貯へる。

アデアナム 四五月頃根分して繁殖させる。落葉の腐つたやうな土に植ゑ、肥料は油粕の腐汁を薄く水に溶いて與へる。強い風や強い日光に當てるのは良くない。また土の乾く處は避けねばならぬ。

アラウカリア 挿種、挿木、取木いづれにしても繁殖する。鉢に植ゑるのは二年生から五年生までがよい。冬季は室内に取り込む。排水をよくするのが第一で、日當りのよい處、風

通しのよい場所に置かねばならぬ。また水を施すことを忘れぬやうにし、鉢は二三年目の春季に取り代へるのである。

オリヅル蘭 稍や重い土に植ゑ、日當りのよい軒下などに吊す。水気を好むゆゑ常に灌水に注意し、特に夏は乾き過ぎぬやうにせねばならぬ。

フェニックス 多期は温室か暖かい所に入れ、夏は蔭の下に置いて灌水する。これは種子を蒔いて繁殖させる。

ペコニア 冬は暖かい所に取り入れ、夏季も室内に置くやうにすれば、露地で相當の鉢物が出来る。三四月頃鉢植して、其後は灌水に注意を要し、時々薄い水肥を與へる。暖かい時候には挿木でい



アニコベ

すれば、露地で相當の鉢物が出来る。三四月頃鉢植して、其後は灌水に注意を要し、時々薄い水肥を與へる。暖かい時候には挿木でい

くからも繁殖させられる。

カヤツリ草 如何なる場所でも繁殖するが、常に水気の充分にあることが肝要である。暖かい濕り気のある所に種子を蒔くか春季に株分けして繁殖させる。肥料は油粕の腐汁である。

センネン木 冬は温室に、夏は室内に置き、夏季挿木して繁殖

させる。挿木は葉を挿しても根を挿しても何れでもよい。根分や取木にしても殖すことが出来る。肥料は腐熟した油粕汁がよい。

タコノホ バンダナスと云ふのが原名である。灌水は逆へ目にし、春秋二季に水肥を與へる。挿木で繁殖させたり葉を挿して殖すのであるが、これは温



タコノホ

室でなくては成績がよくない。

第八節 温室培養の洋種の草花

アジアナム 葉の形、色気、姿が如何にも好く萬人向のもので、盛花にも花束にも花環にもなくてはならぬ葉である。

ペコニア 花籠の上面を飾るに恰好の草で、葉の色は種々あるが何れも悪くない。

アスパラガス 花籠にも花束にも盛花にも、洋種の花を見る時には是非とも必要の葉である。その繊細で優し味のある趣はたとへやうがなく、また培養にも手がかゝらぬからよい。

イリレプス 温室で培養すれば婦人の髪すちの如く美しい。
カラチユーム 天南星科の植物で、盛花に交へて乙女の如くに
 觀賞される。

ヘテラ 常春藤の如く花籠用や敷花用に用ひる。

ダブルデージー 花は紅と白の二色あり、菊科に属する宿根草
 で培養は難しくない。日本趣味の床の間に福壽草の飾られる
 如く、洋館の新年の飾物を賑はすに恰好の草花である。

カーネーション 舊來の日本の撫子よりは妖艶で作り花の如く
 に美しい。切花として、花物の寂し
 い春の初めから、
 二三月頃の瓶花に
 なくてはならぬ花、
 なくとも形容しがた
 い。平素からこれを
 家庭で培養して置く
 と臨時の入用に極め
 て便利である。



カーネーション



スズシヤヒ

小花瓶に二三本で好い。アムバラでも配して眺める風情は、
 何んとも形容しがた
 い。平素からこれを
 家庭で培養して置く
 と臨時の入用に極め
 て便利である。

以上の外に薔薇、シネラリヤ、カトレア、レリア、オンシ
 チユーム、ヒヤシンス、オキザリス、矢車草、ベルシヤ菊、
 花菱草、フクシア等は家庭で手軽な温室を作つて培養するこ
 とが出来る。

フーパリア は冬の温室に愛らしく咲く花で、紅、白、淡紅
 色など單瓣と重瓣とあり、ボーガス(紅の小花)ラインデス
 ロース(淡紅)、ハンポールデイ(白)など十餘種ある。

プリムラ 十二月頃から春にかけて温室を飾る花で、紅、白、赤
 いろくの花種がある。

ボツヒ 培養には手がかゝらぬが、寒さに逢はさぬやうにす
 るのが骨が折れる。鉢物として部屋を飾るのによい。

レセダ 埃及が原産地であるが、園藝的に改良せられ、野生
 のものが今では立派なものになつて居る。その芳香は日本の
 燻香を焚くなどの比でなく、頗る新し味のある家庭園藝の好
 材料である。

スイトピー 極めて培養しやすい花で、多期は温室で養ひ、春
 は花壇で充分に咲かすことが出来る。

第九節 盆栽培養一覽表

種類	鉢替期	培 養 土	灌 水	水	施 肥	針 金 懸	剪 定
黒 黒	三年に一回位で 最も中期である。	眞土或は赤土の粒(六 分)に炭砂(四分)の土 を用ふ。水はけをよく する。砂許りである。	葉水を喜ぶから、春 から秋まで葉水につ とめる。冬は乾き目 にする。	肥を好まないから 一ヶ月に一回位、水 肥をやつて、秋は玉 肥で育てること。	新芽の伸び切つ た九月頃には四月頃 にかける。	九月頃まで新芽を伸ば して全部基部から切 ると芽吹がよくなる。昔 通には徒長枝を詰める	
松 五	黒松と同一であ るが黒松より、 移植力が強い。	黒松と同じで、眞土だ けでも育つ。	黒松と同じで、葉水 を喜ぶ。	黒松と同一。	新芽のかたまつ た頃。	古葉を取り、徒長して て摘み去る。六葉を 新芽は出るごとに二葉 を一つだけ摘み、買 キとならぬやうにし、 秋に枝を切る。	
樹 楓	春の彼岸前後、 (芽が備へ動き 出して来た頃) 二年に一回。	肥えた眞土、或は少量 の砂を加ふ。	水切れを忌むから、 多水すること。	春から夏の頃まで多 肥した方がよい。	夏の土用(針金 に和紙をまく)	新芽は出るごとに二葉 を一つだけ摘み、買 キとならぬやうにし、 秋に枝を切る。	
月 華	春秋の彼岸、花入 梅期のほか、一年 に一回。	眞土(七八分)に水苔 若しくは山苔(二三分)を 用ひる。少量の眞土を 加へてもよい。腐葉土 (七分)眞土(三分)でも 育つ。	特に葉水を喜ぶから 春から秋へかけて盛 水は少量でよい。	春から夏にかけて、 肥は玉肥の水 だけでよい。	若い枝のかたま る。秋季にかま る。	花後輪生する枝の半數 を間引き、後は摘込に よつて整枝する。	
青年高	春又は秋に一番行 い。五月頃が一回 の鉢替。	御影石の粉、赤土の粒 或は眞土の何れかを 篩ひわけて用ふ。	不連続の過濕を要求す るが、春秋は一日二 回、夏は五、六回、冬 は一回、朝と夕。	油粕又は魚肥の腐汁 を薄くすめて、秋ま で一週間に一回位。	冬の間に軽く紙 で覆く。	枯葉を切りとる。	
蘭	八十八夜(五月 上旬)の頃一年 に一回の鉢替 鉢替を行ふ。	赤土(五分)と、他の土 (五分)赤土(七分)と他 の土(三分)赤土(七分) を混ぜる。他の土は鹿 沼土のことである。	清潔な水を使ふ。春 は一日一回、夏は 一日二回(朝と夕)。	追肥は魚粕の腐汁を 油粕だけで育てる。 すめるのがよい。薄	なし	なし	

石 付及び植替は
六七月の頃がよ

砂(六分)土(四分)を用
ふ。ケト土だけでもい
で植やす場合には砂だけ
で植える。

汲みたての新鮮な冷
水を灌水すること。腐
爛の他は腐葉土を
必要とする。水盤の
取りかへることは
必要である。施肥は
其の

なし

なし

第十節 草花播種便覧

春 播(春植)

ア マ ラ ン タ ン	サ ン グ イ タ リ ア	ニ コ チ ニ ア	ウ オ タ リ リ ア	ア マ ラ ン サ ス	サ ン フ ラ ワ ン	バ シ ス レ ン	バ ル サ ム	コ ス モ	ジ ニ ア	モ ー ニ ン グ ロ ー リ	グ リ サ ン セ マ ム	グ ラ チ オ ラ ス	ダ ー リ オ ラ ス	洋名
鶏 の 目	蛇 の 目	花 の 目	睡 蓮	雁 来	日 向 丹	松 葉 牡丹	鳳 仙 花	秋 櫻	百 草	朝 顔	菊 類	唐 菖 蒲	天 竺 牡丹	和名
實 生	實 生	實 生	實 生	實 生	實 生	實 生	實 生	實 生	實 生	實 生	實 生	實 生	實 生	繁殖法
六月 十一月	七月 十一月	六月 十一月	六月 十一月	七月 十一月	七月 十一月	七月 十一月	六月 十一月	九月 十一月	七月 十一月	七月 十一月	十月 十一月	五月 十一月	六月 十一月	開花期

秋 播(秋植)

グ ロ ー カ ス ネ	ジ バ ニ モ カ ス ネ	フ オ ー ゲ ット ミ ナ ツ	バ オ ー リ オ レ ム ツ	ヴ イ オ レ ム ツ	プ リ オ レ ム ツ	ボ リ オ レ ム ツ	ラ グ ス バ オ	カ ム ビ ン グ ラ ン	カ レ ン ジ ユ ラ	デ レ ン ジ ユ ラ	ツ リ ビ オ ニ ー	リ ビ オ ニ ー	ナ ー リ ビ オ ニ ー	ヒ ヤ シ ツ サ ス	チ ウ リ ツ ブ
花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん	花 さ ふ ら ん
分 球	分 球	分 球	分 球	分 球	分 球	分 球	分 球	分 球	分 球	分 球	分 球	分 球	分 球	分 球	分 球
二月 三月	五月 六月	四月 五月	三月 四月	三月 四月	三月 四月	三月 四月	三月 四月	三月 四月	三月 四月	三月 四月	三月 四月	三月 四月	三月 四月	三月 四月	三月 四月

第二章 飼 養

第一節 実用家兎



家 兎

飼養が簡単で性質が温順であるから、婦人小供の娯楽には趣味と實用をかねて最も面白い。その食物は糞尿の肥料、青草、乾草、根植物の葉類、農家なれば農場の残物など何んでもよい。又とき々齧類を興へるのである。

飼養と管理 放飼と箱飼とあるが大體は箱飼が多い。箱の大きさは普通は長さ二尺六寸、巾一尺、高さ一尺五寸で、前面は鐵格子又は金網張、内面は麻鉛を張るかコイルタール又はビツチを塗る。床は厚板に勾配をつけるか、竹格子をつけて排泄に便する。

分統用の箱は、前のよりも長さを一尺五寸長くし、中間に兎の出入の自由な圓い穴を開けた板を張る。その一室は前面

第二章 飼養

も板張りにして暗い分統室にする。

夏季に用ひる移動箱は、大目の金網か格子で造り、草の生へない場所にそのまゝ移し、草を自由に食はせしめる。

庭飼法は五尺内外の丈夫な圍を造つて飼養し、排水の好い地を選び、一頭一坪の割合で飼育する。

畜 勢 蕃殖以外は生後三四ヶ月で去勢すると肥育し易い。育成は交尾後三十一日で生れ、二週間目に眼を開き、四ヶ月で發情する。蕃殖用には十ヶ月を適當とし、牡一頭に牝六七頭の割合にする。

その品種は肉用種にはベルギー種、バタコニヤ種、毛用種にはアングラ(原産地小亞細亞)、ヒマラヤン(原産地ヒマラヤ地方)、愛用種はロツプアイア(英國産)、オランダ種(和蘭産)などである。

第二節 牡丹インコ

禽舎で飼ふよりは大きい籠で飼ふのが安全で趣味も多い。牡丹インコは飼養して利益が多いといふが、利益よりも家庭娯樂と趣味の方面から飼養したい。その種類は赤と黒とあつて、赤よりも黒の方が羽毛の色がよい。

飼育の注意 夏は涼しく冬は暖かに、絶えず清新の飲水を與へる。秋に入つて輸入された鳥は弱く、夏の初めに輸入されたものが強い。注意して庭籠の空氣の流通をよくし夜は七十度位の温度を保たせねばならぬ。



コニ

にかけて卵を産んだり、巣引きするものであるが、日本で育つた牡丹インコは更に多く巣引する。赤鳥は頭から咽喉まで鮮色で、その他は緑青色を呈し、黒鳥は頭から喉にかけて上は黒褐色、頸に近づくに従つて海老茶色、その他は大抵緑青色で美しい。

第三節 家庭養鶏

良母鶏の資格 性質温順で人間に親みあるもの。羽毛の澤山あるもの。四百匁以上六百匁位の大きさのもの。脚の麗しいもの。熱心に抱卵して度々巣を出ぬものが良種である。健康の見分け方 一鶏舎の戸を明けたとき勢よく戸外に飛び出

すは健康。二他の鶏が勢よく餌を食べるに、獨り食慾もなく元氣もなく見えるのは病鶏。三鶏冠の色が褪せ鮮紅色を失ひ運動不活潑なのは病鶏。四他鶏が戸外に出るに獨り鶏舎に残り止り木から下りぬは不健康。五健康な鶏の鶏冠は鮮紅色を呈し生々とした色澤を保つ。六換羽期は鶏冠の色一體に褪せて形も縮んでゐるが、病鶏とは異り鶏體の肉附きが良く生氣がある。

家庭に適するもの 丈夫で飼育し易い鶏。玉子を多く産む鶏。雑多な粗食に堪へる鶏。寒暑に強い種類。卵の孵化が良く雛の育成の容易な鶏は、家庭養鶏に適してゐる。



鶏の種類 種卵用はレグホーン、ミノルカ、アンダルシヤンなど。卵肉兼用はブリマウスロツク、オーピントン、名古屋コ

イチンなどである。

養鶏の飼料 飲料水は夏は朝と晝と二回汲みたての清水を日蔭で與へ、冬は毎朝一回日蔭のよい場所と與へる。

飼料は午前九時と午後二時頃とに與へる。放飼の鶏は隨意に草や草を食するから、運動も出來度も調り、頗る壯健である。換羽期には努めて鶏の好むものや滋養あるものを與へる。この換羽中の手當次第で、産卵の成績に大なる影響がある。魚屑の煮たものと青物は極めて必要である。

強壯劑としては梅雨季に産卵の止つた時や、換羽にかゝつた時には硫酸鐵五匁、酸鐵三グラム、水五合の割合の溶液を一茶匙ぐらゐを水三合の中に入れて與へ、鶏の健康を保たしめる。但し容器は陶磁器に限る。

青菜は鶏の健康に必要なこと想像以上で、青菜のため他の滋養食料も有効に吸収されるのである。木炭は蒸所の炭箱の底の殘粉を、貝殻と交せて鶏舎の内側に置いて與へる。

病鶏の原因 一氣候が極端に寒暑に過ぐる。空氣の甚だしく濕つた時。二時候の急變。三汚れた餌箱で與へ、又不潔な水を給した時。四入梅期の如き氣候の悪い。五一欄内に

餘り多く飼育する場合。六餌料に青物が不足し或は餌の分量が少く、營養不良に陥る場合。

卵の風味と餌料 窒素質を多く含む餌を與へた鶏は、炭水化物を多く含むものを與へた鶏の卵より香氣も味も劣る。

餌食に葱などの香の強いものを與へた鶏の卵は、生では食用に堪えぬ。淡白な餌に青菜の類を充分加へて給し、管理を良くして鶏體の健康を保たしめた鶏の卵は、風味も香氣も共に良いのである。

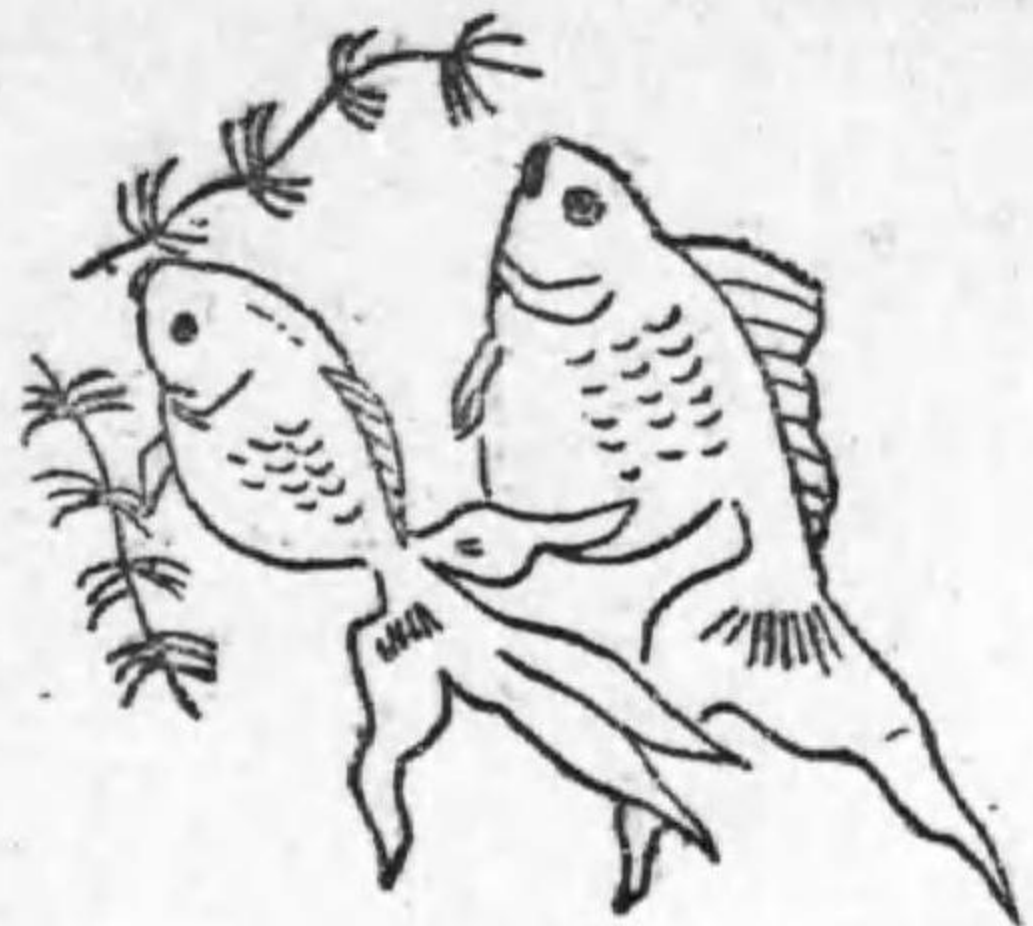
第四節 金魚の良否鑑別法

一仔魚は小さくて手に取ることが出來ぬから、蛤貝の如きものに水と共に汲み取り、朝日に透して見ると、魚影の良否、尾鰭の形状などを明らかにすることが出来る。

二尾鰭ある仔魚の尾は成長するに従ひ割れるが、尾鰭のないものは割れない。尾の左右の丸は小さい方がよく、大きいものは中の突出のみ大きくなり、釣合の悪い魚となる。

三尾先に水色のあるのは尾眞でなく、後に大割れして面白くない。仔魚の時尾先が割れてゐても、後に丸みは缺けて櫻尾と

變る。仔魚の時から成魚の櫻尾のやうなのは大平尾に變る。四尾が大尾に見えるのは、後に丸尾となる。尾眞があれば大尾には見え丸く見え、後に割れて鱗先に變る。五丸尾で尾眞のあるものは、後になつて割れて悪いものとなるのである。



魚 金

六成長して形の大きい魚は鱗付が粗く、頭は大きく胸合は細長く尾は厚く尾筒は細い。總て大きく不相應に見えるものは大抵大魚となる。七小魚は鱗付細く、恰も鱗を塗り付けたやうな體の締つて見えるものは、如何に美事な魚でも年経て種々の病に犯され易い。八成魚にして鱗の浮いた如く見えるものは、如何に美事な魚でも年経て種々の病に犯され易い。九鱗がよく締つて、恰かも塗り付けたやうなのは上魚である。一〇病とは魚に缺けた所のあるものをいひ、上魚とは疵がなく

で完全な容姿をしたものをいふ。琉金も和金も左の如きものを魚の疵とする。

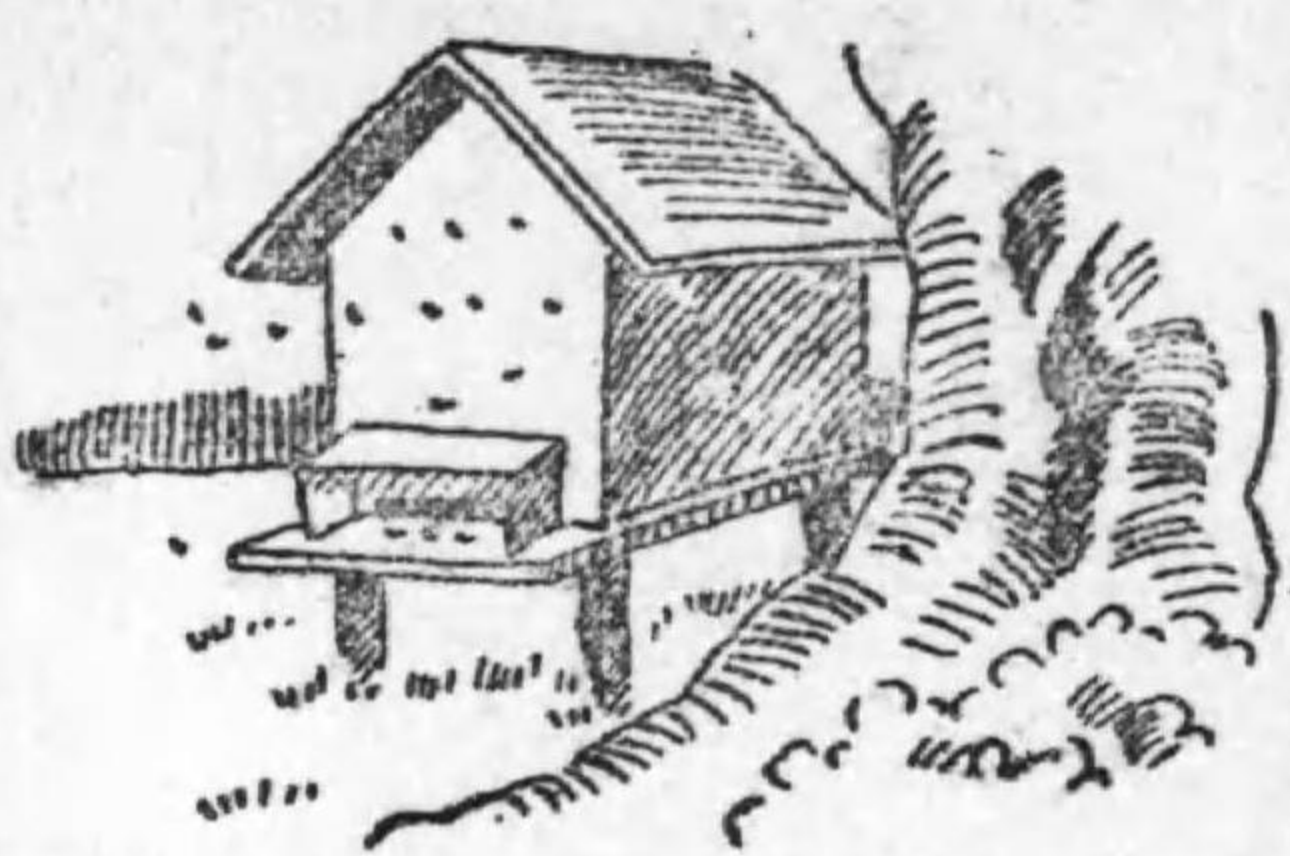
イロびるの廣いもの。口目の大きいもの。ハ頭や體の節立つたもの。ニ口先のとがつた如きもの。ホ背鱗の無いもの。ヘ樹鱗の大に過ぐるもの。ト口先がつまり目が口先に近よつたもの。

一 鱗は溫和で笑ふやうな顔面と悠々迫らざる態度の面白さを賞讃する。體幅は廣く頭は獅子頭の如きが上等品である。二 琉金は強健で、身體の丸い中に長味を持ち、尾筒は太く窮屈に見えず、背は櫛形に曲り、尾付が緩かで能く開いたのが良魚である。三 和金は總身長く、尾筒太く、背鱗が尾筒の近くまであるものを良魚とする。尾眞に曲りなく、能く開いたのは優良魚で性質も強壯である。

第五節 蜜 蜂

昨今のやうに諸資源を節約することが國策の指導方針になつて来ると、動物の飼育もその飼料は、出来るだけ經濟的であることが必要とされるが、その點から蜜蜂の飼育は、全然飼料を

要せず、しかも山野にそのまま棄られてしまふ等の野の花から蜜を集めて、これを國家資源に加へて行くのであるから、資源愛護の點からいつても一つの功績とされてゐる。



蜂 蜜

そればかりでなく時局重要産業には、蜜蜂を必要とするものとして、化粧品の輸入材料を見たり、化粧用品にも露草製造にも缺くべからざるものであり、また菓子類としてその他さまざまの丸薬や食料品の製造には、蜂蜜を必要とするものが、ますます多いのである。

和歌の歴史 花を見て美しい、月を見て清らかだといふ人間の情を、何かの形によつて言葉や文字に現はしたいといふこと

第三章 趣味の文學

第一節 和 歌

和歌の歴史 花を見て美しい、月を見て清らかだといふ人間の情を、何かの形によつて言葉や文字に現はしたいといふこと

から起つたのが歌体譜の始めで、その中で普通三十一文字で言ひ現はしたのが短歌である。歌は何れの時代に盛んになつたかといふに、文學編でも述べたやうに今日傳はつて居る歌集としては、奈良朝時代に出



紀貫之

來た萬葉集を最も古いものとしなければならぬ。この時代には有名な歌仙柿本人丸、山邊赤人等がある。次で平安朝になると勅命に依つて歌を選ばれることとなり、歌道はますます上下に廣まつて、歌人も續々

鎌倉時代は和歌の墮落時代ともいふべきで、和歌は單に形式を尊ぶこととなり、優劣を競ふといふ風があつて技巧のみ走つた。尤もこの間にも源實朝の如き歌人があつて、剛健な一種の歌風を起し、また西行法師などのやさしい美しい歌も現はれた。

南北朝および室町時代に入つては、戦亂相繼ぎ徒らに風月を友とし、和歌に親しむといふことは時代が許さなかつたので、和歌はますます墮落した。この間に在つても藤原定、僧養好など有名な歌人が出てゐる。

徳川時代はその始め戰國時代の後を受け、すべての文藝は寂寞たるものであつたが、後ち國學の勃興につれて、勢を回復し來り、僧養沖、村田春海、加藤千澹、香川景樹など有名な歌人が出た。

明治大正に至つては思想の自由を許すとともに、泰西の文學思想が酒々として入り來り、和歌も大なる影響を受けて混亂の境に陥つたが、我國古來の和歌はさすがに盛んで、上には御歌所を置いて毎年新年御歌始めには、御題を設けて全國の作歌を集め、その中から秀でたのを選んで御前で披露されるやうになつた。その一方にまた新派の歌人が澤山出て、種

々の歌風も起つた。

和歌を作る心 思ふまゝ見たまゝ聞いたまゝを、文字に現はすといふのが眞實の和歌の精神であるから、三十一文字が五十字でも、六十字でも差支へない譯であるが、そこには何でも一定の形式といふものがある。和歌もやはり一定の形式即ち三十一文字の中に、深い深い思ひを歌ひ込むといふことになつたのである。

これは五七五七七の句調は口の上せても語呂がよく、耳に響いて調子がいゝからである。前にも述べた通り和歌の精神は飾らず加へず、情に浮んだまゝを言ひ表はすところに値打があるから、心を先に、言葉を後にといふのが根本である。

歌は自然に出なければならぬ。作るべきものではない。見るもの聞くものにつけ、わが心に感じたことを述べればよいので、思ひを凝らすのはたゞその歌詞の上のことである。言ひ換へれば如何にせば三十一字の中に、この感じを現はすことが出来るかについて思ひを練ることが必要で、如何なる感じを三十一文字の中に現はすべきかといふこと即ち歌を作るのはその本意でない。例へばある事物に接して自から面白いとか、美しいとかいふ感じが起れば、それを詠めば

よいので、かう云ふものに接したらこんな感じが起るだらうなど、自ら起りもせぬものを考へ出して作つたのでは不可ない。即ち風情の流露と云ふことが無くして、歌は生命の無いものとなり、歌んだ歌は生けた花のごとく、作つた歌は造花の如くなつて咲みでも生氣が缺けて居る。

和歌の書法 和歌の書式には四通りある。懐紙、式紙、短冊、詠草がそれである。懐紙とは「たゝみがみ」とも云つて、疊んで懐中したところから起つた名で、昔はいろ／＼と面倒な規則があり、紙も場合々々で違つたものであるが、今日では多く奉書を用ひる。これは一首書くこともあれば、また澤山に書くこともある。普通は題は書かないで、一首なれば五六行に散らして書くのである。三四首までは一つの紙に書いてもよい。

式紙は以前色紙を用ひたから起つた名で、大は縦六寸五分に巾五寸五分、小は縦六寸に巾五寸三分が中古の規則であるが、今日では一定してゐない。書き方にもまた一定したのは無い。たゞ紙に動物や人物の模様があつたら、その處を避けるやうにし、自詠の歌を書いた場合は必ず作者の名を書き入れるのが作法である。

短冊は長さ一尺二寸巾二寸の大きさで、歌を書くには、雲形の有るものは青雲を上とし、紫雲を下とし、金泥など散らしたものは、餘計にあいて居る方を上にすればよい。題は一行または二行に書き、短冊の上の方三分の一を明けて歌を書き入れる。尤も題を書かないときに動物の模様があれば式紙の如くにし、自詠の歌ならば矢張り名を入れる。

詠草は二種あつて正しい儀式に用ひられる。小率書や杉原などを堅に二つに折り、それを五分して、一行に題、その次に名、その次に上の句、その次に下の句と書いて行くのである。折詠草は略式であるから杉原、美濃紙などを横に二つに折り、また堅に四つに折つて、それに自分の名と歌を書き、名の下には上といふ字を書いて、師に添削を乞ふのである。勅詠詠草の書き方 先づ美濃紙か小率書を選び、表を外にして短くなるやうに二つに折り重ね、更にそれを長くなるやうに五つに折つて各欄を同じ巾にする。全體からいへば十に折れてゐる筈である。それで横一寸二分位、縦九寸二分位になるのである。

書き方は右から始めて、先づ第一行には下の方に自分の名を書き、その右下に上といふ字を稍や小さく書く。こゝには

名だけ書くのであつて姓(苗字)を書いてはならぬ。上といふ字は奉つると讀んで、陛下に申上げ奉るといふ意味である。次に第二行目にはやゝ上の方から勅題を書く、それは勅題として發表せられた通りの文字を書くのである。次に第三行目には自分で作つた歌を、初めから五七五だけ書き、次に第四行目に下の七七を書き、第五行目には何も書かない。

さらに裏返して第四行目に自分の現住所と族籍とを書き、その左へ姓名を書く。それを元のやうに五つに折つて封筒へ入れるのである。

封筒に入れる場合には、五つに折つたものを更に短くなるやうに、半分に分らないと入らない。封筒の上には「宮内省御歌所御中」と書き、傍へ詠進歌在中と書くのである。歌などを書く書體はきまつてあないから、どういふ書體で書いても差支へはないわけである。能筆の人ならば、行書、草書、變體假名とりませて面白く書いてよいが、字の達者でない人は漢字は楷書、假名は平假名がよい。無理に崩して書くと讀めなくなるからである。

墨つぎは無論毛筆で書くのであるが、和歌の書き方には墨

つぎといふことが決つてゐるので、これを守らなくても差支はないが、定法通りの墨つぎ法でやると無難である。即ち第一句、第三句、第五句の各々初めて、筆に墨をつけて書き、一句を書く途中で筆に墨をつけ足すのは異法である。

第二節 俳句

俳句の歴史 俳句はもと連歌から起つたもので、俳諧などともいつたが、西山宗因、松尾芭蕉等が現はれて眞の俳句なるものが出来た。殊に芭蕉は廣く日本全國を周遊して俳句を弘め、後世に俳句中興の祖といはるゝに至つたが、俳句が完



其 角

まつたのは芭蕉以後のことである。芭蕉の弟子に十哲といつて十人の大家がある。其角巖雪、許六、

去來、北枝、曾良、野坡、丈草、支考、越人がそれで次いで谷口養村が新たに起りこの道を弘めた。後世芭蕉と養村を俳句界の二聖とするのもこのため、この外に女では加賀の千代が有名である。

明治大正となつて俳句はますます盛んとなつたが、その中心人物は正岡子規である。その頃の大家で虚子、鳴雪、碧梧桐等も、現今なほ我國俳壇の重鎮となつて居る。

俳句の作法 俳句は季節趣味に立脚した十七字の詩である。即ち詩の中で一番短い我國独自の文學で、この中に深い思ひを讀み込むにはよほど言葉の粹を取らねばならず、一言の無駄言をも許さない。そこで言葉は、和歌と比べて餘程自由を許されて居り、一句の中に漢語があつても、俗語が交つてゐても差支へないのである。

季節の季は四季の季、即ち春夏秋冬のことである。例へば春なれば露、春雨、櫻、夏ならば土用、入梅、海水浴、蟬など。秋ならば天の川、野分、紅葉など。冬ならば木枯、炬燵、水鳥などは季節である。俳句は是等の季節を中心にして思想感情を表現する藝術で、夫等の季節の各々が持つてゐるところの生命を、季節趣味といふのである。

俳句は前に述べたやうに五七五を本格としてゐるが、どうしても長くなつたり、短くなつたりする場合は差支へない尤もそこには程度があり、無制限といふのではない。俳句の律格を失はない以上は、ある點までは宥されてゐる。然し俳句の正調は五七五であつて、この約束は一寸窮屈なやうにもとれるが、實は不自由の自由といふ一つの眞理が宿つてゐるのである。

俳句を作るには先づ十七字を並べて見るに限る。十七字の並べ方は五七五に並べるのが普通で、其五七五の何れかに季のものを入れなければならぬ。季題は感るべく手近なものがよく、すぐ眼に觸れるものは實際の感情も動き易く、隨て想像を構へる上にも便宜である。そしてこれを五七五の何れかに据ゑて見るのである。例へば春雨の句を作らうとする場合、春雨の雨、春雨に、春雨、春雨の雨降る等と上にも中にも下にも掘るが、こゝで注意せねばならぬのは「春雨や」の「や」である。この「や」のことを俳句では切字といつてゐる。切字といふのは一句の意味が切れるといふことで、切字によつてその句が一段落をつけるわけである。「や」の外に「けり」「あり」「たり」「れ」「り」「かな」等は何れも切字で殆んど數

隅りないほどである。

然し又時として切字のない句があつて、これも一向差支のないことになつて居る。切字は俳句をたすけるもので、その有無が俳句の生命自體にかゝるはるやうなものではないが、一見切字がないやうに見えるも、實はそれが省略されたり、他のものが切字の代りをしてゐる場合が多いのである。

俳句の練習 初學者は昔からの名句を成るべく多く讀んで頭にに入れて置くことが大切である。さうすれば自然に正しい句が浮んで來るやうになり、その傍ら成るべく法に従つて多く作つて見るやうにすれば、天分に應じて上達するものである。

第三節 川 柳

川柳の歴史 川柳は日本詩歌の一で寶曆、明和の頃柄井川柳が創始したものである。

柄井は江戸時代における前句附の點者であつた。前句附は雑俳の一種で、詳しくいへば前句附合のことである。もと俳諧から發生し、點者即ち宗匠が長句（七七の句）を課題として、短句（七七の句）をつけさせるものと、短句を出して長句を付けさせるものがあつた。

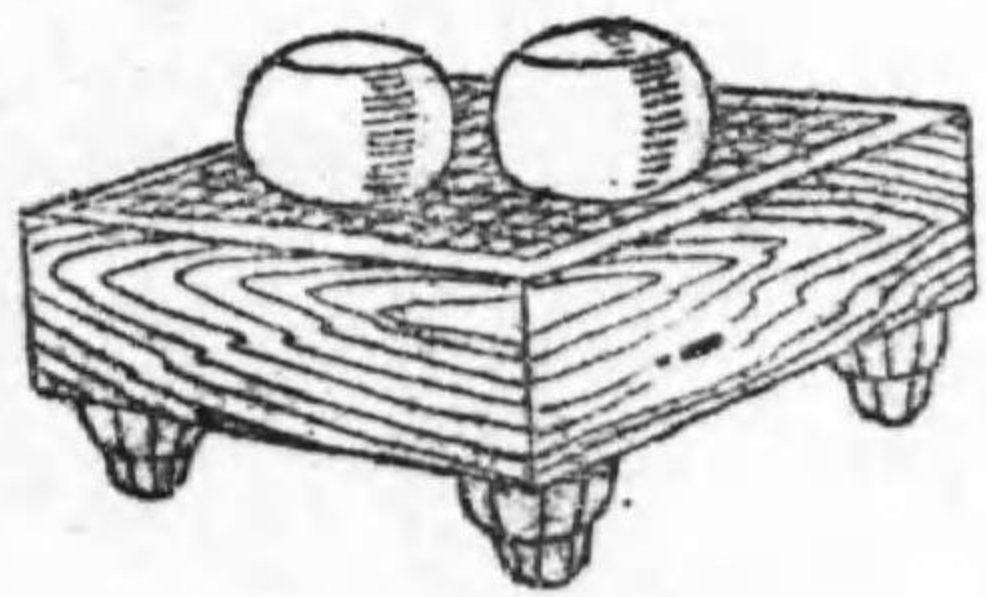
柄井川柳は當時この前句附の選者として重要な地位を占め通稱を入右衛門、號を綠亭または無名庵など、稱し、その選句を川柳點といひ、俳風柳梅の初篇を刊行するに至つて前句附の中から句意を獨立し、諷刺の鋭いものを選んで載せた。これが我國に於ける川柳の起源である。

川柳の作法 柄井の俳風柳梅は毎年一冊づゝ出版され、年と共にこの風が流行して、遂には獨立の詩の一體をなし、これを呼んで川柳と稱したが、川柳の作法は普通に俳句と同じく五七五の三句からなり、切字や季題などの拘束はないが、その最も重んずるところは世態の缺陷を諷し、人生の弱點を刺し諷刺の最も鋭拔な點にあるから、これを作らんとするには、社會や人生の裏面に向つて、鋭い觀察眼を養ふことが大切である。

第四章 室内競技

第一節 圍 碁

碁の由来 碁の由来は詳かでないが、元と支那の時代に創まり、天平年中我國へ傳來したものである。其後徳川幕府



碁盤と碁石

の時、本因坊が古今の名手といはれ、祿を授けられて碁所なるものを設けたが、現今でも東京に方圓社なるものがあつて本因坊の名を存して居る。

碁の用具と方法 碁は人相對して行ふ競勝遊技で、碁盤の線の上に互に黑白の碁石を列べ、相圍み相圍はせて勝負するものである。これを行ふことを「打つ」とも「圍む」ともいつてゐる。碁盤は樞又は公孫樹で造り、方形で縦一尺四寸、横一尺三寸八分、厚さ六寸で上面に縦横各々十九の點を引き、三百六十一の點を作る。碁盤の目は將棋盤の目とは違ひ、縦横の線の交叉した點をいふのである。

目の中央と、上下と左右と、四隅とに各々一個の星がある。これを聖目（井目又は制目）といひ、技の劣つたものと打つには、先づこの九點に石を置き、これを聖目を置くといつて居る。碁は徑七分位で黑白の種あり、普通白は碁師の種、黒は伊那智の種に産する那智黒といふ石で作ри、其數は各々百八十個、即ち

合せて三百六十個である。

圖法の作法 競技するには先づ相対して碁盤に向ひ、技の劣つたものが黒を取り、勝れたものが白を取るの法であるが、同等の者ならば適當の方法で黒を極める。そこで黒の方が先づ石を置くのであるが、其の技の劣つたものは程度によつて競技前に若干目を置く。このことをその置く石の數によつて二目置とか三目置とか、又は聖目を置くとかいふのである。最も初心の者では風鈴といつて、四隅の星の後方に尙ほ一目づゝ置く場合もある。競技の目的とするところは碁盤の地面で、成るべく多くの目を占有するにあり、その占有の多少により勝敗は決するのである。目を占有するといふ意義は相手の石の周圍を隙間なく圍んでこれを殺し、また他の空地を對手よりも早く占有し、對手をしてこれを侵すこと能はざらしむることである。かくして進行するに隨ひ黑白の碁石入れ亂れて、石と石が複雑なる衝突を生ずる。この場合の處分法にカウ、セキ、シテヨウ、ウツテガへなどいふ名稱がある。最後に至れば相手の占有せる目の中に己れの取つた碁石を入れてこれを塞ぎ、残つた目の多少を比較して勝敗を決するのである。技術の巧拙により初段から九段までの階級がある。

第二節 將棋

將棋の由来 將棋は元と支那から傳來した遊技で、後漢の武帝の創めたものだといはれて居るが、當時の方法は今とはつてゐない。現今用ひるものは宗の司馬溫公の作つたもので我國に傳はつたのは何時の頃か明かでないが、後陽成天皇、御代京都の人太極宗桂がこの技に攻みで古今の名手と稱せられ、式一卷を作つた。このものが今に行はれてゐる。その子宗古もまたこの技に攻みであつたといはれる。かく宗桂は將棋の技において、碁の名手本因坊と並び稱せられ共に傑作を賜はり、その家は今に傳はつてゐる。將棋にもその技術により初段から九段までの階級がある。

將棋の用具と方法 先づ將棋盤として縦一尺二寸、横一尺一寸の木盤を作り、表面に縦横各々九行の線を引き、八十一個の目を設け、別に駒(棋子)と名づける小木札を用意し、これに一々王將、金將、銀將、桂馬、香車、飛車、角行、歩兵等の名を記し、王將(一枚は玉將と書く)及び飛車、角行の三種は二枚、金將、銀將、桂馬、香車の四種は四枚、歩兵は十八枚合せて四十枚あり、これを兩分して双方同數同種のり縦に一の目を隔てた目の左右に飛び越す。銀將は左右と直下との三目の外、一目づゝ前後斜の五方に動き、金將は後方斜の二目を除いて、一目づゝ周圍の六方へ動く。王將は周圍へ一目づゝ、八方へ動く定めである。



將棋

駒を列べ、相同ひ勝敗を分つのである。方法を説く前に、先づ駒の役目を述べるならば、歩兵は縦

に動き、一圓に一目づゝ前に進み、後方に退くことはない。角行は斜に動き、其目の數を問はず、飛車は縦横に自由に動き、香車は前に自由に動き、何れも目の數を問はない。桂馬は己の居所よ

王將をして、進退自由ならざるに至らしめた方を勝とし、これにて一回の勝負を終るのである。

第三節 歌加留多

小倉百人一首 この歌は藤原定家卿が、我國古代から鎌倉時代までの名歌を集めたもので、我國各時代の和歌の代表的名歌の精を選び、粹を抜いたものとして、三百年の昔から變らず傳はつて來てゐる。

歌加留多は右の歌の上下を紙札に書き、他に下の句のみ書いた札を作り、これを列べておいて上下の書いてある札を讀んで、下の句の札を取る遊技である。

開技の方法 今日最も盛んに行はれるのが源平組分けの法である。これは多くの人を二組に分け、源平兩氏の戦ひに倣つて取り組みをするもので、場所の規定に役札、御手付等があるが、役札は今日行はれないから御手付だけを述べるならば、競技の場合敵の札に手をかけ、若しそれが間違ひの札であつた場合には、罰として二枚なり三枚なりを貰ふことをいふのである。

加留多を早く取らうとするには、練習の功に俟つの外はな



歌加留多取

それが上手になる譯のものではない。先づ順序として第一に歌を暗記し、次に札の配り方の腕力、取り方と修練を積みまねばならぬ。早取りの法は第

一に歌の暗記にあるが、どんなに暗記してよいかといふに、上の句の初めを一寸讀まれたら、直ちに下の句が頭に浮んで來るまでに暗記するのが最終の目的で「む」と讀まれたら直ちに「鬚立のぼる」の札が頭に浮ぶと同時に、手がそこに行つて居らねばならない。それには矢張り上の句の頭文字の「む」は下の句が何、頭文字の「す」は下の句が何といふやうに暗記するのである。そこで百枚の歌の一枚しかない頭文字が七枚あるので、それを暗記するには「むすめふさはせ」と暗記する。

次に頭文字の同じ札を枚数によつて分つと左の如くなる。

あ十七枚	な八枚	か七枚	お六枚
た六枚	こ六枚	み五枚	よ四枚
は四枚	か四枚	や四枚	い三枚
ち三枚	き三枚	ひ三枚	う二枚
つ二枚	し二枚	ゆ二枚	も二枚

札の配置法はいろいろあるが、その中で敵の乗じがたい、自分では取り易く、分り易いやうに並べるのである。それには一般に行つてゐる配置法を一步擡んで、敵の窺ひ知ることの出來ない方法を考へねばならぬ。次に配置法のいろいろ

を参考のために擧げて見やう。

一上の句の同じ頭字を集めて、それをいろは順或は五十音順に置く法。

二下の句の同じ頭字を集めてそれを右同様の順に列べる法。三百人一首の順序によつて列べる法。

四歌の意味によつて列べる法。五歌を作つた人の種類によつて列べる法。

右の中何れかの方法によつて配列が終つて一應目を通したら、直ちに敵の配置如何を見ねばならぬ。かうして讀み手が上の句二三字を讀んだら、先づ自分の札の中にそれが有るか否かを思ひ、無いと知つたならば、直ちに敵に向つて襲撃の目を放つのである。かうして次第に敵味方の持札が少なくなり、早や三四枚づつにもなつたときは、自己の札を犠牲にしても敵の札を襲ふ方が有利である。勝利は腕力と敏捷にあるビク／＼して自分の札のみに目を注ぎ、攻撃の精神が無いやうでは到底勝算はない。

姿勢は常に中腰になり、手は右方は膝を離して何時でも活動する構へでなくてはならぬ。腰をどつしり下してゐては、敵を襲撃することが出來ず、左手を腰の上に乗せてゐなければ

ば、右手が延びない。體は少し前に屈んでよいが、あまり屈み過ぎて自分の札を隠すのは、醜いのみでなく對手をして不快の感を引き起さしめる。

取り方は札を飛ばすのと、指先で押へるのと二通りあるが心地のよいのは飛ばす方である。然かし之れはやゝもすると敵の陣容を崩すことがあり、敵に迷惑をかける場合が往々あるが、それも熟練すればこんな失策はない。飛ばすには札の右端か左端を指先で押へて跳ねるので、右方の札は右方に、左方の札は左方に、敵手の前にあるものは敵の前に跳ねる。要するに初めから鮮やかに綺麗に取ることを練習し、決して醜味な手つきや醜い取り方をしてはならない。

第四節 花合せ

物合せの一種で、花競べともいふ。多くの人が左右に分れて主として櫻の花を持ち合ひ、番はせてその優劣を競ふものである。第二は各人が花骨牌を合せて取り、其點數によつて勝負を決するもので、轉じてその骨牌をも花合せといつてゐる。遊戯法には八入二すだけし。月見・花見、七短・九州花・猪鹿蝶など種々あつて、最も普通に行はれるのは八々である。八々は

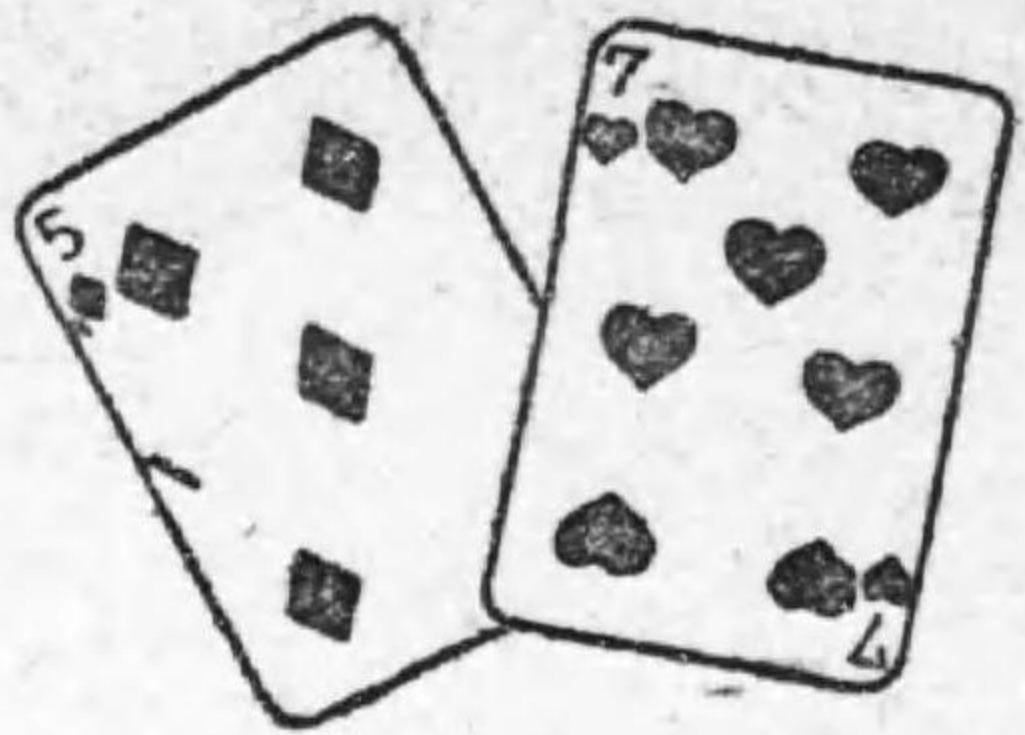


花合せ

各人の點を八十八點とし、これに超えた點を取戻し、足りない差點を損失として計算し、これに手役、出来役などを配した複雑な遊戯であるが、これは花ガルタ中最も面白く最も廣く行はれてゐる。

第五節 トランプ

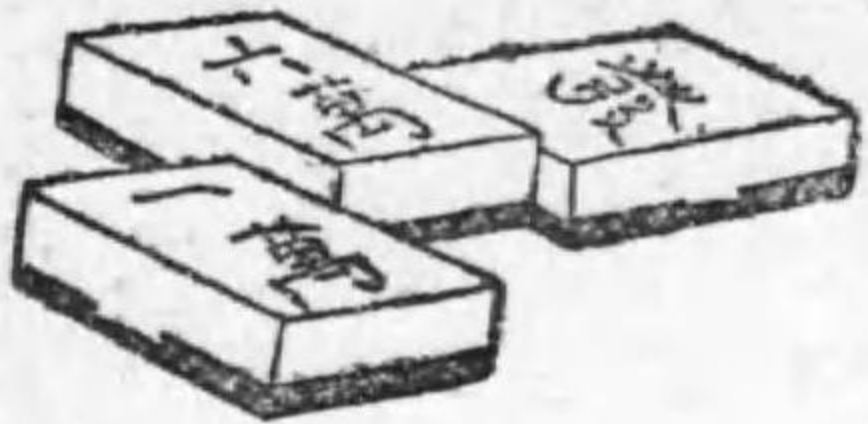
骨牌の一種で、トランプとは元來切札を意味するが、我國では一般にその遊戯又はこれに用ひる札をいふ。起源に就いては諸説あるが、古く東洋に始まり、中世に西洋に傳へられたものであることは疑ひがない。我國にも既に三百年前に傳來したことは、寛永の繪に、遊女がこれを弄ぶ圖のあるによつても明白であるが、其盛に流行するに至つたのは明治以後である。札は四組五十二枚及びジョーカー一枚から成る。四組とは赤色のハート及びダイヤ、黒色のクラブ及びスペード、其各々に十枚の點札(Aから十)と三枚の繪札(キング・クイーン・ジャック)



アンラト

クがある。競技の方法は無數であるが、通常行はれるものに、繪取、二十一、三十一、ツーテン、ジャック、ナポレオン、ポーカー、ダウト、ホイスト、ページワン、ファイヴ、ハンドレッド等がある。

第六節 マージャン



ンヤジーマ

麻雀は支那に發祥した牌技の一種で競技人員は四人を原則とし、用具には牌を用ひる。牌は駒のことで、骨材に諸種の彫刻を施し、竹を以て裏打ちした頗る美術的なもので萬子、筒子、索子、三元四喜の五種百三十六個から成る。夫等の牌を各自が十三個づゝ配り持ち、互に一定の組合せを作つてゆ

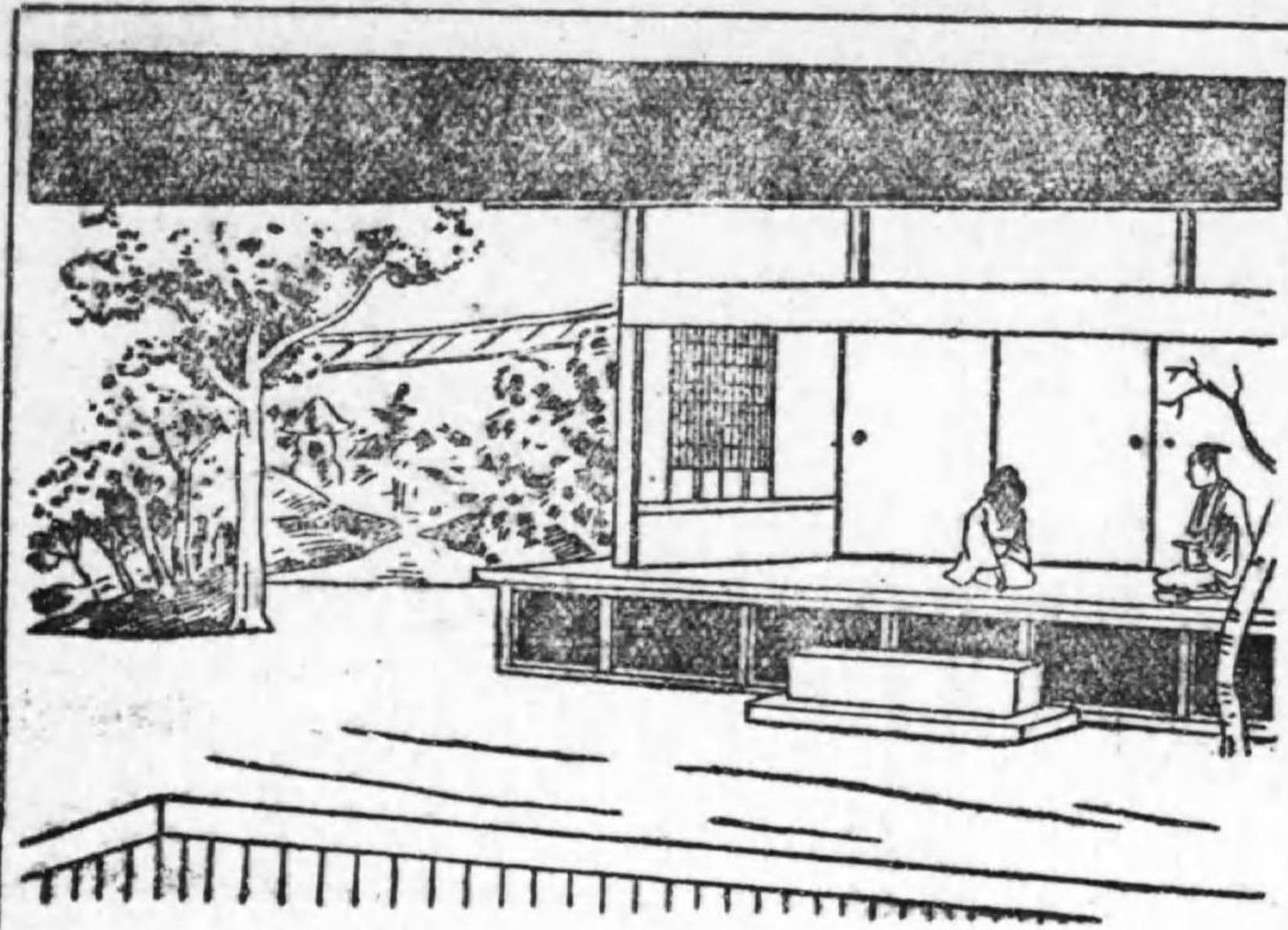
く。完全な形に作り上げたときこれを和了即ち上りといつて、他の三人から得點の支拂を受け一回を終るのである。なほ麻雀用の卓を大和盤子といひ、附屬品として骰子、霧馬、莊子がある。霧馬は得點の授受に用ひ、骰子と莊子は坐席や親を定めるに用ひるのである。

第五章 演 藝

第一節 舊劇とその歴史

我國に於ける演劇の濫觴は、足利時代の末期出雲のお國が演じた女歌舞伎とされてゐるが、この後中絶の形となつてゐたやうである。それを徳川時代の中葉になつて再興し、この末期には市川、尾上、中村、片岡、市村、嵐等の俳優の門流を生じ、多くは一門の師弟を以て一の劇團を組織し一の劇場を經營してゐた。然るに其後一門のみでは世間の感興を引くことが出来なくなつた結果、明治の半頃から合同の開演を見るに至り、今日のやうに幹部組織を現出するやうになつたのである。以前は一日の興行に連續して一つの狂言を演じて居たが、その後目先を變へるため、一日中に時代劇と世話劇との兩狂言を演ずるこ

ととなり、所謂二番物が出来、次でこれにまた舞踊を加へるやうになり、近くは各幹部に主役を演じさせるため、各別の狂言数種を配列するやうになつた。



置装臺舞劇舊

舞臺上の知識としては大體次に掲げる程度のものを心得て置かねばならぬ。

舞臺の名稱 平舞臺といふのはその上に山川の風物が飾られるのであるが、山や岩の作り物を總稱して岩組といひ、また家の場が高さ一尺五寸位に座敷が飾られてあるのを平二重といつて、世話物狂言の舞臺は多くこれである。高二重といふのは高さ三四尺に飾られる屋形とか、御殿の類で、二十四孝の十種香の場などがそれである。セリ上げといふのは先代萩で男之助が出て来るやうに、舞臺の下から上つて来るのをいひ、または舞臺飾りそのまゝを天井に釣ること、例へば羅生門の鬼女が、屋根を破つて逃げるときのやうな場合もいふ。次に廻舞臺は文字通りに舞臺を廻して、別の場面を表はすもので、これに蛇の目廻しといふのがあるが、中央圓形に切られて居る大小二つの舞臺が一つは右廻り、一つは左廻りすること、その様子が蛇の目に似て居るところから来た名稱である。又ダークチェンジ(暗轉)とは舞臺を暗くして變へ

ること。フンデン返しとは廻しもせず暗轉もせず、見物の見えるところで舞臺の仕掛を變へるものである。舞臺の天井を賣の子といつて雪を降らしたり、火の子を落したりする。宙乗りは仕掛で役者が宙にぶら下り、妖怪變化の類には必ず用ひられる。能狂言から生れた狂言、例へば勧進帳などの舞臺のやうに、松の木だけを書いたのみに、何の飾りもないのを本行うつしといひ、その出入口を隠病口といふ。上手の小さな切り戸がそれである。

花道 花道は方角には關係なく、南でも北でも大きい方を東といひ、小さい方を西と呼んで居る。またその間を通ぬる小さい花道(土間の最後の方)を歩みと稱し、今日では洋風になつて花道のなくなつたものも出来て来たが、帝劇のやうな舞臺格好に一本斜について居るものもある。それから花道の出口を向ふ揚幕といひ、此處に腰をかけて開閉などをして居る人を板番といふ。舞臺にも上手揚幕と下手揚幕があつて上手揚幕の上に床があり、下手揚幕の側に下座がある。床は淨瑠璃を語る人のゐるところで、下座の上にもあり、双方かけ合ひでやることもある。また下座とは俗にいふおはやしのゐるところである。花道の七三と云ふのは、揚幕から舞臺

までの距離から増出したもので、舞臺から花道へかけての三分位のところ、即ちよく役者が何もないのに置いたり、見得を切つたりするところである。仁木彈正はその床下から出て来るが、あれをスツポンといつてゐる。

鳴物 娘道成寺のやうに、正面にズラリと唄ひ手が並ぶ舞臺をすべて山臺といふ。長唄、常盤津、清元、新内などの太夫がそれ、山臺に現はれて歌ふのが出語り、淨瑠璃も出語りすることがある。また一中、萩江、關八なども用ひられるが普通は藍である。それから大薩摩は淺黄の幕の外に出て一人は合引に片足を載せて三味線を弾き一人は立つて唄ふ。下座のおはやしは人物の出入りや、風の音、雨の音などを太鼓で聞かせる外に、會話の伴奏格の仕事をする。見得を切つたり、立廻りなどのときに上手で板を打つつけといつて居る。

屋敷 舊劇の俳優は、それ、昔からの傳統で藝名と屋敷を持つてゐる。藝名とは即ち中村歌右衛門とか市川左團次とかの名前をいひ、屋敷とは歌右衛門を成駒屋、左團次を高島屋などといふ例である。

第二節 新劇とその歴史

新劇運動は文學上の自然主義の影響を受け、その主張するところのものを劇の上にも應用しやうとして起つた運動で、昔風の純然たる娯樂本位の芝居ではなく、人生のための眞面目な藝術として観客に訴へ、題材も多くは現代生活に關係の深いあらゆる方面から取り、観客の頭に訴へやうとする傾向を持つてゐる。従つて舞臺もなるべく忠實に、嚴密に人生の實生活を模倣し、從來の不自然な分子は一切排し、舞臺裝置なども徒らに裝飾的な綺麗なものとしなないで、普通の實生活の印象を、出来るだけ観客に與へることを目的としてゐる。殊にこれまでの芝居にあつた如く、單に観客の眼を喜ばすより外に意味のないいろいろの形式や因襲は出来るだけこれを避け、すべての演技を平易な自然なものに改め、在來の束縛を脱した自由なものとしたところに著しい特色がある。この劇の革新運動に最も偉大な効を奏したのは、ノルウェーの文豪ヘンリック・イブセンである。イブセンが一度現はれてこの革新を唱導するや、全世界の劇作家は一として、その影響を蒙らざるはなしといふ勢ひであつた。そして現代生活の諸問題を取扱つた社會劇或ひは思

想劇はいふまでもなく、事件や人物を第一として、たゞ全體の空氣とか気分とかいふものを主とした一幕物、それから神秘的な象徵劇などに至るまで、昔から劇壇に在つた慣習は一掃され破壊し去られ、新時代の藝術としての劇の新興を見るに至つたのである。

然し歐洲に於ても、初めこの劇の革新運動には非常な困難が伴つた。それは元來劇そのものが、群集たる観客を對してする藝術であるために、低級な風俗趣味に左右せられやすく、従つて興行主側も徒らに観客の意圖を顧慮して、大膽な思ひ切つた革新がなかく出来なかつたからである。殊に社會劇などは現代生活の缺陷や、罪惡などを遠慮なく舞臺にさらけ出して、大方の批判を乞はんとするために、當局の檢閲が喧しく禁止の厄に遭ふやうなことが少くなかつた。新劇にはかかる幾多の困難が伴つてゐたのであるが、この困難を排してまづ劇壇の刷新をなしたのは、佛蘭西のアントアンヌであつた。

彼は千八百八十七年初めて巴里の小劇場で、近代の自然主義的作物を上場した。これに次で出來たのが獨逸の「自由劇場」で千八百八十九年柏林でイブセンの「幽霊」と、ハウプトマンの「日の出前」とを上場したが、この「日の出前」を上場した

ときなどは、恐ろしく世間の物議を醸したといふことである。續いて英吉利にも「獨立劇場」といふのが出來、千八百九十一年にイブセンの「幽霊」を上演し、次いでゾラやシオのものの上場した。然かし是等の劇場は、何れも多數の観客を當にすることが出來ないので、會員組織でその勢ひも初めは極めて微々たるものであつたが、その後次第に勢ひを得て今日に至り、この影響は在來の芝居にまで及んで、色々新しい試みを企てさせるに至つた。

我國の劇壇は、永い間歌舞伎劇の獨占するところのものであつた。それが明治二十年頃になつて川上音次郎が現はれ、壯士劇なるものを始め、その素朴な演出が時代の人氣に投じ、一時は旺盛を極めた。これが後にいはゆる新派となつて一種の藝風を生ずるに至つたが、新味を缺いてゐるため、漸く世間に倦きられるに至りあまり振はなくなつた。

この状態に對して演劇刷新の運動が起り、明治三十九年一月「文藝協會」が設立された。これは坪内博士の文藝協會の前身で、最初は大隈侯を會頭とした大仕掛のものであつた。そして同年十一月には坪内逍遙博士の「桐一葉」と新曲「常盤」及び「ベニメの商人」の法廷の場などを歌舞伎座で演じ、當時の劇

壇に大きい刺戟を與へたのであつたが、氣運はまだ至らなかつたためか、それは新劇運動として明かな色彩を演劇史上に留めずに終つた。いはゆる新劇運動が始めてわが演壇に鮮やかな色彩を投げ與へたのは、明治四十二年の十一月起つた自由劇場の第一回公演「イブセン劇」である。これは小山内薫と市川左團次兩氏の協力事業で、同月二十八の兩日有樂座で、イブセンの「ボルクマン」を森鷗外博士の翻譯によつて上演した。この劇は當時の文學青年に非常な深い衝動を與へたとともに、わが國に於ける新劇運動の端緒を開いたものである。その後引續き「新社會劇團」「新時代劇協會」等の劇團が生れ、明治四十四年には坪内博士會頭の「文藝協會」の設立となり、劇界各方面の根本的刷新を趣意とし、公演と同時に俳優の養成に努め、わが國の新劇運動に最も多くの貢獻をしたがこの文藝協會は解散するに至つた。その後藝術座を始め、多くの新劇團が一時に簇出して一般民衆に近代劇の何物かを紹介したが、未だ觀衆の觀賞力が足らず、また是等の劇團の技藝にも多く賞するほどのものもなかつたので、起れば従つて倒れるといふ運命を續けてゐた。

然るに時代と共に思想界、文藝界の躍進に促がされ、劇その

ものも従来のものではあき足らなく感ずるやうになつて、新劇運動は反対の方面より要求され、各種の研究會、劇團が繰出すに至つたのである。かくて一般觀衆の觀賞眼の向上と、演出者の努力と相俟つて、この方面の前途は光明が認められ出して來たが、殊に最近の新劇運動に與つて力のあつたのは、大正十三年六月開場した土方興志、小山内薫氏等によつて成つた築地小劇場で、同劇場が世評に拘泥されることなく、孜孜として新劇の紹介に努めた功は多とすべきである。

製作會社として初めて登場したのは日活と天活の二會社で、日活は向島で女形を使い「新派悲劇」を作る一方、京都の撮影所では尾上松之助が、猿飛佐助の忍術や豪勇荒木又右衛門の大活躍といつた型の舊劇を作つた。

天活も新派と舊劇とを製作したが、日活程には勢力はなかつた。これが大正八九年頃のことであるが、丁度この時天活の外交部にゐた歸山教正が首唱者となつて映畫藝術家協會を設立し新しい純映畫の製作をはじめた。「生の輝き」や「深山の乙女」などが、麻布館や鹽玉館などで公開されたのはこの當時のこと、眞地目なファンや研究者には歓迎されたが、かゝる作品を興行して使用するにはまた早かつたため、この協會も、

經濟的に行詰りを來し、五六の作品を残して解散の已むなきに立ち至つた。
大正九年に松竹キネマ研究所が設立されると、これと前後して天活を買収し、新たに國活が誕生し、井上正夫を招聘して米國の映畫界を視察せしめ、新しい映畫の製作を企圖することになつたが、一方には淺野系の財團を背景として大正活動映畫會社も出現して、新しい映畫の製作に着手した。

これらの中でも特に目立つたものは松竹キネマ研究所で、蒲田撮影所にグラス・スタジオを建て商業映畫を製作すると共に、専心映畫の研究に努力した。小山内薫、田口櫻村、松居松葉、村田實等が盛んに活動したのも當時のことであるが、その中カメラマンの小谷ヘンリーが米國から歸朝したのを迎へて、第一回試作「島の女」を歌舞伎座で公開し、日本映畫改善の烽火を擧げ、これと前後して大活の第一回作品「アマチュア俱樂部」も有樂座で公開され、日本映畫の進むべき道を示した。然かし是等の新しい形式の映畫も、従来の所謂「新派」を驅逐するに至らず、大正十四年に松竹キネマ株式會社が生れて、小山内薫指導の下に「路山の靈魂」や「酒中日記」などの名作を出した頃は、蒲田映畫は立派にその存在價值を認められてゐる

たのである。

かくの如くして日本映畫が民衆の心に深く喰ひ入つて行つた原因の一つは、女優の存在もまた大きな力となつてゐたのである。栗島澄子、岩田祐吉、池田義信監督の映畫が無條件で歡迎されたのは大正十一年頃であつたが、その後五月信子、川田芳子、英百合子等の人氣が絶頂に達した當時の人氣は、今後如何なる女優が現はれるとも、恐らくこれを再現することは不可能であらう。

蒲田映畫全盛時代に野村芳亭が、現代劇を撮ると同じ方法で「女と海賊」といふ橋物を製作し、新時代劇と銘打つて公開したが、この前後から橋物映畫は非常な勢ひで流行し、そのため劍戟俳優の全盛時代を齎したのである。

昔は一齣づゝ染めてゐた着色映畫が進歩して、完全な天然色映畫に成功したのは數年前のこと、自然のままの色彩がそのまま映畫の中に取り入れられることゝなつたが、一方では物をいふ映畫が登場して、映畫も平面的から立體的へと移つて行つたのである。

この時に當つて喜劇の隆盛は、觀客の方でも肩の癢らぬものとして受け容れられ、一方には少青年學生等の喝仰の的とな

つたレヴュー劇が、俄然として擡頭して來た。

喜劇 西洋劇には笑劇、喜劇等が昔からあつたが、日本で喜劇の流行を見たのは最近のことである。尤も大阪にニワカと稱するものは昔からあつたが、他愛もない舊劇の所謂操りに過ぎず、藝術的價値を見出すことは出来なかつたのである。

それを立派なものとしたのは曾我廼家十郎、同五郎、續いて五九郎、五一郎などの功である。そのため喜劇といへば曾我廼家を聯想せしめる程の地盤を彼等は築き上げたが、今は故人となつた十郎の恬淡洒脱と對照して、五郎一派の濃厚珍妙な藝風が、今では觀客を吸収してゐる。

レヴュー 金子洋文や漢興太平等によつてレヴューが正式に計畫されたのは大正八年頃であつた。その後高田雅夫が本郷座に立脚つて、ヴォードヴィルを演じたこともあつたが、高田の洋行によつて頓挫した。それ以前淺草の金龍館等で公然とレヴューと稱してコミック・オペラを演じたこともあり、帝座の女優團ではまた益田太郎冠者の原作で、レヴュー式の喜劇を上演して好評を博したこともあつた。

その後松竹樂劇部のレヴューが進出して來たが、大阪寶塚の少女歌劇では、それより前に既に第一歩を踏み出してゐた

即ち「モン・パリ」や「春の踊」などは、我國レヴュー界に前途の光明を與へたもので、中でも「モン・パリ」の人氣は二ヶ月打ち續け、東京でまで公演し、それを更に大阪に歸つてからも演じ續けた程であつた。

これと前後して淺草の水族館に「カジノ・ド・フォーリー」スといふ、本場物そのまゝな名をつけた純然たるレヴュー専門の興行物も出來たが、これはレヴューといふよりは、寧ろヅラエテイで、芝居も舞臺もオーケストラも、悉く尖端的なエロ趣味を狙つた卑しい、妙なナンセンスな、頹廢的なものであつたが、これが現代人の趣向に投じたものか、文壇人の中からカジノ禮讃の聲が高まり、内容に適しない世評を受けたりした。

その後、ペ・ダンサントや、新時代の喜劇として、大衆に壓倒的に歡迎されたエノケンの「ジェル・ブリアント」などが淺草で演出し、新宿にまでレヴュー専門のものが現はれ、日比谷にも亦レヴュー専門の東京寶塚劇場さへ開場されるに至つたのである。

第三節 舞 踊

我國の舞踊には多くの流派があつて各々その新を競ひ華を争つてゐるが、その中家元と稱せられるのは柏木齋門(柏木流)澤村香之齋(澤村流)志賀山勢次(志賀山流)中村福助(中村流)七扇小橋(七扇流)西川扇藏(西川流)片山春子(井上流)西川喜洲(正流西川流)市山七十世(市山流)花柳舞輪(花柳流)阪東三津五郎(阪東流)藤間勘齋(藤間流)藤村鶴吉(藤村流)松島金昇(松島流)山村ツネ(山村流)若柳吉藏(若柳流)藤間勘齋、藤間勘十郎、西川喜代春、花柳芳次郎、若柳吉兵衛等である。

我國の新舞踊 最近に至つて、わが國在來の舞踊に新工夫を加へた所謂新舞踊の運動が勃興して來たが、その最も代表的ともいふべきものに、田邊尚雄氏の唱導せる「家庭舞踊」がある。これは興味あること、人格本位なること、世界的思想に離れぬことの三條件を以て考察せられたもので、理想的ともいふべきものである。そしてこの風潮は舞臺藝術にも影響を及ぼし、市川猿之助の主宰した春秋座、中村福助を中心とした羽衣會、尾上菊五郎を盟主とした藤間會等が起り、各々その獨特の新境地を拓くことに努力した。この外花柳舞輪會、從來家庭心に新舞踊の研究を目的とした花柳舞輪研究會、從來家庭



外に置かれた邦樂及び日本舞踊を、家庭の娛樂とする目的を以て組織された扶多葉會なども現はれた。

現今新舞踊家として有名な者は吾妻春枝、九貴麗子、駒井滿壽野、清水和歌、中村小虎、西崎緑、花柳壽美、花柳球美、花柳壽二郎、花柳徳藤、林むき子、藤間靜枝、藤間與志恵、與世山彦志、栗島すみ子等である。

地方の舞踊 我國には昔から地方特有の踊りがある。夏の夜など所謂ローカル・ソングに連れて踊る盆踊りなどは、その代

表的なものであらう。然かしこれには卓俗的なところがあつて禁止されたり、自然に頽れたりしつつあつたが、傳統藝術としては是等の中から所謂新らし味を出し、時代に適合せしめんとする傾向を生じ、最近では地方に於ける一種の新興藝術として注目されるに至つた。

西歐の舞踊の種類 西歐のダンスにはステイジ・ダンスと、ソシアル・ダンスの二種類がある。ステイジ・ダンスとは文字上からいつても、その表現の上からいつても純然たる舞臺にかゝる踊りで、わが國の所作に當つてゐる。その表現は言語の意思「白鳥」などがそれで、この最も組織的に研究され發達を促したものは露西亞の帝室舞踊であつた。古代から西歐各國に傳はるものは多くはこれで、彼のスペイン舞踊とか、エチプト舞踊なども皆この部類に屬してゐる。次にソシアル・ダンス(社交舞踏)は、男女一組づゝ音楽に連れて踊るもので、これは外から來た感じを形に現はすに在る。その起源はコロンブスの亞米利加發見によつて、土人の踊りから暗示を得て次第

に發達したものといはれてゐる。歐米では社交上なくてはならないものであるが、わが國では時々問題を起しその筋の取締などを仰いで居る有様である。以上の外體育ダンスがあるがこれはダンスの形をかりて體育に資するため、前二者と自からその趣を異にしてゐる。

社交ダンス 社交ダンスは米國ではソシアル・ダンスといつて



ムンダ

あるが、英國ではボールドン・ダンスである。前にも述べたやうに音楽によつて得た快感を、秩序的な形に現はして踊るもので、どこまでも優美でなければならぬことになつてゐる。そして踊るときには「男子が導き女子が従ふ」といふことが

性質とされてゐる。社交ダンスは音楽のタイムの強弱により、次の通りに類別されてゐる。ワン・ステップ、二フォックストロット、三ワルツ、四タンゴ。
以上の型は基本のものを除いては、季節によつて流行があるから簡単に説明するわけにゆかぬ。殊にタンゴの如きは、タイムのとり方が非常に複雑で、練習もなかく難かしく、従つて特殊の人以外には、餘りこれをよくする人は少ない。

わが國へ西歐のダンスがはいつたのは、明治の初年西洋崇拜熱や、歐化主義の最も旺んであつた鹿鳴館時代である。鹿鳴館といふのは、今の華族會館のこと、こゝで内外朝野の貴族紳士、淑女が連夜踊り狂つたことは今も有名である。明治二十年最後の鹿鳴館の假裝舞踏會には故伊藤公や、大山元帥や、山縣公などが田舎芝居の役者と間違へられるやうな假裝をして踊り狂ひ、茶目を取りを盡したといふ話題が今に残つてゐるが、その後は全く下火となつて振はなかつた。然るに歐洲大戦後西洋思想の輸入と洋樂の勃興に伴ひ、大正九年頃より再びその流行を來

し、大都市は勿論到處にその風をなした。その後大正十三年には米國の排日法案が成るに及び、帝國ホテル舞踏場に壯士の亂入事件があつて、一時その氣勢を殺されたが又々復興し、學生階級や家庭人の間にも盛んに行はれるやうになつたが、最近支那事變を契機として日本精神の作興が叫ばれるに至りダンスにも再び涸落の秋がめぐり、東京市などでは殆ど禁止にも等しい嚴重な取締りの下に置かれることゝなつた。

第四節 謡ひと能樂

謡ひ 能樂に合せて用ひられる歌曲で謡曲ともいはれてゐるが、單獨にも謡ふこともある。これを素謡といひ、一番の謡曲のうち短い一節だけを謡ふのを小謡といふ。又別に一段きりの文句で、殊に節おもしろく緩急巧みに獨吟する曲を亂曲、亂曲などと言つてゐる。謡曲の起源は詳かでないが足利義滿の時阿彌、世阿彌の父子が出で、從來の猿樂の能に田樂、曲舞の舞曲を折衷し、始めてこれを完成したものといはれ、將軍家の式樂にも用ひられるに至つた。爾來異常の流行をなし、今日に傳はれるものは數百番の多きに達するが、普通行はれるものは内外二百番と稱せられる。流派に觀世、寶生、金春、金剛、喜多の五流がある。内外二百番といふの

は五流それらに用ひる曲數の概算で、常に近く謡ひ舞ふものを内とし、稍や遠いのを外とする。甲流で内なのが乙流で外であることがあり、甲流に在つて乙流にないものもあり、又流派によつて名稱を異にするものもある。

能樂の起源は幾多の議論もあるが、往古の申樂から新猿樂に移り、漸次成長して來たものであることは疑ひない。當時の申樂は曲藝的なもの、滑稽的なものを主とし、歌謡風な能樂が挿入されてゐたもので鎌倉時代、足利時代を経てその能樂が發達し、今日の能樂となり、滑稽的な方面が残つて今日の狂言となつたと見るのが妥當である。殊に足利義政がこれを好み奨励した際に、觀阿彌、世阿彌の父子が出で、これを完成し、豊臣秀吉もこれを好み、家臣に新作を作らせ或は自から演ずるなどのファンであつたが、徳川幕府になつては能樂を武家の式樂と定め觀世、寶生、金春、金剛の四流家元および囃子方などに祿を給し（喜多はその後に起る）これを奨励したので、各大名も争つて能役者を扶持し、これらの保護を受けて約三百年、幾多の名人名手によつて洗練を經、今日のやうな一大藝術を産み出したもので、幕府瓦解後は一時衰微の危機に瀕したが、岩倉公その他の熱心な奨励で

漸次復興し、遂に今日の全盛を見るに至つた。

第五節 映 畫

映畫界の發達 今日民衆娛樂として最も隆盛を極めてゐるものは活動寫眞である。元來映畫は舞臺劇に比してその普及範圍が非常に廣く、例へば米國で製作せられた映畫は、米國全土に公開せられると同時に全世界にわたつて公開せられ、獨逸で製作された映畫も伊太利、佛蘭西で製作せられた映畫も、同様全世界にわたつて公開せられてゐる。従つてそれを見る人の數は、舞臺劇の觀客の數に比して遙かに多い。民衆藝術とは最も低廉な料金によつて、大多數の觀客に鑑賞せしめやうとするものゝことで、この意味からいつても映畫劇は、最も理想的な民衆藝術乃至民衆娛樂である。

我國へ初めて映畫が輸入されたのは、明治二十九年の末米國人エチソン翁の發明した覗眼鏡（キネトスコープ）が、神戸の神港俱樂部で紹介され、次で神田の川上座、花屋敷等で觀覽に供されたが、あまり人氣を博さなかつたやうである。然るに同年十二月柳引弓人が、初めて衆人の觀覽の出来るヴァイタスコープのフィルム及び機械を携へて來て、これを京橋の荒井商會の樓上で試寫し、次で歌舞伎座、錦舞館等に公

開して頗る高價な入場料を徴したが非常な人氣を集中した。この時十文字大元がその映畫の説明を試みた。これが所謂わが國の活寫の初めである。

明治三十一年四月、大阪天満座に於て初めて日本物の映畫が觀覽に供された。それから翌々三十三年には回向院の春場所を撮影し、神田の錦舞館で映寫して成功した。爾來漸く純日本人の撮影が行はれるやうになり、同年末には九代目團十郎、五代目菊五郎の紅葉狩がフィルムに收められた。

明治三十五年頃に至り錦舞館以外の劇場、寄席、練日の掛小屋等現るところに興行を見るやうになり、遂に三十六年十月には淺草公園第六區に於ける、電気仕掛の見世物小屋電氣館が率先して、活動寫眞常設館を呼號して頗る人氣に投じた。それから日露戰役の後漸く流行を來し、東京においては觀工場は三友館、珍世界は富士館、都踊の女芝居はオペラ館、パノラマは帝國館、青木玉乘は大勝館等何れも活動寫眞の常設館と化し、淺草公園は全國活動寫眞興行界の中心を成すに至り、今日の情況の基をなしたものである。映畫の撮影がわが國に行はれるやうになつたのは、明治四十一年頃からのことで、京都の横田商會、横濱の梅屋庄吉が相繼

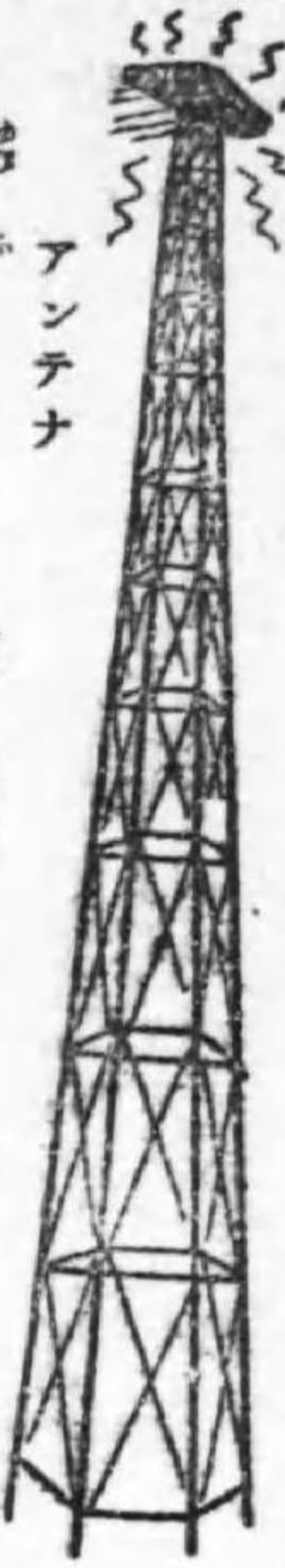
立して映寫に、攝影に激烈な競争を試み、同四十二年には福寶堂が株式組織で設立され、東京市内數ヶ所に常設館を建て、是等二社に對抗したが大正元年に至つて合同し、その後また數ばくもなくして再び分離してしまつた。

フィルムの變遷と映畫の應用 明治三十一年希土戰爭の映畫が輸入せられたのがわが國に於ける最初の戰爭寫眞である。尤で米西戰爭、南阿戰爭、北清事變等の映畫が現はれ、戰爭物は可なり隆盛を極めた。これに次では魔術物の時代で日露戰爭が起つてからは半ば製作物であつたが、わが軍出征の状況を映寫して非常な喝采を博した。この日露戰爭の寫眞は我が實寫物の發展を促し、同時に魔術的氣分も漸く加味せられて、所謂文藝活動寫眞なるものが出るに至つた。又一時流行した連續劇は、明治四十三年淺草オペラ館に興行せられたのが始めて當時は相當人氣を博した。かくて活動寫眞を或種の宣傳に利用することは、明治四十二年神田に教育活動寫眞館を開催したに始まり、大正六七年頃から大いにその範圍が擴大され、その後各方面に利用の途が開かれ、今日に於ては教育用にも應用せられ、且また重要な民衆娛樂機關となるに至り、將に映畫萬能時代が開關されるに至つたのである。

第六章 ラヂオ

ラヂオは今日では全國に普遍してゐるから、別段珍らしいといふ程のものではないが、何故聞えるかと原理を訊かれたら、それに對して立どころに答へる人は甚だ少い。電 流 靜かに澄んだ池の中へ小石を一つ投げ込むと、投げ込んだ點を中心として環狀の漣が生ずる。そしてその波紋

は次第に四方に響がって行く。また強く強く張られた細い線



に指を觸れると、その線は振動して空気を振はせ音波を生じ
そして遠く響がって行く。このやうに波を運ぶして運動の傳は
ることを波動といふのである。今假りに池の中へ小さな木片
を浮べて置くと、その木片は波の波動に従つて上下に動く
と同様に又音の波は吾々の耳の鼓膜を靜かに振はせて音を感じ
せしめる。ラヂオの作用もこれによく似てゐて、ある空中線
に振動電流を生ずると、そこを中心として電氣の波が生れ、
その波は上下四方に傳はつて響がって行くが、別のところに
高く空中線を立て置くと、電波はこれにぶつかつて空中線
に電流を誘發する。これを何かの方法で檢波すれば、電波の
來たことを知ることが出来るのである。

質 波紋が擴がるのを見てみると水が移動して次第に進
んで行くやうに思はれるが、實際はさうではなくたゞ波動が
傳はつて行くだけで水そのものは僅かに上下し、殆んど元の
位置より動かない。音波の場合でも空氣は振動を傳へるだけ

で、空氣が飛んで來て人の耳へ入るのではない。即ちこの水
とか空氣とか媒介となつて波動を傳へるので、このやうな
波動を傳へる媒介物を媒質といつてゐる。

電波の波動を傳へるのにも、何か媒質がなければならぬが
それを次のやうに説明されてゐる。即ち宇宙間には到るところ
に目に見えない色も味も臭ひもない、極めて弾性率が大き
くして、密度の頗る小さいエーテルが流つてゐて、それが電
波の媒介をする。光も熱も電波と同じやうにこのエーテル波
で、その波動によつて傳はるものである。例へば地上の物は
太陽から熱や光を受けてゐるが、この光や熱が太陽から離れ
て遠い地球の上まで傳はるには、何かその間に媒介物がなく
てはならぬ。その媒介物は音波の場合には空氣であるが、光
や熱の場合には空氣ではない。なぜならば光や熱は空氣のな
い眞空中をも傳はつてくからである。即ち眞空を通して光
を見る事が出来るし、熱をも感じる事が出来る。空氣の
あるのは地球の表面二百里ぐらゐで、太陽から地球までの殆
んど部分は空氣の存在しないところである。手近かな例を
挙げるならば、ラヂオに使ふ眞空管は殆んど殘留した空氣の
ない完全な眞空を通して、光も出れば熱も傳へられるので

はない。これは明らかに光や熱の媒質は空氣でなく、眞空中
にも存在するエーテルであることを證明してゐる。

エーテル波 電波もこの光や熱と同じく、エーテルを媒質とす
るエーテル波である。光、熱、電波と、まるで違つた性質の
ものに思はれるやうにするには、その波動が振動する數、即ち
波の長さが違つてゐるためである。

電波の波長は〇・四兆より三萬米、振動數にして一秒間に
七十五億より一萬位までのエーテル波をいふので、三萬米
以上なれば電波ではなく、又〇・四兆以下になつても早や電
波ではない。それは熱の波でさらに波長が短くなれば、即ち
振動が多くなれば熱を超えて光波となるのである。X光線な
どは最も振動數の多い波で、これを波長にするに一兆の億分
の一といふやうな極めて短かいものになる。

同じ光波でも振動數によつて色がちがつて來て夕立後の空
に懸る虹の七色も、この振動數の多少によつて行儀よく配列
せられるのである。振動數の一番少い赤が最初で、順次に振
動數を増して最後の紫が一番多く、一秒間に一億を七百
四十萬倍したほどの驚くべき振動數になるのである。

いふが、空氣を媒質とする音波の傳波速度は、毎秒三百三十
米、即ち三町三間餘であるが、エーテルを媒質とする光、熱
電波の傳はる速さは毎秒三億米、即ち七萬六千里で、丁度
地球を七回半廻るやうな速さである。

傳播速度はその媒質の弾性率の平方根に比例し、密度の平
方根に逆比例するものであるから、前に述べたやうにエーテ
ルは非常に弾性率が大きく密度が小さいため、かゝる速方ま
で傳播するのである。若し電波が音波のやうに、歩みの遅い
空氣を媒質とするものであつたなら、放送局での時報を三町
離れて聽いてゐる市中人には、一秒の後に一里離れて聽いて
ゐる郊外の家には十二秒遅れて、五十里の田舎の聽取者には
十分間の後聞えることになり甚だ不都合となるが、幸ひに速
度の早いエーテル波であるから數千里彼方の地に於て、半秒
の誤差なしに時間を合せる事が出来るのである。

振動電流 振動電流といふのは、一秒間少くとも數萬回以上そ
の流れる方向を變へるところの電流をいふのである。電流に
は直流と交流とがあつて、直流とは電池からの電流のやうに
常にプラス陽極からマイナス陰極に向つて流れる電流のこと
であり、交流とは交互にその方向を變へる電流で、或る一つ

の方向に電流が流れ始めて、それが次第に増し、或る一定の値に達してから減り始め遂に零となり、次に方向を換へて流れ始め、次第に一定値に達して減つて零となるやうなのをいふ。普通電燈に用ひられてゐるのは交流である。振動電流も亦一種の交流で、普通の交流は一秒間に數十乃至数百回その方向を変化するものをいふが、振動電流とはその変化が非常に早く、一秒間に數萬以上のものに名けるのである。この振動電流を空中線に與へると、空中線よりはこれと同じ振動電流をもつた電波となつて發射される。

波 長 波動が完全なる一振動をする間に進んだ距離を波長といふ。水波に於いて隣り合つた波紋の頂と頂、谷と谷、または一つの山と他の一つの谷を合せた長さが波長である。電波も全くこれと同じく波長が三百七十五米とか、一キロとかいふのは、一振動に傳播する距離のことである。電波はエーテルを媒質とするエーテル波であるから、振動數や波長にかゝらば一秒間に傳はる速度は三億米である。そこで例へば振動數が百萬サイクルの電波は、三億米に進む間に百萬遍振動する距離、即ち波長は三億米を百萬で割つた三百米がそれである。また逆に百萬米進む毎に一振

動するから、一秒間に進む三億米を波長で割つた百萬がその振動數になる譯である。それで短い波長の電波とは、振動數の多い電波のことで、振動數の少い電波とは長い波長の電波のことである。即ち電播速度の三億米を波長で割つたものが振動數、振動數で割つたものが波長、波長と振動數を掛け合したものが傳播速度である。

以上で大體電波の擧がることは説明したから、次に受信機を備付けて放送を聞くことを述べやう。普通は真空管を用ひる受信機を用意する。簡單なのは真空管一個を用ひる單球式受信機であるが、真空管三個五個あるひは夫れ以上用ひる受信機もあり、その個數によつて單球式、二球式、三球式等といふ。真空管の數が増せば、それだけ受信機の働きが力強くなるのは理の當然である。空中線の水平部は、餘り長く張り渡すには及ばない。おほよそ三四十尺もあれば充分で、高さは三十尺以上出来るだけ高い方がよい。聴き終つたら真空管をソケットから抜いて置き真空管は聴くときだけ挿し込んで置くべきもので、若し挿し放しにして置くと電池は消耗され真空管も悪くなるから、聴取せぬ時は受信機のスイッチを切り、ソケットから真空管を抜いて置くのである。

第六編 書翰文の作り方

第一章 手紙文作法

第一節 手紙文一般の心得

書翰の一般作法については、前にも既に述べた通りであるがこゝでは更に女性の書翰を本題として、手紙はその内容をどういふ風に書けばよいかといふことを説明して見やう。

一般に女性に限らず男性でも、立派な手紙を書くといふことは難かしいもので、どうも巧く書けないといふ嘆聲をよく聞くが、實際はそんなに難かしいものではない。それを難かしく考へるのは、要するに手紙を書くコツを知らないこと、自分の本心を曲げてまでも、成るべく美しい手紙をこしらへやうと考へるからである。

手紙の目的とするところは、自分の意思を正しく先方に通ずる點にあるのだから、先づ虚飾虚禮を去り、ありのままの素直な心持で、自分と先方の人の關係を充分考へた上、どういふ

風に物をいふべきかを先づ定め、思ふ通りのことを有りのまゝに書けばいゝのである。さうすれば自分のいひたいことも、心持もすべてが、その一本の手紙の中にこもり、そのまま先方の人にハッキリと受入れられるに違ひないのである。

尤も思ふ通りのことを有りのまゝに書くといつても、一番間違ひのないことは、いかなる人に對しても、その人を尊敬した心持で書かなくてはならぬ。さうすれば自然に禮儀も正しくなり、言葉づかひにも注意することになつて、正しく美しい手紙が書ける譯である。

その次に大切なのは、要件をハッキリせしめるため、自分の述べやうと思ふ事柄については、行き届いた注意を拂ひ、しかも無駄のないやうに書かなくてはならぬ。いくら行き届くのが大切だからと言つて、あれもこれもと細大もらさず、隅から隅まであらゆる事を書き並べることになると、いかに筆の達者なものでも、主客が顛倒したり、首尾が混亂したりして、終には主要な要件が何であるか、讀む者をして當惑せしめることになるであらう。

「これでは行届いてはゐるが無駄の多いものとなり、所謂過ぎたるは及ばざるが如き」、拙い手紙となつてしまふのである。

例を擧げていふならば、何かの打合せをする場合に書く手紙として、「明何日午後何時頃参上」といふ風に書けば、至極明瞭でハッキリしてゐるが、それを簡略して「明日何時頃参上」としたのでは、明日とは果して何日の意味か、また何時とは午前なのか午後なのか甚だ明瞭ではない。さらばといつて念に念を入れ「昭和何年何月何日」即ち本日よりいつて明何日の、午後何時何十分頃参上のつもり」といふ風に書いたのでは、まことに無駄や蛇足の多い手紙で、讀む方にとっては煩はしいばかりか、人によつては腹を立てしまふに違ひない。

次に注意すべきは、親しい仲だからといつて馴々しい心持から、つい亂暴に書きなぐつてはいけないことである。これは不行届な手紙と共に、心易い仲だと兎角陥り易い弊風であるが、手紙は會つて話す場合と違ひ、文字だけで自分の心持を現はすものであるから、誤つたことや失禮にわたる事柄を、表情とか聲の調子とかで調和することが出来ない關係上、いろ／＼な誤解を生ぜしめる原因となるのである。

殊に會談のときと違ひ、一旦手紙として書いたものは、それがいつまでも残り、後日に至つていかなる間違ひが生ぜぬとも限らないのであるから、いかに心易い仲でも相當の禮をつくす

ことを忘れてはならぬ。それと同時に、感情の激してゐるときは間違を生じ易いから、さういふ時は筆を執ることを避け、心が平靜に返つてから書く心掛が必要である。

それから手紙は誰しも上手に書きたいのが人情だが、殊更らに上手に書かうとする間違ひの基で、つい「思ふことを率直に書く」といふ本来の趣旨を忘れ、作り飾つた虚飾虚飾のものになるから、この點は嚴重に戒め、努めてその弊に陥らぬやう用心し、それよりも成るべく多く書いて書き馴れるやうに心掛けなくてはならぬ。つまり無精をしないで手紙を書くことである。思ひついた時とか、用のあるときとか、人から手紙を買つて返事を出す場合とか、さうした時には一日延ばしをしないでその時々、進んで手紙を書く習慣をつけるといふことは、手紙上手になる一つのコツである。

繰返すやうだが、本當に上手な手紙といふものは、殊更らに綺麗に作り飾つた文章ではなしに、思ふことをハッキリと正しく、相當の禮をつくして書かれたものゝことで、さういふ手紙を自由に書けるやうになれば、直接先方の人に逢つて對談する以上に、自分の意思を受入れて貰ふことが出来るのである。

第二節 情は女子手紙文の生命線

女子の書翰文を書く上について考へなくてはならないのは、濃やかな情をつくした優しいものであらねばならぬといふ一事である。男子の書翰においても情を没却してはならないのは言ふまでもないが、女性にあつては特にそれが必要であることを強調したい。それは優しさが女性の生命線だからである。

そこで直ぐ、情をつくすにはどうすればよいかといふことが問題となつて来るわけだが、これを簡単にいへば、眞情を吐露すべしとの一言で済むのである。つまり求めてわざとこれをつくすのではない。人から借りて來たものを自分の眞情の如く偽装してはならないし、また求めてさうしたのでは、決して本當の情味のあらはれるものではない。平生から自分の情を偽らない用意をし、その上の修練を積んで、時と場合とに應じ、必要なだけの情を、躍如として表現せしめるやうにせねばならぬが、こゝで難かしいのは、情の状態なるものは元來その形の認むべきものがなく、従つてこれを表はすのが樂でないといふことである。

その上情といふものは、その發動のさまが極めて微妙で、こ

れを促へることが容易でないから、常に心掛けてゐて、何かに感動した場合、直ちにこれを言葉に現はしたり、文章に表現する修練を積むことが必要である。かうして行けば必要な場合に際し、その人々の天分に應じて、ある程度までは自分の眞情を流露することが出来るが、若し平生においてこの用意を怠つてゐると、必要な場合に臨んで自分の眞情を表現することが出来なくなり、結局借りものゝ心にもないことを、無闇に飾り立てゝ苦しい情の表し方をし、田舎娘が白粉のコテ塗りをしたやうな、見苦しいものとなつてしまふのである。

ところでこゝに心得て置かねばならぬのは、いかに眞情を流露したところで、必ずしもそれがそのまま見た目に美しい文章にはならぬといふ一事である。言ひ換へるならば、眞情さへ流露するならば、いはゆる美しき文章が出来ると考へてはならないことである。眞情を發露した文章は、これを見る相手をしてこれに共鳴せしめ、感動を興へるのが目的であつて、目に見て、「美しい文章だ」と褒めて貰ふのが目的ではないのである。

例の本多作左衛門が陣中から妻女の許へ送つたと傳へられる「一、火の用心、おせん泣かすな、馬肥やせ」といふ書翰の如きは、誰が目に見てもこれを美しい文章といふものはあるまい

が、書翰文としてはその真情があまりのまゝに流露してゐる點で天下の美文といはれてゐる。書翰文に情愛を現はすといふ眞の意味は、是等の例について考へても、凡そ理解が出来るかと思ふのである。

第三節 豊かな趣味を盛込むこと

文章は趣味のものであるが、殊に書翰文を書く場合にはこの趣味といふことを忘れては、相手に感動を興へることが出来な。中でも女性の書翰において、ゆたかな趣味性を程よく取り入れたものは、思はず知らず惹きつけられる心地がして、飽かず讀まれるものであるが、これに反して無味乾燥な、何の趣きも、潤ひも、味ひもない事務的な書翰は、これを書いた當人が情愛に富んだ女性であるだけに、寧ろ無惨な心地がして、嫌惡な心さへ起るものである。

元來書翰なるものは、普通の文章と違つて、單に思想や感情を表現するのみでなく、自分の意思を訴へて相手をして共鳴せしめんとする、一つの使命を帯びてゐるのであり、その目的を達するためには、第一には自分の思ふことをハッキリと正しく傳へること、第二には真情を流露して、相手に感動を興へること

とが必要となる譯であるが、この二つの要素を充分發揮せしめるためには、豊かな趣味性を加へてこれを補ふことが必要となつて來るのである。

抽象的な議論はこれ位にして、早い話が一寸海水浴に友達を誘ふにしても

白鳥は悲しからずや海の青空の青にもそまらず漂ふ。海が青くなりました。こゝまで書いて一寸用達しに立つたら、兄がコツリ讀んでしまひました。「海はいつでも青いよ、夏にならなきやお前なんか海を見ないから、殊更青くなつたやうに吃驚して書くんだらう」つて、憎まれ口を叩きました。私言つてやりました「黄海だつて、紅海だつてあるぢやありませんか」すると「あゝ海は三原色だな」ですつて。

書き出しに收水の歌なんか引出した詩的氣分が、すつかり、退散してしまひました。

兄とこんな話をし合ふのも、あとせいぐ三年よ、と母が取りなすのを聞けば、ほんとうにさうよ。泳ぎませうよ、いらつしやいませう。今年にはヨットの旗の色も蝦茶に變へました。あなたのお好きな早稲田びいきなの。まけずに烏帽子岩まで、クロールで競争させようよ。

と、いふ風に、趣味たつぷりに書いたのと、「この夏には選手あたりへ、海水浴に出かけませんか、御養威ならば御返事下さいな」といつた調子で、フツキラ棒に書いたのでは、いづれがどれ程効果的であるかは、誰の目にも一見して判然がつくことであらう。

文章はすべて趣味のものである。何等かの趣味、何らかの興味を添へることに心掛けねばならない。

第四節 折々の風物を活かすこと

徒然草の中に兼好法師が書いてゐる。

或る雪の降る朝、法師が頼みの用あがつて、知人の許へ手紙をやつたが、急いだまゝにその面白い雪景色のことには一言も及ばず、直ちに用件のことのみを書いて送つた。すると先方から返事が來た。その中に、

「この雪いかゞ見ると、一筆のたまほぬほどの、ひがくしからむ人の仰せらるゝこと、聞き入るべきかは、かへすくも口惜き御心なり」と書いてあるのを見て、さすがの兼好法師も、一本參つたといふことである。また同じ徒然草にかうも書いてある。

書翰の時候に、時下酷暑の候など、あつさり片付けるよりも、此の頃の暑さに當地では十日以上も雨を見ずなど、書けば趣があり、またこの書を認める時青葉がくれに時鳥の聲を聞くなど、書いたのは、その時その人の有様もしのばれて何となく床しく覺ゆる。

それだけの主張を持つた兼好法師が、雪の朝の書翰に雪景色を書き漏らしたため先方の御機嫌をわるくして要求を斷られたのは矛盾してゐるが、この矛盾はそのまま、書翰文に四季折々の風物を取り入れることの必要を力説してゐるものである。

實際においても書翰文の多くは、その時候について書く慣例となつてゐるが、風物といへば單に時候とのみに限らないのである。その時折につけて、眼前に隠蔽された風物を取り入れると文章の趣きを一層ゆたかにして、感動性に富んだものを書くことが出来るのであるから、このことも常に心掛けてゐて、その相手により、また時と場合に應じて、適切に按配することが必要である。

然しさういつたからといつて、いかなる書翰にでも原則として、必ず四季折々の風物を取り入れなくてはならぬものゝやうに考へると、それはまた型に捕はれて形式的なものとなり無理に

風物を取入れたがために却つて滑稽なものとなる例も少なくないのだから、すべて無理といふことをせず、自然のままにゆつたりした心持で、適切に風物を取入れるといふことに注意を拂はねばならぬ。

第五節 候文について

以上は一般の心得であるが、この外何か特別な場合、例へば儀禮文を認める時などは、これを受ける側の心持にも、何か改まつたものがある筈だから、特に用語を尊重にして、禮儀を失はないやうに注意せねばならぬ。

それについて先づ心得て置かねばならぬのは、儀禮文には忌言葉といつて、一般に嫌はれてゐる言葉のあることである。もとより迷信といつてしまへばそれまでのことで、よく考へて見れば何等意味のないことが多く、今ではそんなことを入笠くいふ人は少いであらうが、祝ひの手紙に不吉な「忌中につき手紙を以てお祝ひ申上げる」とか「老母病中につき云々」といふ類は、迷信といふよりも、寧ろ禮儀の上から考へても避けねばならないことであらう。結婚の祝ひの場合に「めでたく」と書くべきは、必ず「愛でたく」と書くなども心得て置いていふこと

と思ふ。

悔みの手紙には重なりといふ意味を嫌ふところから、追書は書かないことになつてをり、本文中にも餘計なことは書かないのが作法である。また悔状に香奠が同封してある場合なども、すぐ返事は出さないのが慣例となつてゐるが、主婦の立場にある人々としては表向きは免も角として、成るべく折返し返事は出すべきものである。

以上話は岐路にわたつたが、是等の儀禮的な手紙を書く場合候文にすべきか口語文にすべきかについて多少の議論があり實際においても區々になつてゐるやうであるが、莊重にして簡潔である點からいへば、候文が適當してゐるのである。

また目上の人に對する手紙も、用語等の上から考へて候文がふさはしい場合が多い。然し候文だからといつて、特別に袴を着せた難かしい古語を使はねばならぬといふ約束はないのである。充分に活きた現代語を取入れ、自由な表現法によつて少しも差支はない。尤も語尾を候の一字で結ぶとあまりに單調で、窮屈なやうに考へられないでもないが、候といふ文字には案外接續詞が澤山あり、それにより全體に變化を與へ、行文をなめらかにすることが出来るのである。

第六節 口語文について

現代の書翰文では、候文と口語文と何れが多く用ひられてゐるかといへば、無論口語文の方が壓倒的に多く使用されてゐるのである。

これは何も新らしきを好むといふ心理からばかりではない。實際の上から言つても、自分の思ふことを自由に書くには、平素使用してゐない候文體の口調よりは、日用用ひつゝある口語の方が便利だからでもある。殊に「いやよ」とか「いらつしやいね」とか「暑いわね」などの話體の文章となると、候文ではこれを表現するのに適切な文字が見當らないから、親しい間柄同志の書翰文には、どうしても勢ひ口語文が多く用ひられることになるのである。

元よりこれは極めて親密な間柄についてのことで、話體を用ひたいため候文を敬遠し、専ら口語文によるのを決して悪いとはいふのでないが、もとゞ書翰は自分の人格を反映し、大切な使命を帯びてゐる嚴肅なものであるから、さほど親密でもない人に對し、話體の手紙を書くなどは決して衰えたものではない。

例へば候の次に間、ゆゑ、に付、により、條、折から、のみならず、際、など、續ければ或る一つの事柄を決定し、はゞ、はんが、など、續ければ假定を意味し、へども、處、とも、に、はんが、などは否定の意を示し、や、か、にや、などは問ひの言葉となり、事、段、由、儀、旨、趣、次第などは事情を説明するなど、その用法は千變萬化で、多種多様に活用することが出来るのである。

たゞこゝで一つ注意せねばならぬのは、過去や確定したことを指定する「候へば」と、未來や假定を意味する「候はゞ」と混用することがあり、そのため全文の意味が全然異つたものとなつてしまふ場合である。例へば「有之候はゞ」と書けば「ありますならば」といふことで假定や未來を意味し「有之候へば」と書けば「有りますから」となつて確定したことや過去を意味するのであるから、不用意にこの用法を誤らないやう注意せねばならぬ。

尚ほ書翰を候文で書く場合は、他の文章や口語文のやうに句讀點は用ひないのが作法であるが、たゞ書物などに書いた場合は、読み易からしめるため、わざと句讀點を打つことになつてゐるのである。

また普通の口語體にしても、自由に書き得るといふことから、つい用語なども免角體を缺きがちなる傾向があり、時としては勢ひに任せ、不知不識の間に粗暴になり易いものであるから、同輩以上の人に對する場合や、女性が男性に對する場合などは、候文で認めた方が過失がなくてよからうと思ふのである。尙ほ参考のため、左に二三名流の書翰文についての議論を記載して置かう。

第七節 女子の書翰文について

一體今普通に行はれて居る書翰文體は、足利時代の俗語だと申しますが、いかさま左様らしく思はれます。即ち其の當時に創造された諸曲の詞と一つでありますから。

又其の以前、藤氏隆盛時代の日記物語等の文中に在る消息文は、格別對話の體と變るところを見出しませぬ。して見れば、今われ／＼の間に行はれて居る書翰文も、矢張り言文一致に、現今の詞を書くが至當であります。左様すれば、男女文章の差異も餘り多くなつて、そして男女の特性の自然の儘に、程よく寫し出さるゝ事であらうから、誠に工合が宜からうと存じます。けれ共、元來言文一致の議論が喧しく、且其れが如何

しても理窟に合つてゐるにも關はず、猶今の社會に普く行はれないのは、どうも、今の俗語が餘り濫りになつて居て、そしてまだ各地方の詞が餘りに區々であるからでせう。勿論、物品でも、古くなつた物は何となくさびが附いて、假令つまらぬ品でも、貴く見ゆるのと同じ事で、通俗に解らないやうな古代の詞は、何によらず、上品のやうに聞ゆるといふ次第も慥かにあるには違ひ無いが、又決して左様ばかりではありますまい。現今の詞は、古言に比して、濁音彈音が非常に多くなつたのみならず、殊に關東の動詞には、入聲が多く、どうしても天然流暢なるべき日本詞の特性を既に失つて居ります。左様かと申して、今私は古代のやうな詞にせねばいけないと申すのはありません。

唯、文章なるものが、果して、言文一致ならざるべからず、否、寧ろ願くは言文一致たらしめたいと云ふならば、先づ現今通俗の詞から直して、語脈を正しくし、言辭を選んでなるべく高雅簡明にし、口を突いて出づる詞を速記すれば即ち文を爲すやうに致して、そして先づ書翰文から、俗語の儘を移して差し支へ無いやうに致したいと存じます。然しそれも詞の方をも正しく直し、又音をも言文一致に書き試み、双方から相伴つて行

つたら宜からうと考へるのです。何となれば、最早既に講義や演説の時に使ふ詞は、自から多少文章の方によつて居まして、普通の對話に使ふ語脈よりも正しく、又言辭も氣をつけて選ぶ傾きがあると思ひます。畢竟、通俗語が現今のやうに亂雑になつたのも、詞は、筆に書き止めぬものゝやうになつたから、我儘勝手になり果てたといふ様な傾きがあると思はれます。扱てかくの如くして、口に云ふ所を筆に移すものとなれば、信屈難澁な文章は制せずとも書かぬやうになるであらうと信じます。文章は、平易簡明なれと教へても、詞と文と、全く別々であるから、扱こそ文章を書かうとすると、やはり、文章語なるものを用ひて、そして、自ら善く解らぬやうな難かしい熟語を使つたり、耳疎い古言を用ひたりするやうな事になるのであらうと考へます。然しながら、今は何事も過渡時代ですから、此の岸から彼岸へ移らうとするに、梯子を作らずして飛んで往かうとすれば、却て躓き倒るゝ事となりませうから、其れも是れも徐々と順を逐うて進まねばなりません。其れで先づ今のところ、なるべく通俗語の中の正雅なるもの、又は文語中にも俗耳に疎からぬものを選び用ひて、一寸語尾を變へれば、通俗語として、用ゐらるゝやうな文章を書きたいと存じます。殊に書

翰文から先づ左様致したいのです。けれ共、斯くいふ我等も、やはり筆を取れば、免角文語が湧いて出て、そしてつい／＼俗耳に疎い文が出来るやうな傾きになります。是は久しい習慣でありますから、容易には改まりませぬが、なるべく文章が平易になりませぬと、さまざまの物學びするに、誠に難儀であります。即ち其の事柄の解釋如何を考ふる前に、先づ其の文中の熟字熟語の解釋から學ばねばならぬといふ事になります。故にまづざつと右申した様な事から、研究して参りましたら如何なものでありませう。(文章世界 下田歌子)

第八節 文章上手と手紙上手とは別

一生の間自分が習ひ覺えたものゝうちで、一番便利を感じるの筆を持つて文を綴る場合である。殊に葉書や手紙を書く場合である。我々が世の中に生活してゐる以上何人も手紙を書かずに済まずといふわけにはいかない。これを書かないと大切な交際や業務の用事が辨じない。今若し世に書翰といふものが無いとしたら何うであらうか。情意疎通の方便に於て何れだけ煩はしく、何れだけ勢力を費すことであらう。加ふるにその不

便不通なることは言ふまでもあるまい。唯一つの用事を便する爲め、態々着物を着更へたり、土産物を持つたりして旅に出で或は徒歩、或は汽車に乗り、多くの時間と澤山の費用とを費して先方へ到着し、さて面會の上で用事を談じ了つて暇を告げ又長途を再び戻つて来て、それから着換へた上、始めてくつろぐ。これ程の大手敷を要する。然るに之があればこそ一封の書翰一枚の葉書克く思ひを萬里の外に致すことが出来るのである。これと思つたならば、どれだけ念入りに文句を考へて書いても好い譯である。かくの如く効用の大なる書翰文は、實用上は王公貴族より下は庶民に至るまで、老幼男女貴賤貧富の差別なく殆んどその利潤を被らないものはない。書翰は元來生活上日常の俗用が主であつて、その用事が上手に達せられたか達しないか、聲の聲に應ずるやうに何等かの反應が無ければならぬ。反應が起れば必ず利不利が伴ふ。かう考へると書翰ほど眞面目なものはない。眞剣なものはない。書翰ほど大切なものはないといふことになる。

文章は、元來多くの人にみられる晴れなものであれば、誰しも上手に書きたいと思ふのは無理の無いことであるが、文章を作るのは普通物の質書をするとか、説明を書くとか、廣告を書く

る場合とか、或は試験に應ずる時などで、この外に文章の必要なのは小説家とか論文家とかいふような、それを専門とする人達だけであるが、それよりも最つと我々と密接し、朝起きてから寝るまで、四六時間中あらゆる場合に身に逼つて必要なものは書翰文である。文章ならば書かないで済ませる人もあるが、書翰だけは如何なる階級の人といはず書かないで済ますわけにゆかない。且つ書翰は元來文章のやうに、机に向つて考へながらゆつくりと、想を練り、思ひを馳せて文を綴るといふよりも、もつと手近に、簡単に用事が出来れば、直筆筆を持つて文を作り、文字に顯はし、返事を要する書翰が来れば立所に認めて用件を果すといふ事が主であつて、文章を綴るやうに長い時間を許されない。その短い時間の間に考へを極めて、

◇巧な文章をもつて充分に自分の考へを言ひあらはさなければならぬ。

◇間違つた文字や脱字等のない様に、そして美麗に書かなければならぬ。

◇書翰としての法則に適ふやうに體裁を整へ適當の敬意を持つて居らなければならぬ。

この三つの内一つを缺いては、自分の考へが充分先方に達し

ないばかりでなく、誤解や過を生じ、延いては交際の圓滑を破り、取引上非常な損失を蒙るやうなことになる。斯くの如く書翰の上手と下手といふことは、我々の生活上如何に重きを成すかといふことがわかる。

然るに世間には往々「文章さへ作れれば澤山だ」と頭から書翰といふことを顧みない人がある。實に憐むべきである。さういふ人はまだ、書翰といふことについての自覺が無いからなのだ。文章の上手と書翰の上手とは全然別なのである。現に大學を出たといふ人でも、銀行なり會社なりに遣入つた時、先づ第一に書翰で困つて了ふ。それだから「焦うも今の學校出にも困つて了ふ。書翰一つ碌々書けない」とよく銀行會社の重役から聞かされる事がある。これ一つは實際社會の經驗に乏しく、従つて書翰に對しての自覺がなく、前に言つたやうに餘り仲氣にかまへてゐると、一は實際の場合に當つての利害得失を深く經驗して、書翰を大切に思ふとの相違から來るのである。

かく書翰の重要なことが解つたならば、今までの如く書翰文を輕視することなく、他から來た書翰の返事なども幾日もく怠つたりするやうなことが無いやうに注意して、始終書きつけると同時に、適當な講義に依つて研究する間には、自然と趣味

も出て、必ず書翰上手になることは請合である。その反對に書翰等は焦うでも宜いといふやうでは従つて筆不精の人となり、上達する處か益々世界の大勢に伴ふことが出来ないから、何時か他人に置いて行かれてしまふ。

以上説いた如く、書翰は我々の生活上決しておろそかにすべきでないといふならば、一刻も豫備すべき場合でない、直に研究の歩を進めて、その奥儀を極めなければならぬ。(新書 翰大鑑 大町桂月)

第九節 情が第一

筆無精は畢竟虚飾心の爲めだ。字が拙であらうと文句がまづからうと、何でも構はず書く様にせねば仕事も社交も抄らぬ。

× × × 日常の通用語を俗語といつて馬鹿にするが、其俗語ほど適切に現時の人情思想を現はしてゐるものはない。これを巧く用ひて行つたら手紙でも文章でも生きて來ようといふものだ。いつかの選挙に苦戦して大勝利を得た人があつた。その趣きを知らして來たから、さしあたり「當選を賀す」とでもいふところだ

が、矢野にはそれでは物足らん。そこで「シメタシメタ」と電信をかけてやつた。又或人が親の病氣を、それはよく看病したが、とうとう亡くなつた。その知らせを受けた時、矢張り電信で「ヤレヤレ」といつてやつた。わたしの手紙はすべて此流儀で情のうつらぬ手紙なんぞ貰つても一向嬉しくない。

拜啓、「手紙雑誌」へ載せる爲め何か二郎の意見を求めらるるの事なれども、二郎とて意見の問屋でもなければ社會萬般の注文に應ずる爲めに意見の仕入品がある譯でもないが、世間の人が常に手紙を書くのを面倒がるのを癪に觸つて居る所だから、其の事に就いて一言述べやう。

自分が手紙を書くのが嫌なものだから、私は筆不精などと遣辭を云ふ者が澤山ある。現に二郎の識り合の者にも其例は少くないが、畢竟特に筆不精などと云ふべき者がある筈がない。物を書くことが不精な者は、諸事萬端なんでもする事をおつくりと思ふ人で、何事に限らず筆不精なので、別に筆ばかりに限るのではあるまい。こんな人は到底世の役には立たぬ。故に二郎は毎も通信不足の人に對して「筆不精」と云ふ言葉を許さぬのである。尤も世の中には己が字を知らぬ事又はうまく字の書

けぬを恥ぢて、手紙を書く事を躊躇する人も澤山あるが、是等の人に對しては二郎は常に左の如く説法してゐる。

むづかしい漢字の書けないのが何で恥かしいのだ。字を知つて居れば何でえらいのだ。そんな末技の巧拙はちつとも人物を輕重するに足らぬではないか。二郎は君の字を知らぬことを決して輕蔑はせぬが君が字をうまく書けぬと云ふ愚にもつかぬ事を恥と思ふて、大切の通信を粗略にするの、大層なるを悟らず陋劣なる虚飾心に驅られて居る君の心事を輕蔑せねばならぬ」(中略)つまり手紙は口で云ふ通りを字で現せばよいのだ。そして其の字も誤字宛字勝手次第忘れた文字は假名で書き、候文でも口語體でも先方に分りさへすればよしとして遠慮會體なく書き立て、讀み悪くからうと思へば一寸「御判讀下さるべく候」と書いて置けばよいではないか。(中略)二郎の此の手紙などは宜しく筆不精家の手本とすべき文章軌範であらうと思ふ。

愚説大略斯の如し。然れども尙ほ平易に懇々と君の雜誌に書き載せる必要あらば、何時でも(但し来る前に電話で打合せ)來て、二郎の長談義を聞いて、書き立つるも亦妙なるべし。草々頓首。(手紙雑誌 元廣島高商校長 矢野二郎)

第二章 文例

第一節 祝賀

一 新年の文

謹しみて新年の御祝詞きこえ上げ候。皆々さま御すがくしく御歳重ねさせられめでたく御慶び申上げ候。わたくしはた一同かはりなく年を迎へ候まゝ御心安う思召くだされたく候。目出たくかしこ。

二 婚姻を祝ふ

あまねき春の光麗かに候をりから御高安賀し上げ候。さてこのたび御子息さま御良縁相整ひ、近日松田様御令嬢雪子さまと御結婚の式を挙げられ候。趣まことに御悦ばしき御ことと存じ上げ候。雪子様には先生御門下中にもすぐれて御才藻高き麗人と承り及びをり候。御令息様にはこよなき御好配と幾久しく御祝ひ申し上げ候。この品聊か御祝ひのしるしまでに御覽に入れ候間、御笑納下され候は幸に存

じ上候。まづは右御悦びのみ聞え上げ候。めでたくかしこ

三 出産を祝ふ

承り候へば御奥様にはこの程初の御安産にて、玉の如き御男子御出生との御こと御羨しくもまた御目出度く平素の御望み通りにて一しは御満足の御ことと存上げ候。時候も春の最中とて御肥立もよろしくさぞかし御晴々しき日々を御過し遊ばされ候ことと、私共まで心明るむやうに覺え候。これは甚だ見苦しき品に候へども、赤様のお下着になり御用ひ頂きたく、いづれ近日御伺ひ申上げ候つもり候へども取あへず文して御悦び申上げ候。なほ當分御加養專一に遊ばされ候やう祈り上げ候。かしこ。

四 入學を祝ふ

勝太郎さんには、今度中學校へ御入學の由、おめでたう存じます。將來何におなりなる御希望か存じませんが、これから何になるのでも中學校だけはぜひ踏んでるなければなりません。金銀の制服がどんなに似合ふでせう。かはゆらしい學生さんにお成りでせうね。そして、常に好きだといつていらつした英語を勉強なさる事が出来て、どんなに嬉しいでせう。リーダー

一の本を持つてほゝゑんでいらつしやる、可愛らしい制服姿が目に見えるやうです。學校のおかへりにでもちよつとお寄りになつて下さい。母も折角わが子のやうにいとしがつて、勝さんの制服姿をみたいといつて居りますから、さよなら。

五 卒業を祝ふ

良一様にはこの春めでたく優秀なる御成績にて、大學の業を終らせられ候御事、承るだに嬉しく御よろこび申上げ候。これ皆御當人さまのたゆまぬ御勉學のほども固よりながら、幼くして父上を失ひ給ひし良一様を御手一つにて、この年月育くませられ、最高の學府までの御教育を續けさせ給ひし、母君の愛のお力の大きさと今更に感じ入り申し候。

學業成りしを父上の奥津城に告げ給ふ良一様のお姿を前に御涙湧きしとの御手紙には、思はず餘も歎く、さこそとうなづき申し候。かしこ。

六 就職を祝ふ

久しう御たよりを承りませぬだけに、どうして御くらしなさることかと、一入なつかしく思ひながら、何かに取りまされ

御尋ねも致さず失禮して居ります。本日何子さまの御話で御座いました。タイピストは去る何月限りにて御やめなされ、此度は郊外の小學校へ御奉職とのこと、何よりの御ことと御喜び申上げます。教師となつて一生を育英の業に奉仕したとは、年來の御希望で、その爲め苦しい御勉強までなされ、資格を取られたことで御座いますから、此度の御就職は、いかばかり御満足に思召されることせう。失禮ながら御性格と申し、御才學といひ、教育者としての御就職は何よりも御ふさはしいこと存じます。一度御訪ねの上にて御喜びも申上げる心がまへで居りますが、取りあへず文して御祝ひ申上げます。かしこ。

七 入營を祝す

文して申上げまらせ候。御許様こと、本年徴兵検査に甲種合格にて、来る何日、御出立遊ばされ、目出たく御入營なされ候。由、日本男子として身を兵籍に列ね候ことは、御許様のみの御名譽には候はず、御家門の御光榮と存じまらせ候。女の私が申すまでもなく、今日より國家の干城たる重任を思はれ、折角御身御大切の上、軍務に御つとめ遊ばされ、

始終忠義をつくして、恙な御退營なされ候。やう祈上まらせ候。御出立の際には御見送り申す筈ながら、前日來持病再發にて臥し居り候まゝ、失禮ながら一筆かりて御祝ひ申上まらせ候。あらゝかしこ。

八 新築を祝ふ

豫ねて御新築中の御家屋いよく御落成との御こと御目出度く存上げ候。御土地がひろやかなる御住居、御閑靜なる御こととお羨ましく存せられ候。早速拜觀がてら参上いたしたく存じ居り候へども、とりあへず御祝ひのしるしまでに、めづらしくも候はねど松の鉢一つ御目につけ候。いづこの御隣になりお置き下され度候。とりあへず御よろこびのみ。可祝

九 病氣全快を祝ふ

暫く御無沙汰をいたしました。その後御容態は如何であらつしやいませうかと心配致して居りましたが、本日御手紙を頂き御全快遊ばされたと承はり、安心いたしました。此間母校の同窓會に参りまして皆さまにお目にかゝり、あなたのお噂をしあつて心配のあまり、互ひに蔭ながら御全快の一日も早かれと

祈り合つたので御座いましたが、その甲斐があつて、皆さまも喜びなされること御座います。いづれそのうち御祝ひに参りますが、病餘は尚ほ御大切ですから、くれぐれも御加養生下さいませ。かしこ。

十 轉居を祝す

文して申上げまらせ候。これまでの御住ひは、閑靜なれども交通の便およろしからずと、常々おほせられ候ひしが、此度何々へ御引越し遊ばされ候。由、御地なれば交通網も四通發達にて御都合よろしく、その上山水の景勝を占め、四季の眺めも面白く、空氣も新鮮にして衛生の條件にも適ひ候。ば、定めし御住心地のよきことと存じ上げまらせ候。存ぜぬこととて、御手傳も致さず失禮仕り候こと、幾重にも御ゆるし下され度、そのうち御伺ひ申上ぐべく候も、取敢へず手紙にて御祝ひ申上げまらせ候。かしこ。

十一 入選を祝ふ

この度御主人様には、目出たく帝展御入選のこと、今朝の新報にて拜見いたしました。

御主人様にはどんな晴れやかなお顔色で、榮ある御入選の通知をお受けとりになつたこととございませう。そしてその傍らの若妻の貴女は、私まで何やらわく／＼してしまひます。東京にあれば、直ぐにも伺へるのですし、御主人様のお繪も展覧會で拜見出来ますのにな。

女學校の五年の時だつたでせうか。帝展見學のあと繪畫館前で解散してから、二人きりで、秋の上野公園をお話しながら、一時間あまりも歩きまわしたわね。みんな懐しく思ひ出されますこと。

では、どうぞ御主人様によろしくお祝ひを言上して下さいませ。あら／＼かしこ。

第二節 見舞

一 寒中見舞

本年はどういふものか、寒があきましてから却つてお寒く、軒端の氷柱も一向解ける模様も御座いませんが、御一同様にはお變りは御座いませんでせうか。御隠居さまの御持病も起りはおはさぬかと、御案じ申してはお噂ばかりいたして居ります。一度直々参りまして、御機嫌をお伺ひ申上げたいので御座います。

すが、次々と風を引いてはふせりますので、心ならずも御無沙汰に過して居ります。あしからず御許しの程を願ひ上げます。この品は到來したまふ、失禮ながらお目にかけます。どうか皆さま御大事になさいませ。賢。

二 餘寒見舞

御なつかしさに任せ一筆申上げ候。春とは申しながら牙えかへりきびしき御寒さ御障りも入らせられず候や。私ども皆々別條もなくすしをり候まふ、憚りながらお心安う思召し下されたく候。別包の鶏卵わづかに候へども田舎よりの到來物御笑納下され候は幸と存じ候。感荷も存になりて候てより却つてたち悪しきものはやり候よし、折角御自愛のほど祈り上げ候。皆様へもよろしく。かしこ。

三 暑中見舞

この二三日、なんといふお暑さでございませう。でも、お達者揃ひのお宅の皆様、お元氣と存じます。私共も今年には避暑も御遠慮し、千人針に夢中で、お蔭で暑さ知らずで過されます。一筆暑中の御機嫌伺ひまで。かしこ。

四 残暑見舞

暫く御無沙汰申上げて居りました。皆様お變りなくいらせられますか。立秋もすぎましたが今年は暑さがいつまでも去らないやうでございませう。伯母さまはお障りもございませうか。私どもは酷暑の際よりも意気地なく日々ぐ／＼して居ります。然し日没の後はさすがに縁などに居りますと、冷たさを覚えて思はず襟をかきあはせることもございませう。御老體には、なかなか御油断のならない時候でございます。

私共ではこの前伯父様がお分け下さいました、夕顔の苗を見事に育て上げてまして、薄闇の中に思ひがけないほど白い花が開きますのを、この夏の中の眺めといたしました。その花の季節も終りにちかく、お禮には少々遅れましたが残暑お見舞がてら、虎屋の羊羹に静岡より到來の挽茶少々そへてお届け申します。そろ／＼あの窓下の萩も物寂びた花をつけはじめたこと、午後の暑さに凌ぎきれなくなると、いつも思ひ出します。秋には今年も主人の丹精の菊を見がてら、お二人お揃ひ泊りがけにてお越し頂きたく、皆々おまちいたしてをります。私もその頃までには元氣に立ちかへります。かしこ。

五 風水害を見舞ふ

今朝ほど何心なく新聞をひらき候ところ、御地方の風水害の模様承知いたし驚き入り申し候。××川氾濫の地域一帯の惨害、家屋流失など恐しき文字ばかり相見え候が、いまだ概略の模様を報ぜられ候のみにて、少なからず不安に存せられ候。御宅は高臺のことゆゑ、水害の方は格別御被害もおあり遊ばされぬ御ことかと存じ候へども、颶風の方如何に御座候ひしや、お子様方にもし御怪我などもやと御案じ申上げ候。何卒御事なく御凌ぎ遊ばされ候やう、そののみ祈り上げ候。別封の御菓子少々ながらお小さい方々への御見舞にと御目にかけ候。かしこ。

六 類焼見舞

今朝の新聞で見てびっくりしました。あの烈風の中を御近所から出火して、一気に目抜き通りの二百戸も類焼させたとのこと、きつとお宅も御災難だつたでせう。どなたもお怪我はありませんでしたか。お荷物などお出しになるおひまがおありでしたか。昨秋歸國してお訪ねしたあの川沿ひの明るい御新居が

もう無いのだと思ふと、心の震へる思ひがいたします。何にせよ、この窓空では御不自由の限りでせうから、取りあへず私共の不斷着二襲ねづゝに眞綿を添へて、いそぎお送りいたしました。まづおからだを暖かくして、町の復興に努めて下さい。とりいそぎお見舞まで。賢

七 近火見舞

啓上。只今ラヂオにて御地の大火を承知致し、大いに驚きまして即刻電報にてお見舞ひ申上げましたが、御無事でございましてでせうか。

ニユースによれば、お宅様の邊りは延焼をお免れのやうに察せられますので、少しは安心致して居りますが、町の中心はのこらず焼きつくされました由にて、混雑も被害も想像以上のこゝろに存じます。

皆様方のお驚きもいかゞ、御老母様お小さい方々などに、お怪我などございせんでしたか。お知邊の方々には定めし御類焼になつたお家もございましたせう。差し當り當座の御用にと、食料品取り交ぜ御見舞のお印までにお送り申します。何かお入用の品がありましたら、御遠慮なくお申聞け下さいませ。

家内の皆々よりもよろしくと申出でました。この際なればとりわけて、御身おいとひ下さるるやういのり上げます。とりいそぎお見舞まで。あらゝ。

八 親の病氣を見舞ふ

その後御父上さま御容態はいかゞでいらつしやいますか。毎日心にかゝつてはみますが親しく御介抱にもまかり出ませず、たゞ御案じ申上げてをります。本年は春になりましてからのお寒さことの外おきびしく、皆々代り少々づゝの風邪で寢込むほどのこともございせんが、はつきり致しませんものですから、良一ことも御見舞に上りたく口ぐせのやうに申しながら思ふにまかせませせん次第でございませう。お咳はさぞお苦しうことと存じますが、別封御目にかけたましたゼリーは昔から咳の薬と申しますかりんの實でつくりましたものゝよし、たゞのお菓子よりはいくらかましでございませうかと、こゝろみにお送り申上げます。

いづれこの月末にもなりましたら子供等の學期試験も終りますことゆゑ、ゆつくり御見舞に上りますつもりでございませう。どうぞ切角御療養專一に御祈り申上げます。良一からもくれぐれ

れ御大切に申出ました。かしこ。

九 産後の見舞

昨今は急にうつつたうしい氣候になりましたが、御氣分はいかゞでございませうか。お初のお産には珍しくお軽かつた由承りました。その後の御様子いかゞと御案じ申上げてをります。お乳の出はよろしうございませうか。赤ちゃん、おむつかりなくおやすみになりますか。さぞ日増しにお可愛くおなりのこととでございませう。もうお七夜もお過しになつたと存じますが、お名は何とおつけ遊ばしましたか。

昔からお産は後が大事と申しますから、呉々も御用心遊ばし願調に御肥立ちになりますやう。お母様もおつきになつてゐて御如才ないことと存じますが、お若い元氣にまかせて御無理など遊ばさぬやうと、婆心から申上げます。

別包葡萄酒は私共にて常に飲用いたし、殊の外疲れを恢復いたすやう存じますので、御産室御見舞の印までにお届け申上げます。

親しくお目にかゝり御見舞申上度く存じますけれども、今少し御恢復の上にてとわざとさしひかへ、書中を以てお見舞申

上げます。かしこ。

十 怪我の見舞

御妹某様 昨日の御登山に御怪我遊ばされ候。趣、お可愛さうなること成され候。俄のこととて、御手當なども定めし不行届がちにて、御憐みのことと察し上げまらせ候。

然しながら御顔にも傷つかず、御全快の御見込の由まあく御不幸中の幸と存じまらせ候。私知合の某醫師は、元元外科専門にて、随分御手當も熱練の由に候へば、御都合によりては御紹介申してもよろしく候。

何分養さの折柄にも御座候へば、折角御いたはり遊ばし一日も早く御全癒なされ候やう祈り上げまらせ候。かしこ。

十一 陣中見舞

家中で心をこめて作つたこの慰問袋をお送りいたします。中に入つた品々は私の家庭中で一人一品づゝ競争の形で、一番お役に立つ喜んで戴けるものをと、選んだのでございませう。小さい坊やも、あなたのおめにかけるのだと申して、兵隊さんと飛行機のクレオンを描きました。それも入れてございませう。

こんな中の何か一つでも、戦地でのお慰めになれたらと、早速局まで私がつけて参りました。あゝどんな場所でもこれが銃を取る御手に届くのでせう。どうぞ御無事で御元気で、この袋をお開き下さるやう、祈つて居ります。かしこ。

十二 落第の友を見舞ふ

文として申上げまゐらせ候。さてとや此度のことは、まことに筆にするさへ御氣の毒さまなる御始末にて、御慰めの言葉さへなき心地いたし候。

平素なみくに勝れて御勉強遊ばされ、御不得意の學科は、何一つだにあらせられざるに、此度の御不首尾たゞく不思議に堪へずと御噂いたし居り候。定めし御力落のことと存じまゐらせ候へども、過ぎ去りしことを繰り返すも死兒の歸を數へると同様に候へば、何も御運と御あきらめ遊ばされ、今後は一層の御勉強遊ばされ、御泣言ば妹様に御預けなさるべしと呉々も念じ上げまゐらせ候。あなかしこ。

第三節 招待

一 歌留多會に招く

もう少し時機がおくれて、歌留多會もをかしいやうでございますが、丁度名古屋からのお客様のおもてなしの一つと存じまして、後子様をお正客に、私達で一晩賑やかに遊びたいものと存じます。

ついでには、昔は随分お上手でしたあなたも、ぜひ御客様の一人になつて頂き度く、否やなしに明晩、會社からすぐにごちらへおより下さるやう、お願ひ申上ります。かしこ。

二 雛の日の晚餐會に招く

明晩は例年の通りお雛様の御馳走をいたします。何にもございませぬけれども、私達がせい一ぱいの働きでおもてなしを致したいと存じますから、是非いらしつて下さいませ。

去年は牛込の方に行つておしまひになつて来て下さらなかつたから、今年はきつとでございますよ。それだからこの手紙も間違ひのないやうに速達で出します。あなかしこ。

三 小集に招く

青葉の風すがくしく候。さて来る二十三日の午後三時より、例の通り紅茶會相催したく存じ候。このたびは先頃流

洲方面の御旅行よりお歸りなされ候。××大學教授博士もお出下され、御旅行談を承る等に相成りをり候。まゝ、御都合せぜひ御來會下さるやう御待ち申上げ候右御案内まで。かしこ

四 新婚の夫婦を招く

その後お二方とも何かと御忙しく御遊しの御ことと存じます。さて御いそがしきところいかゞかと存じますが、来る十二日午後一時ごろお揃ひにて私どもまで御越し下されませれば、まことにうれしく存じます。先日は御披露の式場にて、子供たちも新作様にお目にかゝりましたが、場所柄といひお話などいたすわけにも参らず、残念がつてをりました。子供たちは今度こそ宅においでを願ひ、新作様にお友達になつていただくのなど、大変なさわざでございます。さぞ御迷惑な御事と存じますが、多勢の臆白どもがお招きいたすのでございませば、極くお氣軽なお氣持にて御たづね下さいませやうお願ひいたします。當方家族一同の他には御差支へなくば御存じの青山の叔父夫婦、上野の健助夫婦もお目にかゝらしていただきたいと存じてをります。あの人たちも貞子さま御存じの通り氣軽な人たちではございますが、氣立のよい親切人でございますれば、御窮

五 結婚記念日に招く

その後は御無沙汰のみいたし、申譯もございませぬ。いつぞや「仲人に御無沙汰するやうなら結婚」と仰られたのを、好い氣になつたわけではございませぬけれど。

さて、お忘れになつたかも知れませんが、この十日は私共の三回の結婚記念日でございます。去年は思ひがけなく御旅行先から祝電を頂戴いたし、吃驚致しますと同時に、ほんとに嬉しく有難く存じ上げたことでした。

今年はどうぞ、私共の小さい家でのつましき慶賀を召上つて戴きたく、當日はお二方の外には舅と實家の父母のみの、水入らずの小宴でございますから何卒萬障御繰合の上、五時頃からお出かけ下さいませやう、御待ち申上ります。かしこ。

六 誕生日に招く

ずるぶん、無沙汰しましたわね。不相變お元氣ですかしら。

ゆふべ母と用達しに出て、夜ふけてあの道を歸つたら、不意に、木犀のほひがして来るではありませんか。あなた方をお送りしてよく歩いたあの思ひ出の道にですのよ。さうしたら急に、皆さんにおあひしたくなりました。考へるとこの春學校を出てから半年あまりになりますのね。

丁度十七日の日曜は私の誕生日ですから、久しぶりで皆さんにいらして頂いて、春から一杯たまつてゐるお話をお伺ひしたいと思ひます。お招きしたのはあなたの外に例の仲よしの五人組です。それに従妹が二人入つてゐますけれど、どなたも皆御存じなんですからちつとも御遠慮りません。どうぞ學生時代にかへつたおつもりで気軽にいらして下さいませ。皆で思ふ存分遊びませう。おそくも二時までにはいらして頂いて、お夕飯はこのごろ少々自慢の私の手料理でさし上げると決めてゐますから、お家へさういふ風にお歸りになつていらして下さい。あなたが一番お遠くからお氣の毒ですけれど、お歸りは車でお送りしますから、雨降りでもぜひいらして下さいませね。おまちしてゐます。かしこ。

七 觀月に招く

来る十六日には、午後六時から宅で、月見の宴を催すさうでございませうから、御障りがございませぬなら、御越し下さいませんか。雲井、嵯峨野の秋、さむしろ等の曲を合奏してお月様の御馳走にしたいと思ひます。門前の薄も穂が出て、招いて居ります。庭の萩も今を盛りと咲き亂れました。それ等を鏡のやうなお月様の光で眺めたら、どんなに美しいでせう。御馳走はお月様のお園子の外に、月に因んだお餅を私が拵へますから、御批評が願ひたう存じます。何卒四時頃から、お越し下さい。御返事をお待ちして居ります。さよなら

八 祭禮に招く

至らぬ筆にて申上げまらせ候。こゝもとの氏神様御祭禮明後日より行はれ、二日の間神輿の渡御も御座候由。山車は二十本ばかりにて、地走りなどの催しもこれあり、久しう封じ込められし名残、一度に賑はしうする氏子中の意氣込と見受けられ申し候。この町内よりも山車二本出で申し、かざり物など三四箇所に出來るとのこと、今日あたりより青竹の手すり結ぶも見受けられ、山車小屋のしつらへに大路もにきはひ申し候。このさま御坊様たちの御覽に入れたく、必ず雜沓の中へは御供

申すまじく候間、夜宮よりかけ、御泊りがけにて御越し下され度、待ちあげまらせ候。かしこ

九 觀劇に招く

來月の七日は私の誕生日、お約束してありますから、是非朝からお出で下さいね。それについて本日東寶の前賣を問ひ合せましたら、よい席がございましたのでそれに決めました。前から三列目の正面、その邊が一番見好い席だとのこと。土曜の午後の部ですから、きつとお宅でもお許し下さいませね。切符二枚同封いたしました。どうぞ杏子ちゃんをお連れになつていらして下さいませ。かしこ。

十 クリスマスに招く

硝子戸に寒い音をたて、木がらしが吹いてをります。わびしい季節になりました。けれども街を歩いてクリスマス飾物のビカビカしたモールやお人形や、花なんか見ますと胸が躍ります。私のところでも貧弱なのですがツリーを飾りました。それで二十四日の晩にはお親しい方々に來て頂いて、何もございませんが晩餐を御一緒にし、それから一晩思ひきり楽しく遊びた

いと存じます。鏡子さんも菊様も菊様のお兄様も、それから静江さんも、皆さんいらして下さる筈でございます。新しいレコードも二つ三つおきかせいたします。サンタクロースも何かお土産をもつて來てくれることになつて居りますから、およろしかつたらお妹さんもおつれになつて、ぜひお出かけ下さいませ。どうぞ、きつとでございますよ。ではお待ちして居ります。さよなら。

十一 法事に招く

日ましにお暑く相成り候へども、お宅様には皆様ますく御元氣に渡らせらるゝ御ことと存じ上げまらせ候。さて来る七月十二日は、亡母の三周忌に相當いたし候へば、生前に御親交を賜はり候方々の御出を願ひ、午後六時より宅にて心ばかりの法要を相替み粗飯さし上げた存じ候ゆゑ、御忙しきところ、かつ御遠路をまことに恐れ入り候へども、何卒々々御光來下されたく右御案内申上げまらせ候。追て暑中のことに候へば、御みなりなど御氣輕にお出向き下され候やう、當方もその心組みにて時刻もおくらせ候ことなれば、何卒その邊おふくみ下され度願ひ上げ候。かしこ。

十二 遷居に招く

一筆聞え上げ候。暑さ誠にきびしく候をりから。皆さま御健やかに暮し遊ばされ御祝ひ申上げまらせ候。さて明後二十一日は父の誕生日に御座候ところ、本年は遷居に當り申し候ゆゑ、當日夕刻より、いさゝかの御食事を差上げたくと存じ御案内申上げまらせ候。時節柄とて御迷惑の御こと、は存じ上げ候へども、まげて御出向き下され候はと、この上もなき仕合せに存じ上げ候。かしこ。

第四節 贈物

一 土産物を贈る

永の旅を終へて昨日京都から歸りました。底冷えのする京都の寒さに沁みただのございませうか、それとも忙しい旅の疲れでございませうか、何やら風邪心地にて、使ひにて御免下さいませ。

かねてお好きだと伺ひました珍品堂の千枚漬、一箱お届け申上げます。まづは右まで。お風邪召しませぬやうお大切に。

二 結婚の祝品を贈る

いよく御婚禮のお日どりがお定りになりましたさうで、お目出たく存じます。

わたくし今朝目がさめたら、すぐにお悦びにおうかがひするつもりでしたけれど、お兄さまが明日僕と一緒に往かうと仰るので、伺ふのは明日になります。折角私の一帯にお祝品を差上げようと思ひしましたので、せめてその品だけ先にお届けすることにいたしました。

あなたが幸福にお目覚めになる今朝、枕許におかれるこの品が、どうかお気に召しますやうに、お召物はお兄さまと私の共同圖案、幸さきよく昨日京都から持つて来てくれました。

別の品は、お兄さまにお見せすると笑はれますから、御存知ないのです。わたくしの心ばかりどうかお出でになる日まで、御婚約のお方の、御寫眞をその日の後は、二人お揃ひのを入れて下さいまし。可説。

三 到来品を贈る

長雨もやう／＼あがりましたやうです。その後御機嫌およろ

しくお過しの御こと、存じ上げます。

さて只今國元の親戚から、名産の二十世紀茶をたくさんに送りこしました。幸ひ取扱ひがよろしかつたと見えて、痛んでありませんので、新しいうちに先生に召上つて頂きたいと存じます。久しぶりに色々お話し聞えうけたまはりたく、私持参いたしますつもりでございましたところ、急に據ない用事で他出いたしますので、とりあへず使に持たせました次第でございます。あしからず御許し願ひ上げます。かしこ。

四 新茶に添へて

拙き文にて申上げまらせ候。父こと當地へ参り候てより、老後のたのしみにと栽培いたし候茶園、この程何れの本も新芽をふき候まゝ、私どもに摘みとらせ、怪しき手つきにて製し候まゝ、一袋まらせ候。書留小包といたし候へば、この文よりも後れて届き申すべく、色香も風味も共に御口には叶ふまじく候へども、たゞ／＼茶の本場にて出来し御を御笑味願ひあげまらせ候。かしこ。

五 秋蟲を贈る

六 寫眞を贈る

田舎の乳母の許より、土産として數多の鈴蟲を送り來り候まゝ、一籠おわけ致しまらせ候。貫きとめぬ玉の散る、草むらの中にすだく秋の音を、満き御書室に養ひたまはゞ、いと風流なることに候。ふべく、長き夜の御つれ／＼を慰めたまへば、蟲のみの喜びにあらじと存じまらせ候。かしこ。

七 招待券を贈る

先日は長い間お邪魔いたしました。歸ると母が私の長居に驚いて居りますのよ。

貴女のお母様もさうお思ひになつたかと思つて、急にはづかしくなりましたわ。

同封の切符は、従妹の學校の映畫會のでございます。貴女まだ見ていらつしやらないと、いつか仰しやつたので、丁度その映畫でしたから差上げます。

但しこれは、どうせ従妹から押しつけられたのでございますから、お買ひ上げ願ふのではなく、失禮ながら御進呈申し上げるのでございます。當日私も参りますから、なるべくいらつして下さいませ。かしこ。

八 中元に添へて

日にましお暑くなつて参りましたが、皆さま御機嫌宜はしくいらつしやいますか、その後は絶えて御無沙汰いたし誠に申謝も御座いませぬ。休日には是非一度お伺ひ申さうと、主人もお噂ばかり致して居りますが、新居のこととて次々と新しい用事におはれてついで失禮致して居ります。お蔭さまで私こと幸福にその日々を送つて居りますから、どうぞ御休心下さいませやう、結婚前の御言葉どほり主人も誠に優しくしてくれまますのでいつも心のうちで皆様に御禮申して居ります。月末

になりましたら主人も三四日休暇もとり、展覧かたぐい郷里につれゆく申して居ります。それを楽しみに私も毎日一生懸命に家事に専んで居ります。別送の品は誠に御礼しいものでございますが、御中元のおしるしまでに御笑納下さいませ。主人からもくれぐれも宜しくとのこと御座います。本来ならば是非お伺ひ致さなければならぬのでございますが、御存じの通り日曜以外は全く私ひとりなので、留守に致すこともならず失禮とは存じながら郵送申上げました。悪しからずお許し下さいませ。いづれ郷里から歸りましたら、主人と一しよにお伺ひ申上げます。末筆ながら皆さまくれぐれも、御自愛のほど祈り上げます。かしこ。

九 歳暮の品を贈る

今年の日數も残りすくなに相成り候をりから、何かと御忙しくいらせられ候御こととお察し申上げ候。さてこの品國許名産の鹽麩にて、味も國自慢の心がらにや、おいしきやうに存せられ候まゝ、歳暮の御笑草に進じまらせ候。よろづは春永にゆるく御伺ひ申上ぐべく候。かしこ。

十 餞別を贈る

勝弘さんにはいよく御出征のお知らせ、頼もしき若武者の御出陣の意氣は、さこそと御祝ひ申し上げます。どうぞ勝つて御無事にと衷心から祈り上げます。

何なりと心をこめて御餞別をと考へましたが、軍装の御身に煩はしきお荷物となるものは御迷惑でもあり、また同じやうな品の重なるも無益のこと、いろいろ案じました末、日頃御昵懇の勝弘さんゆゑ、いつそ御自分で、何なりと御入用の品を調べて役立て、戴けたらと、失禮ながら商品切手お届け致させました。これは品物を選ばまごころを面倒がつたのでございませぬ。考へて下さうさせて戴くのでございますから、勝弘さんにもどうぞ、よろしくお傳へ下さいませ。かしこ。

第五節 依 頼

一 手傳を頼む

朝晩は少し冷えくして來ましたが、皆さまお障りなくいらつしやいますか。さて私もおかけ様で、何の異状もなく、いよく産月も近づきました。お産婆さんのお話では、來月早々か

二 女中の世話を頼む

平素御無沙汰ばかりしてゐてお願ひごだけは遠慮なく、一寸

らお産の用意をしなればならない様子です。御存じの通り、女中は來たばかりで、まだ家の勝手をのみこむひまがなく、私がお床についてしまつたら、さぞ不行届ばかりでまごつくだらうと気がかりになります。それで、お兄様に相談しましたら家政の實習にもなつて丁度いゝから、この際あなたに來て手傳つてもらひなさいと仰有るんです。

でもあなたもお若いのですから、お産の手傳ひなどおいやでせうと思ひますが、お願ひ出來ますかしら？

尤もお産の手傳ひとはいつても、何もあなたにその方の事を頼むするのではありません。看護婦は別に頼みますから、あなたにお料理だの、お兄様のお身の廻りの世話だの、お客様に應対だの、女中を監督しながらそんなことをして頂きたいのですわ。

お母様にお話して御承諾を願ひ、その上でどうぞいらして下さるやう御ねがひします。それでは御返事をおまちして居ります。かしこ。

氣取かしいやうに存じましたが、例のこととお許し下さるものと、自分ぎめいたし、早速ながら申し上げます。今度女中が園許で縁があつたとかで、兩親からお暇をと申して来ました。當人は私のお産のあることも知つて居ますから、大變に氣の毒がつて、式の前日まで置いて頂くなどと申してくれませんが、早く代りを入れて償らしてもらつてと思ひますので、至急一人お世話願ひたいのでございます。年は十七位から二十頃まで、丈夫で素直な人であれば外になんの注文もございません。お給金は何圓くらゐ、盆暮には應分の心づけを致します。その外私共の何もかもよく御存じのあなた様ありのまゝ、先方にお話下さいませ。あなた様のお目鏡に叶つた人なら、お目見えなどの手数をばさき、直ぐにお取りきめ下さいまして、一寸も早くおよこし頂きたいと存じます。

私は不思議にも女中運がよいので、今度もきつとよい人が来てくれるものと信じて楽しみにして居ります。どうか何分にもお願ひ申し上げます。かしこ。

三 留守を頼む

文して申上げ候。いつも乍ら俄の雇立ちにて御都合如何な

らんかと存じ候へども、主人こと先程より脚氣の氣味にて憐れ居り候ところ、先頃中修善寺へ参られ候主人御友達の許より、頻りに閑靜なる同地へ轉地いたされてはと仰せ越され候まゝ、當人も漸くその氣になり、急に候へども明朝五時の東京驛發にて、私共々にて出立のことと相定まり申し候。就ては留守の程、女中どものみにては餘りに心許なく候へば、伯母様を一週間ばかり拜借願はれ間敷候や。御宅様にては御忙がしく入らせられ候折ふし、誠に恐入り候へども、毎度の御親切様に甘へ参らせて、このこと如何にやと、先は御ねがひまでかしこ。

四 保證を頼む

皆さまお變りもなくいらせられますことと、存じ上げます。さて、この四月より妹の延子が、日本女子大學の家政科に入學のため十日には上京入舎の運びとなりましたが、どなたか一人、東京で保證人をとふことなので、伯父さまにお願ひ申上げたいと存じますが、如何でございませうか。甚だ手前勝手のことながら、御承諾いたしけるものと存じ、九日には私が連れて上京参上いたすつもりで居ります。どう

ぞよろしくお願ひ申します。

なほ、お目もじの折に萬々申し上げます。とりあへず一筆。

五 見習奉公の周施を頼む

寒い／＼と思つて居りますうちに、彼岸櫻も咲き初めたやうでございます。皆様お變りございませんか。さて今日はお願ひがあるのでございます。御存じの信子こと今年は十八に相成り實科高女を出ましてから、只今家に居りますが、何分田舎のことゆゑ言葉遣ひも行儀作法も辨へぬものですから、年寄が心配を致しまして、行儀作見習にとやかましく申され、當人もその氣になりましたので、此の際どこか適當のところがございますいたら、お世話願ひたいと存じます。

お顔も廣くいらつしやるし、いつも御親切に仰有つて下さいますまゝ、勝手なお願ひ申し上げます。別便にて當地の名物もろみ漬一樽お送り申し上げます。御笑味下さいまし。かしこ。

六 看護婦の周施を乞ふ

文して急ぎお願ひ申上げまらせ候。本年十歳になる末の弟こと去る十五日俄に發熱いたし、ついで多量の出血有之候

まゝ、驚きて最寄の醫師に來診を求め候ところ、此邊にてはついぞ聞きなれぬウイルス病とかにて、病勢は餘程激しいとのこと、只今のところ病床に仰臥したるまゝにて動くことすら得ず、氷嚢にて腸や胸を冷やさねば、危険との醫師の注意に御座候。就ては然るべき看護婦を相尋ね候へども、御合長期にわたることとて成るべく正直難者なる者がよろしからんとのこと、不圖御妹様御病氣の節、御屬ひなされ候方を思ひ起し候。若しあなた様御存じの方に候はば、他を斷つても當方へ来て下さるやう御口添へいたゞき度、まことに勝手なことのみに申上げて、何とも相濟まぬことながら、よろしくお願ひ申上げまらせ候。かしこ。

七 買物を頼む

二三日前お母さまにお目に懸つて御様子お聞き致しましたがその節東京であなたに見立てゝおもらひになつたと言つて、好い柄のおひとへ着ていらつしやいました。お見立てほんとうに御上手ね。それで御願ひするわけではありませんけれど、買物少しなすつていたゞけませんかしら。べつに急ぐものでもありませんから、夏やすみに御歸省になる時で結構です。

品物はフランス刺繍の材料一切ですの。そして虫のいゝ考へ
 かも知れませんが、お休みの間にあなたに教へて頂かうといふ
 計置なの。私毎日御宅へ通つて、あの落葉松の緑蔭で教へて頂
 くことにすつかり決めてをるんですもの。それにも一つ、メリ
 ヤスとガーターの手編器をお願ひしたいんですけれど、面倒だ
 なんておつしやらないで、どうぞお願ひ致します。
 御返事も伺はないで勝手にすけれど、こゝへ爲替をお入れし
 ておきました。どうぞ御自分の、お積りで萬事よろしきやう御
 選び下さいませ。賢。

八 婿の周旋を乞ふ

文して聞え上げ候。元日主人より一寸申上げ候とほり、
 一つ心配去れば又一つにて、此度は何子の婿養子のことにて
 彼此心を痛め居り候。この儀相済み候上はいよく隠居い
 たして宜しく、後は後の事として、相當の人物御心づき候は
 ら御知らせ下され度願ひ上げまらせ候。分家の上は當人達の
 望みによりて、何なりと商業いたさせ申すべき決心に御座候。
 常々御交際廣くあらせらるゝ御内様ゆる御良縁おはすべしとの
 考へより、斯くは御願申上げまらせ候。精しうは御目もじ

の上にて。かしこ。

九 貸家の周旋を頼む

いつも御無沙汰のみにて、申譯もございません。
 さて突然ながら、此の度兄が御地の一中學に奉職いたすこと
 になりました。一人で赴任のつもりで居りましたところ御地は
 亡き父に縁故の地でもございますので、いつそ家内中であら
 申すのでございます。家内中と申しまして三人きりの身輕さ
 ですが、もしそちらに三十圓くらゐで適當な貸家がありましたら、
 四月早々の兄の赴任に伴つてまゐりたいと思ひます。お探
 していただけるでございませうか。まことに盡のよいお願ひ
 ですが、どうぞお力をお貸し下さいますやう、ぜひお願ひ
 申上げます。かしこ。

十 書物の借用を乞ふ

いつぞや御目もじの節、御書架のうちに數多く飾られし書物
 のうち、一段と妾の目を惹きしは勿忘草とか申す表装の美はし
 き一冊にて候ひしまゝ、一二頁見まらせ候ところ、たま
 らなく面白く覽え、御あきに任せ拜借のこと御願申上げ置き候

が、御都合の程如何に御座候や、催促がましくて誠に恐入り
 候へどもこの頃御あきに候はゞ、秋の夜長のつれづれに拜見
 いたしたく、失禮ながら御願申上げまらせ候。かしこ

十一 返金の延期を乞ふ

昨年末は厚かましい申出を御快諾下さいまして、拜借致しま
 した金子、その節この六月にはお返し致しますお約束でござい
 ましたが、どう遺縁を致しましてもお返しすることが出来兼ね
 ますので、何んとお詫びしてよろしいやら、唯々御寛大なお心
 にお頼りして、お許しを願ふより外ございませぬ。

あの急場をお助け下さいました御厚意を考へますと、こんな
 ことは申し上げられた義理でないことは、萬々承知致して居り
 ますが、何分にもこの五月に主人が思はぬ大病を致しまして、
 その入院費用に會社からこの六月の賞與の一部を前借致しまし
 たところ、近頃の諸材料高や何やら彼やらで、會社の方が餘り
 成積がよくなく、そのため賞與が案外に少なくて、ほんとに困り
 切つてしまつたやうな次第でございませぬ。

右のやうな事情でございませぬので、勝手な上に勝手なことを
 お願ひ致しまして何んとも恐縮ではございますが、十二月の賞

與まで御猶豫願へれば、何んとか都合をつけましてお返しする
 決心をして居ります。主人からお詫びする筈でございませぬが
 まだお目にかゝつてゐませんので、私からよくお詫びしてお
 願ひするやう申して居ります。
 何卒事情御察し下さいまして、勝手な申出をおきゝ入れ下さ
 いますやうお願ひいたします。かしこ

第六節 謝 禮

一 借物を返すお禮

先日はお大切のお品拜借いたしましたして、まことに有りがたう
 存じました。とりそろへ只今使ひにもたせてお返し申上げます
 から、お改めの上御受取り下さいませ。
 おかけ様にて、はじめての佛事を滞りなくはこぶことが出
 来まして、安堵いたしました。何分歸來早々のことではござい
 ますし、これまで萬事手輕な旅の上の暮しにて、この地の流を
 わきまへませぬ、折目正しい目上の方々をお迎へいたすには、
 調度などの用意もうちませぬこととて、いかやうにしたものか
 と戸惑ひいたしました。いろいろお心づけの上、お大切の品

々まで御用立頂き、無事に相すませました。厚く御禮申上げます。

紙包みの品は到来ものにて失禮でございますが、少しばかり御覽に入れます。どうぞ御笑味下さいませ。

いづれ一兩日後、逗留客も引取りました上にて参上、いろいろ申述べたくと存じをりますが、とりあへず書中を以て御禮のみ申上げます。

末筆ながら御主人さまへも、この御禮よろしくお傳へ下さいますやう御願ひ申上げます。先は右まで。かしこ。

二 招待を受けし禮

昨夜の輝くばかり美しき、お仕合せなあなたのお姿、今もまだ眼に浮び居り候。

また背の君の若々しく御眉の稜々しき頼もしさ。無骨に見え給ふ御口許に時折の笑みのさわやかさ。貴女の清純な堅實な御結婚生活の道、目のあたり見る心地いたし、心より貴女の御幸福をお祝ひ申上げ候。

まづは右御禮やら、今更にお慶びの思ひやら申上げたたく、かしこ。

三 友達からの贈物を謝す

昨日は遠方までわざわざの御使にてまことにおそれいり候。かずくの頂き物、ことに重寶なる品、思召いりのこと、厚く御禮申上げ候。唯今のわびずまひには勿體なる存じ候。御見たての御衿、其他のうつくしきもの、いかばかりこの夏のたのしみと、何もなにもあつう喜びきこえ上げ候。時候よき頃になり候は、御稽古の御歸りを御より遊ばしていただきたく候。まづは御禮まで。かしこ。

四 餞別を受けし禮

長男忠雄こと、此の度出征軍人の榮譽を荷ひ、お國のお役に立つ者と相成り候。につきては、早速お心をこめし御祝詞、御勵ましのお言葉とともに、御家寶の兼光の名刀一振御贈りいただき、當人の喜びは申しやうもなく、この太刀とりて戰場に必ず高き勳しをと、今より勇みをり候。熱きお心づくしのほどたゞく有難く、厚く御禮申上げ候。かゝる皆様の御厚志に願まされつゝ、我子をいくさの場に送る母の心も強く相成り申し候。手柄して皆様のお心に報いよと、雄々しく子を見送り

申すべく候。

まづは取り敢へず、忝き御贈物への御禮申上げたたく。

あら／＼かしこ

五人にものを頼みし禮

先日は御迷惑なことお願ひいたしましたして、その上私はよんどころないことで、そのまゝ郷里の方へまゐり、昨夜歸りますと留守に御手紙をいたゞいてをりました。早速御承りたまはり、まことに嬉しうございました。厚く御禮申上げます。延引ながら御禮のみ。かしこ

六 時候見舞の禮

御手紙ありがたく拜し上げ候。御不快にて候ひしよし、その後いかゞ渡らせられ候や、存じ上げぬことゝて御見舞も申上げず、かへつて御手紙いたゞき恐れ入り候。こなたも冬の色さむげに相成り、木枯に惜しげもなう木の葉ちりゆき候。さま心細う眺めやられ候。時候があなた様も御加養專一に願ひ上げ候。とりあへず御禮かた／＼御うかゞひまで。かしこ

七 旅行中世話になつた禮

一筆しめし参らせ候。その後皆様には御變りもあらせられぬ由にて、何よりも慶ばしきことゝ存じまゐらせ候。さて件某こと御地逗留中は、何かと一方ならぬ御心添へに預り、御厚情の程は御禮の申上げやうもこれなく、家内一同感謝いたし居り候。當人はいろ／＼と、樂しかりしお話など致し、今より來年の夏が待たれるなど、大喜びに御座候。その中御暇の節には、あなた様にも御遊びにお越し下され度、先は御禮までに。かしこ

八 病氣見舞の禮

昨日はお忙しい中を、わざわざ和子のお見舞にお越し下さいまして有難う存じます。昨日は熱もあまり上りませず、元氣にて夜まで話を皆に聞かせ、なほ頂戴いたしましたお人形を倦かず眺め、きげんよく致して居りまして、ほんたうに有難う存じます。治つたら、お話の仔猫をいたゞくのだと、楽しみに早くなほりたがつてゐるやうでございます。まづはうれしくて御禮まで。かしこ。

九 滞在中の禮

昨夜の九時に歸つて来ました。今日一日中、遊び疲れた體を寢床に伸ばして、晩まで寢てしまつて、今朝起きて湯に入つて御飯をたべて、打水をした庭に面した机の前につたり坐つたところです。

本當に此年の夏は面白かつた。夏休みといふものも、これで十度ばかりしたわけですが、こんなに愉快に過した夏休みは生れて始めてですわ。三十日といふ日が、こんなに早くたつものかと不思議に思ひます。

まあ、お前、家を忘れてしまつたのぢやないかと、歸つた私の顔を見て母があきれてみました。本當に家を忘れてしまつてゐたのですわ。

毎日／＼の生活が、ほんたうに解き放たれた、自由な明るい別世界であつたのですが、あの雷雨になつた日の川遊び、賢一様のお歸りになつた日のボートの島めぐり、月の美しかつた夜の演奏會などが、特別に強い思ひ出になつて、微笑をもつて胸にうき出て來ます。

ほんとに面白かつた、嬉しかつた。皆さんの御心切が忘れら

れない。皆さんお一人お一人にお禮を申して下さいね。では、この次は學校でお會ひします。さよなら。

十 應援の勞を謝す

一筆示し上げ候。昨夜の會には御忙しきところを、御手傳として御女中某様を御差し向け下され、寒に忝く厚く御禮申上げまゐらせ候。御應援にて何程の失態もなく、萬事都合よく相運び、家内一同喜び居り候。此半襟有り合せの品ながら御取次願はしく、柄は少し派手かと存じ候へども御勘辨下さるやう御傳へ賜はりたく、先は取敢ず手紙にて御禮申上げまゐらせ候。かしこ

十一 恩師への禮

在校中は一方ならぬ御恩になりました。ことに寄宿舎にて五年の長い間、肉親も及ばぬお世話にあづかりましたこと、御禮の申上げやうもございません。學校を離れ寄宿舎にわかれ、先生をはなれて、急に身のよりどころを失つたやうに心細うございます。郷里の家では、みんな私を勿體ないほど歓迎して呉れるの

でございます。でもそれだけに祖母も母も、きつと一人前の女のひとのやうに期待してゐてくれますことゝ存じ、何か心配なのでございます。

でも「御元氣を出して」といつも仰有る先生のお言葉を胸にくり返して、必ずやつてまゐるつもりでございます。

先生いつもお丈夫でお元氣でいらしつて下さいませやう、遙にお祈り申し上げます。かしこ

一二 舊主人への禮

その後皆々さま御變りもなくお過しでいらつしやいませうか梅雨も近づき、奥様が御元氣に先に立つて、御指圖を遊ばしていらつしやいます御様子をお傳ひ申上げておなつかしく、存じ上げて居ります。

郷里に歸りましたからは家事一切、私が引受けましたので大變喜ばれて居ります。これも皆奥様の御導きの御蔭でございます。ことに無駄費をせぬやうにとの御諭しにより、お給金を積立て、頂きましたことは、今度の結婚の支度に目に見えて役立ちますので、父母が何よりも有難いことゝ喜んで居ります。歸りました翌日結納をすませましたが、式は秋の取入れがす

んでからのことでございます。母から委しく聞きましたのでは先方は小作農ですがトラックを運轉することが出来るので、村の産業組合の工場に働きに行き、百姓は主に私にして欲しいと申して居るさうでございます。幸ひ二人とも頑丈でございますから、力を協せて働かうと今から心に勇んでをります。けれども何と申ししてもすべてがこれからの私共の生活でございます。日頃の皆様の御諭しを心に留めて願ひはいたしますが、どうぞこの後も何かとお導き下さいますやう御願ひ申し上げます。あら／＼かしこ

十三 見送りを謝す

先夜はお事多い折をわざ／＼御見送りいたゞきまして恐れ入りました。お寒い時ではございましたし御遠路を御心配いたゞきませんやうにと、わざと時間もはつきりとは申上げずをりましたのに、御親切のほどありがたく御禮申上げます。その節は遠しうお別れ申上げ、重ね／＼本意ないことに存じました。おかげさまで途中元氣に二日後當地着、たゞちに表記の通りの寓居に落つきました。まだ一向家の中の整理もつきませず、従つて新しい土地の様子もわからずにをりますすが、そのうちい

ろく見聞いたしまして御便り申上げたく存じてをります。まづは御禮のみ、未筆ながら御主人様へよろしく御申上願ひあげます。かしこ。

第七節 問合(照會)

一 花の見頃を問合す

文してまゐらせ候。この頃の快晴に暖氣も日増に加はり、庭の紅梅もそろ／＼と散りそめ候へば、若にのみ閉ぢこもり居るはいとほしく覺え候。折柄、本日の新報によれば、上野の彼岸櫻三四分に咲き出で候とのこと、そとに心も浮立ち申し候。就ては、弟どもの望みもあり、散りもせず、咲きも残らぬ好時節に逢ひたしと存じ居り候。飛鳥荒川堤あたりの眞盛りは、いつ頃と相成り候や、御手数まことに恐入り候へども、一筆おしらせ下されたくお安きに任せ、右御願ひ申上げまゐらせ候。賢

二 訪問について先方の都合を問合す

昨夜は會の方へ御出席がございませんでしたので、お目にかゝれず失望いたしました。その節みや子様にも、皆様でさし上げ

るお祝ひものゝ、御相談がちよつとありましたが、繕りませんでした。それにつき兩三日うちに、ぜひお伺ひいたしたいと存じます。明後日か明後々日のうちに、お差支へはございませんか。御都合をうかがはせていただきたく存じます。かしこ

三 ビクニツクにつき打合す

昨日はお妹さまのお使ひで、いろ／＼と有がたう存じました。私ちやうど出かけるところでして、大變失禮いたしました。あれから松田さまの御宅に伺ひましたところ、俄かに返子行のお話しがきまりましたこの八日の午前八時四十五分の東京驛發の汽車で参ることになりました。御辨當は御めい／＼お持ち下さるようにといふことでございます。當日は是非お天氣であつてほしいものと存じます。涼しい海の風に吹かれながら、お話するのを楽しんでをります。八時半までに必らずプラットホームに集ることに致しませう。取急ぎおしらせまで。かしこ

四 送別會の日取を問合す

暫く御目にかゝる折もなくてをりましたところ、此間山本さんから、今度あなたがヨーロッパの方に御旅行なさいますと

伺ひました。かねて御望みのこと何よりの御こととおめでたくおうらやましく存じます。ついでには御出立の日も近々になりましたことゝ存じますから、一層御忙しいとは存じますが、昔の同窓のもの達でお別れのしるしを致したいと存じます。何卒その心持をお受け下さいますやう、御招き申上げます。

さてその日取はいつがよろしいか、御都合をお伺ひ致したいと存じます。いろ／＼お差支への多いことゝは存じますが、どうぞ私どもの失望いたしませんやうな御返事を頂き度く、お待ち申してをります。どうぞお考へ下さいませ。かしこ。

五 縁談について問合す

拙なき文にて申上げまゐらせ候。さて事ある時の外は、いつも／＼勝手なる御無沙汰にて、何とも申譯これなく候。さて兼々御耳に入れ置き候。伴一郎との縁談、この程どうやら話もまとまりげに相成り、御縁女の方は、何様御次女と未だ確かには候はねど、略きまり申し候。承れば御宅のお嬢様とは一つ學校にておはす由、就ては誠にさしつたる話に候へども學校の成績一般性行の模範など御つゝみなき處を御漏し下され間敷候や、實は参上の上にてお願ひ致すべきに候へども、何

やら角やら取紛れ候際とて、失禮ながら文して御尋ね申上げまゐらせ候。賢

六 荷物不着につき問合す

御心にかけられ三寶柑お送り下さいました由、九日にお手紙頂戴いたし、みんな大好きなことゝて、首を長くして待つて居りますうち、もう十日も経ちますのにまだ着かないので兄が毎日學校から歸りますと「まだ来ないの、腐つちまふよ」とか「途中でどうかしちやつたんだよ」とか、騒ぐのでございます。母も折角お心盡しのものゆゑ、一度お問ひ合せ申上げたらと申しますので、失禮でございませうけれどお伺ひ申上げます。以上。

七 荷物の着否を問合す

先日御依頼の浴衣地十反、一週間前に小包二個にわけてお送り申上げましたが、お手元にとゞきましたでせうか。いつの間にかすつかり夏になりまして、湯上りに、紺の香りの新しい浴衣をお待ちかねと存じ少しも早くお送りしようと郵便局が近いまゝに小包に致しました。後で鐵道便の方が、矢張り早かつたかもしれないと気がつきました。

柄などお好みにはないものがあつてはいけないと存じまして、あらかじめ呉服屋には了解を得てございませうから何卒御遠慮なく御返し下さいませ。然しあまりおそくなりましては、季節のある品物でもございませうし、所替へさすのも如何と存じ、荷物の着否おたづねかたく御意をお伺ひ申上げる次第でございませう。かしこ。

八 料理法につき問合せ

いつぞや娘こと御伺ひ致し候節、御馳走に相成り候何々と申す御料理、まことに味美く頂き候由にて、折々思ひ出してはせびられ候へども、恥しながら調理法を少しも存せぬことにて言譯に困じ果て候。いかにして御調べ候ものや、詳しく御教を受けて一度は試みた候へば、御忙しきところを誠に恐れ入り候へども、何卒御示し下され度くれぐれも御願ひ申上げまゐらせ候。かしこ。

九 病状を問合せ

芳郎ちゃんこの節療直にて、毎日病院へお通ひになつていらつしやると伺ひ、驚きました。もう一月近くにもおなりになる

さうで、その後の御容態は如何でいらつしやいますの。お案じ致して居ります。

二三年前に私の友達の妹さんが、やはり療直をなさいました。漢法醫におかゝりになつて全快なすつたの事を聞いて居ります。もし何でございしたら、早速問合せ、確かなところお知らせ申上げてもよろしう御座います。

尙この梨は越後から送つてまゐりましたもの、あまりおいしくもございせんが、今頃お珍らしいのを取得にほんの二三つお目にかけます。どうぞ芳郎ちゃんお大事に。かしこ。

第八節 通知

一 嫁ぐことを友に知らず

和子様。私たうとう嫁ぐことになりました。一度は年が若すぎるからと言つて断つたのですが、叔母達が入笠しく言つて仕様がなのです。私はもう、あてもない暗い道に、引ずり込まれるやうな気がしてなりません。恐ろしいやうな、又そゝもないやうな。

止めにしやうか知らんと幾度か考へましたけれど、この私に何でそのやうなことが。つい思ひ切つてきめてしまひました。

昨日行李の中から、肩の上のある香物を見出しまして、何だか非常になつかしい氣持になりました。そして此の香物で、もう一度あのおハネの頃が、繰り返して見たかつたのでした。

ではさよなら。

二 出産の通知

先日は御遠方の處を折角お出で頂きましたのに、何のおかまひも申上げず失禮致しました。お土産に頂きました品は大變結構でございましたので、弟達は大喜び、夏休みに海水浴に伺はせて頂く時のたのしみが殖えたなど申して居ります。厚く御禮申上げます。さてその節もいろ／＼御心にかけて、御案じ下さいました姉のところ、今朝がた女の子が生まれました。初めての産にしては大そう軽くて幸だつたとか、鼻すぢの通つたい子だとか、母は大さわざ致して居ります。私もお蔭さまで漸く叔母になれたわけでございます。たゞ珍らしいばかりでまだ可愛がることは出来ませんけれど、嬉しいことは人一倍嬉しうございませう。姉も元氣で居りますからどうか御心安う思召し下さいませ。母は姉の方へ參つて居りますので、とりあへず私から御知らせ申上げます。かしこ。

三 入學の通知

先日より梅子の入學試験のこと、お心におかけ下さいましてありがたう存じました。今日發表がございましたが、お蔭で入學が出来ました。先日の學科試験では入學の中にはいつては居りましたもの、一昨日の口頭試験の結果が氣つかはれてなりませんでした。今日の發表で漸く安心いたしました。準備中は一と通りならぬ御心配をおかけ申し、いろ／＼細々と御注意をいたゞきありがたう存じました。入學の叶ひましたのも、全くおかげ様とあつく御禮を申上げます。近日參上いたしたいと存じます。始終おこゝろにおかけ下さいましたあなた様には、第一にお知らせ申したく、取りあへず一筆とりいそぎまして。さよなら。

四 卒業の通知

伯母様、御元氣でいらつしやいますか。木の芽だちの頃は例年御加減がおわるいが、今年は何でいらつしやいますか、御案じ申してをります。

さて、およろこび下さいませ。様はおかげ様で卒業いたしました。

した。式の當日はまた總代で答辭を述べることになり、日頃先生方から御うけした御恩の御禮も申すことが出来ましたが、友達同志の親しいものといよく別れて、今日から社會へ出て行くのだなどといふやうなことを申述べてをりますと、自然に涙さへ出て、卒業式の喜びの悲しみといふやうなことをしみる味はひました。

職業婦人としての教育をうけて世に出てゆく私どもへ、校長先生を初め諸先生の御慈みは決して忘れることは出来ません。私共の歩み方一つで、この學校の價値も信用も高まるのだと考へますと、いよく責任を感じます。

この頃になつて急に、すべてのものが重新しく見られます。社會の一年生になつたからでございませう。

伯母様！ どうぞ今までも増して、此一年生をお教へ下さりませ。まづはお知らせをかね御禮まで。かしこ。

五 就職をしらす

文してまゐらせ候。私こと就職については、一方ならぬ御心遣ひに預り、有り難く幾重にも御禮申上げまゐらせ候。就ては一昨日御紹介状を頂きし某様を、昨日會社にお訪ね申上

げ候ところ、同社のタイピストに一人缺員ある由にて、何角と御話し有之、その場は採否何れとも仰せられずお暇乞ひ申し候ひしが、只今採用する旨御通知を頂き候。實際私にとりては願つてもなき適當の務めに此上もなく喜ばしく、これも皆御許儀御配慮の御恩と感謝いたし居り候。明後日より出勤すべきやう申し越され候へば、その心にて用意を整へ、明晩にても一度御伺ひ申上げ、萬々お話し申し上げまゐらすべく候へども、取敢ず右御しらせまで。あなかしこ。

六 歸宅をしらす

兩三日と思ひし京阪の旅も、案外長逗留と相成り申し、昨夜やうやく歸宅いたし候。留守中は萬事にかけて御世話下され御蔭様にて心安り旅行いたし、有り難く御禮申上げまゐらせ候。別包は粗末ながら何子様へのお土産にと、西陣の帯地に御座候へば、何卒御納め下され度候。一兩日中には御伺ひ申上げよろづ聞え上ぐべく候へども、取敢ず御報かたぐ御禮まで。あらしくかしこ。

七 安着をしらす

遊場を設け、いつもの年ならば判官には村長、師直には権助の役割なるに、本年は東京より何々一座の俳優を雇ひて一芝居打たんと計畫にて、誰も彼も狂氣のやうに喜び居り申し候。田舎廻りの呉服屋の樂隊入れての賣込みに、娘たちは強請り親共は首を横に振る光景も可笑しく、されど洋服屋は洗石に參らず候。電車の便ければ、一時間足らずに候へば、御妹様たち御同道にて御散歩かたぐ是非お越し下されたく、祭禮は明後日より始まり申し候。かしこ。

九 編物の仕上りをしらす

豫て御依頼になつた編物、意外に倭れまして済みません。今朝やうやく出来上りました。輪郭を青でとの仰せで御座いました。彩色の配合上、青ではどうも面白くないので、勝手ながら白に致しました。若し御覽の上で御氣に召さぬやうなら、どのやうにも編み直しますから、御遠慮なく仰付け下さい。赤が少々残りましたので、光ちゃんの手袋を拵へて置きました。持つて上りたいので御座います。折あしく留守番がありましたので、誠に申兼ねますが、御女中さんでも一寸御遣はし下さいませ。かしこ。

八 農況をしらす

拙なき文して申上げまゐらせ候。本年は氣候順調なる上に農の害も少なかりしこととて、何處もかしこも、おしなべて十年ぶりの豊年、千町小田には黄金の波をみなきらせ、村人は錦着たる心地にて、何れの家にも喜びの聲に充たされぬは無之候。豊年を祝ふ秋祭りも近づき候こととて、鎮守の宮には青の幟白の旗などとりくに秋晴の空に翻り、早稻刈りし跡には假の

出發の折には御忙しきところわざ／＼お見送り戴き、主人ともく恐縮致し居り候。ことに奥様からは、幼い子供づれの私へ、こま／＼とおん心づかひ賜り、うれしく有難く、涙ぐむばかりに御名残をしみつゝ參り候。お蔭さまにて昨日無事當地に到着いたし候。二三日は旅館住ひにて候も、やがて住み移る管の家には前任の方お召使ひのボーイ待ち居り候。由、當地の社宅の方々も、皆さま御親切にお世話下され、折角人生修業など少し切なき心地にて張り詰めまゐり候。氣持も長閑にゆるむばかりにて御座候ゆゑ、何卒御安心下されたくいづれ落着きしだい、こま／＼とお便り申し上ぐべく、皆々さま御身御大切にと遙かに祈り上げ候。かしこ。

十 品物到着の通知

只今はどうも有難うございました。あゝして繕ひなほして戴くと立派にちやんと又着られます。もう古過ぎるかと思つたんですけど、あまり好きな柄なので、着物の方だけでも出来るかしらとお願ひしたら、ちやんと羽織も出来てしまつてどんなにか御丹念に纏いで下さつたかと考へると勿體なくて、急に泣きさうになつてしまひました。お母さんにそんな事おさせして申しわけありませんわ。きつと幾晩も遅くまで起きて下さつたんですわね。どうもくありがたうございました。いつまでもお元氣でね。みんなによろしく、さよなら。

十一 轉居の通知

文して申上げまゐらせ候。此度主人こと、會社の都合にて臺北の支店へ轉任と相成り、單獨にて赴任いたし候。については、不在中私と母と弟の三人暮しに、要もなき手廣の住居いかよかと思はれ、下記のところへ轉居いたし候。只今のところは名實ともに見る影もなき茅屋に候へども、周圍には山なども、少々はこれあり、空氣も宜しく閑靜にして、吞氣なる朝夕

を繰り返し居り候。その上御許様の近くとなりしこと何よりも頼母しく、私方よりは、折々は御邪魔に參らん心積りに候へば、御許さまにも御通りかゝりの節は、是非に御立寄り下されたく、取敢ず右御報まで。かしこ。

十二 病氣の通知

一筆示しまゐらせ候。さてとや父上様こと、此程中より兎角すぐれ給はず、御なやみ勝ちに入らせられ候ところ、本月上旬より御就床遊ばされ、面白からぬ御容態なれば、早速兩三名の醫師に相見せ候ひしに、見立ては何れも心臓病なる由に御座候。何分御年を取られ候上、常々深く御嗜好遊ばされし酒も原因とかにて、今更詮方もなき有様に候。今がむつかしいとの事には無之、御氣分などは至つてお確かにあらせられ候へど、人の命の程は、いつがいつとも計り難く候へば、この由を以て舎監の先生にもお願ひなされ、此程すこさず一度御歸省ある間敷や、兄どもは今よりその様に騒ぐななどと申し候へども、母は老ひの氣せはしく、何分にも心もとなくて一筆進しまゐらせ候。

存せず、又一つには、勉強中の者に要なき心配せんも心うしと、わざと差しひかへ候。急とは申さず候へども、成るべく近々に御歸り下さるべく、先は右御しらせまで。

あら〜かしこ。

十三 病氣の全快を知らす

母こと病中は、永々の間、毎日のやうに御見舞下され、御親切の段厚く御禮申上げまゐらせ候。一時は危篤に陥りし病氣も、皆様の厚き御親切のお蔭にて、その後次第に快方に向ひこの程やうやく床上げたし候間、何卒御心安う思召し下され度、何れ改めて御披露の筈に御座候も、平素御心配に預りしことにて、右一寸御知らせ申上げまゐらせ候。かしこ。

第九節 誘引

一 花見に郷里の父を誘ふ

この二三日の雨の温かさにわづかな庭の土の色もめつきり春めいてまゐりました。新聞にもちらほら花のたよりが見えはじめましたが、見ごろはいづれ十日ごろと存じます。御父さま、ことしこそはどうぞ

お思ひたち遊ばして、ぜひともお出かけ下さいませ。飛鳥山あたりの混雑はお氣に召しませんでせうが、九段の招魂社や、英國大使館前あたりの静かなお濠げたの櫻は、きつと美しいとおつしやるに違ひございませぬ。まだほかに東京は廣うございませぬから、ゆつくり御滞在を願つてあちらもこちらも御案内申上げたいと存じます。私どももこの節は、やう〜少しづ〜生活の餘裕も出来てまゐりましたから、御恩がへしなど〜大げさなことを申上げるのにはございませぬが、たまにはゆつくりお遊びにいらしつて頂きたうございませぬ。どうぞぜひお待ち申上げてをりますから、御出立の日はおきまり次第お知らせ下さいませ。かしこ。

二 田舎のお祭に姉を誘ふ

いつかお姉さまがこの花が咲いたら、どんなに美しくからうとおつしやいました家の東門のところの櫻が、ぼつ〜と見頃になつてまゐりました。それだけでもぜひお見せ申したいと思つてをりましたら、この十五六兩日は、天王さまのお祭でございませぬので、この邊の郷土藝術として知られてゐるさ〜ら踊をぜひお姉さまや小さい方たちにお目にかきたいと存じます。普

通のお獅子はお祭の時には、必ず来て悪魔拂ひをしてゆくのですが、踊の方は特別に人を頼みますので、近年は家でもあまりしなかつたのですが、こんどはよい都合で上手な人が揃つてくることになりましたから、小さい人たちには殊に好評を博することとせうと思ひます。幸ひ十六日が日曜にあたりますので土曜日の午後からお泊りがけで、ぜひお出かけ下さいませ。父母からもぜひこの言づけでございます。それではお待ち申上げてをります。かしこ。

三 ビクニツクに誘ふ

打ちつよく暖かさに、春の景色いたらぬ限もなく、行きかう人々の袂も、おのづとむひゆかし心地のせられ候を、御許さまには如何に過ごさせ給へるにや、妾は今日の日曜を幸ひ、摘草しつゝ花をお宿の胡蝶の君と戯るゝを樂しみに、郊外の散歩を思立ち申し候。御許様も御一しよならば面白さも一入ならんと存じ、文して御誘ひ申上げまらせ候。必ず、花かごの君を御つれ遊ばさず候てよ。かしこ。

四 選書に誘ふ

それに就きて、母、私、妹の三個聯隊を繰り出し、早朝より援兵のため出陣のことに相定め申し候。何れ初陣のことなれば功名の程は心許なく候へば、何卒御國方よりも、御職がてら、二三個聯隊ほど御加勢願はれ間敷候や、右御誘ひかた、御願ひ申上げまらせ候。かしこ。

七 茸狩に誘ふ

昨今の秋日和いと晴々しう、家にこもり居り候はんも何となく惜しく思はれ候まゝ、明日の休暇を幸ひ、程近き天神山に茸狩催したく存じ候。春の野遊びもさることながら、晴れし秋の日の山遊も浅からぬ興これあり申すべく候。同行の者は皆々御心易き方のみに候へば、是非に御出かけ下されたく、萬一御無人にて御留守番なしとの仰せならば、宅の女中を差しつかはしても宜しく候。何分の御都合御きかせたまはりたく、先は御さそひまで。かしこ。

八 観劇に誘ふ

その後引つゞきおひきこもりの御様子と承り候が、御寒さよほど緩びまゐり候へば、追々と御元氣におなり遊ばさ

突然ながら文して申上げまらせ候。この夏の休暇中、避暑がてらに保養のため、何地の温泉に参り、暑さと共に市街の汚れを洗ひ落したく、母も一しよの筈に候へば、御都合により御許様にも御同道下され間敷候や、彼地へは既に親戚の者参り居りて、萬事好都合に候へば、費用なども多くを要せずとのことに候。出立は明後日の豫定に御座候。是非とも御供いたしたく、御知らせかた、右御誘ひ申上げまらせ候。かしこ。

五 納涼に誘ふ

晝の暑さ夜に入りても消えやらず、ほとく持てあまし候。昨今俄に大川の納涼思ひ立ち申し候。さしたる御差支これなく候はば、直ぐさま此方へ御越し待ち上げまらせ候。さしつけて失禮ながら、一寸御都合御きかせ下されたく、先は御さそひまで。かしこ。

六 子供の運動會に誘ふ

文して聞え上げ候。さてとや内の陸軍大將こと、明日は學校の秋季運動會とて、只今より上を下への大騒動に御座候。

れ候御こと、存上げ候。實は私參上いたし候て、否や仰せられぬやう御誘ひ申上ぐるつもり候ところ、只今據なきお人より御來訪のおしらせこれあり、上りかね候まゝ、取急ぎ文にて申上げ候。ほかではなく候へども、今月の歌舞伎座は非常に評判よろしく候ゆゑ、伯母さまおともをしてまゐるやう、主人のいひつけに御座候。御都合を伺ひ日を定めたく存じ候ところ、よき序にて来る十六日の切符手に入り候へば、これはまことに獨りぎめに失禮ながら、ぜひ、御一しよにお出かけ下されたく、先はお誘ひ申上げまらせ候。かしこ。

九 同窓會に誘ふ

いつぞや日比谷の音楽會の時は失禮しました。その後、ゆつくり伺はせていただきかうと思つてみましたところ、けふ幹事さんから同窓會のお知らせを頂きました。この二十日にあるのださうで是非いらつしやいませ、ゆつくりお目にかゝつてお話がしたいと思ひますわ。

お暑い時ですけれど、三笠園ならお涼しいでせうし、閑靜なところですから皆さんとたのしくお話が出来るだらうと思ひま

す。久し振で先生方にもおめにかゝれるでせうし、朝鮮からお歸りになつた三井さまからも、あちらの珍しいお話も伺へることでせうとたのしんでをります。又お食後には、何時ものやうにお遊びもあるでせう。

御都合がよろしかつたら、是非御一緒にまゐりたいと存じますが、いかゞですか。お返事をお待ち致してをります。

あらゝかしこ。

十 講座の傍聴に誘ふ

とり急ぎ申上げまゐらせ候。お忙しきところいつもいろいろ申上げ、お煩しと思召され候ことゝは存じ候へども、ぜひ御誘ひ申上げたたく別紙母の講座の規則書を御覽に入れ候。時間もわりあひに都合よろしきやうに存じ候まゝ、何卒お暇お作り遊ばし、お出向きありたくおすめ申上げ候。一流先生方の眞面目なる御講話は、私ども母にとり随分有益なることと存じ候。申込書も刷物に附随いたしをり候筈、何卒お考へ遊ばしお出向遊ばされたく候。いづれあちらにて御一緒になれることを楽しみにをり候。かしこ。

第十節 お断り

一 約束を断る

一昨日は失禮いたしました。その折のお話にて、明日曜日は御一緒に梅子さまをおたづねするお約束をいたしました。今朝になりまして、急に母が熱を出し、やすんでしまひましたので、明日は何ふことが難しくなりました。大したことはございませんので、二三日致しましたら、きつとよろしいと存じますから、又日を改めて御一緒に遊ばせて頂きたく、梅子さまの方へも只今お断りを申上げました。私だけの都合で、勝手にお約束をかへて申譯ございません。どうぞあしからず思召して下さいませ。ではいづれ。

二 借りた本を返すにつき

失禮でございますが、先達て拜借致しました御本、大そう面白く拜見致しました。早速お返し致しませうと思つてをりました。が、餘り面白ので兄に貸しましたら、何と申上げてよい一寸筆がころんで大切の御本に汚點がついてしまひました。わ

ざゝ千代子さまからお借りになつたといふのをお願ひして、無理に拜借しておきながらよすなどは、まことに合せする顔もございませぬ。さぞお腹だちのことゝ存じますが、幾重にもお詫び致しますからどうぞお許し下さいませ。千代子さまへは私方からもお詫を差上げましたが、貴女からもどうぞよろしくお言葉そへ下さるやうにお願ひ申上げます。かしこ。

三 金策の依頼を断る

御こまごまの御手紙拜見いたしましたして、御事情ふかく御察し申上げます。どのやうにか御苦勞遊ばされる御ことかと、ひとごとならず存じますが、私方でも夏この方子供たちが代り病氣をいたしましたして、不時の用意にも少しづつ心掛けてをりましたものが、漸く間に合ひましたやうなわけで、たゞ今のところお話にもならぬ不如意でございます。

お願まれ甲斐もなく、こんな御返事をさし上げますことは、私としてもまことに辛うございますが、ほかに融通を頼んでみるやうな先もございませんので、據なくお断り申上げます。切角のお申越しに何とも申譯ございませんが、あしからず思召しいたゞきたく願ひ上げます。かしこ。

四 切符の引受を断る

お久々のお文うれしく拜し上げ候。いつもいろいろと御事おほき御様子にて、お骨折さぞかしと存上げ候。御同封下され候。若葉會の切符十枚、たしかに落手致し候ところ、私こと此頃とかく健康すぐれず引こもりがちに候ため、どなた様にお願ひ申上ぐることも叶はず、残念ながらうち二枚だけ私いたゞき残り八枚お返し申上げ候。御期待にそむき、まことに心苦しきことに候へども、力及ばずたゞ御許し願上げ候。

若葉會の御公演はいつもながらお見事なることゝ存じ、妹たち今よりのしみ待上げをり候。その節は妹どもをよろしく願上げ候。まづは取りそぎ御返事まで。かしこ。

五 招待を断る

久しぶりのお手紙おなつかしく拜見いたしました。私達々ラスメートも、今は西に東にと別れてしまひますと、お逢ひする機会もすくなく、さびしうございます。一月に一度は必ずお會ひませうなど語りあひ、お約束もしながら、學校を出てしまふと、なかく思ふやうにそれが實行出来ないのを残念に

思ひます。殊に今日はあなたからの、折角のお誘ひの展覧會行きもお断りしなければならぬといふのは何といふことでせう。長い間のあなたの御精進がむくいられて、大作が入選なすつたんですつてね。

ほんとおめでたうございます。お招きの日に伺つて繪も拜見し、御苦心談をも承りたいのは山々ですが、折あしくその日は母の伊香保行きに、誰もし事が、私でも連れて参る事になつてをりますので、残念ながら参られませんが、乾度開會期間には一度参り拜見させて頂きます。どうか悪しからずかしこ。

六 加入を断る

御回章拜讀仕り候。時節柄燈火親しむべき折とて、此上もなき嬉しき御思立ち、特に御連名の方々は皆厭かず向はまほしう日頃より思ひわたり候。方々にて、よろづ望ましき御企てなるを、實はかゝる折には苦しう候。家法とかにて、先代の定め候ものゝ中、女は夜歩きせぬ條の候にて、はたと困り入り申し候。さればとて、毎日こなたへ皆様のお越しを願ひ候も身勝手、晝の會合といはし候も、釣瓶落しの秋の日、誠に

心残り多く候へども、此度だけは數に御下されたたく誠に残りおしう候。かしこ。

七 來訪を断る

明後日は御來訪下さるとのお約束ゆゑ、久しぶりにお目にかゝりますのを、楽しみにして居りましたところ、二三日來ぐづぐづして居りました小さい甥が、一昨夜猩紅熱と判明し、昨日帝大小兒科の隔離室に入院致しました。姉子ちゃんがお小さいことゆゑ、もしものことがあつてはと母も申しますので、ほんたうに残念ではございますが、お約束お延ばし下さいませ。甥の發病は、わりに早く氣がつきましたし、順調の経過ださうであり心配はないとことですから、御心配下さいませ。尚この手紙は消毒してありますから、大丈夫でございます。かしこ。

八 出席を断る

同窓會の御通知有難う存じました。いつもお忙しいあなたに幹事をおさせしておいて、會にもなかく出て來ないのは不都合

合だとのおほせ、重々御尤でございます。

今年には植物園で園遊會のやうな總會をなさるとのこと、久しぶりで少女の頃に戻り、あの櫻の樹の下で皆様にお目にかゝれると考へますと、飛んでも参りたいやうでございますが、いかにせん丁度その頃、郷里の姑が上京いたしますので、私は一年一度の親孝行のため大奮になつてゐるものと思召し、またまた缺席のこと悪しからずお許し下さいませ。山畑さま、木村さま、皆々様にどうぞよろしう。その中お伺ひいたしますわ。さよなら

九 夫に代り就職の周旋を断る

先日は久々の御入來をむかへ、御元氣なる御様子うれしく存じ上げ候。その節御依頼の件につき、只今先方よりの返書に接し候ゆゑ、取りあへず御報告申し上げ候。同會社も只今のところ業務あまり振はず候由にて、人件費の節約など積極策をとり候ため、こゝしばらくは缺員の補充は見合せ候とのことに御座候。折角有爲の御方のお申込みを無にいたすは遺憾ながら、何分とも事情右の通りに候ゆゑ御諒承願はしくとのこと、誠に不首尾なることにて申謝これなく候へども、あ

りのまゝ御返事申し上げ候。なほ他に心懸おき候て、他に御志望に添ふべき御仕事これあり候節は、及ばずながら御盡力申上げた候へども、取あへずお断り申上げ候。右まことに失禮ながら、主人こと社務多端のため、私代りて申上げ候。かしこ。

十 寄附金を断る

お手紙只今拜見いたしました。ほんたうにお久しぶりで候しう存じます。昔とちつともお變りなき御様子お察し申上げお褒めしく存じました。同窓會の御模様お一人々々のお姿お察までが、お手紙の上にとるやうにて、拜見致しながら氣持は遠く昔にかへりました。それに御同封の別紙も有難く、御趣旨のほどもよく拜承致しました。出來れば是非お仲間に入れて戴きたいので御座いますが、私方では實に運わるく、主人の勤めました會社が潰れ、只今やつと再度の勤め口は探し致しましたものゝ、漸く二人の口を糊するだけの收入にて、誠に心細き限りのところへ、私こと主人失業中に他家の裁縫など徹夜して無理致せしたため、少し體を痛め藥師の代にもこと缺くありさま、折角お勤めのこと本

意なくお断り申上げねばならぬ辛さどうぞお察下さいませ。
御返事の皆さまへも、どうぞあなたからよろしく御ゆるしお願ひ下さいますやう、まことに起き臥し半ばで筆も亂れ、失禮でございますが取り敢へず御返事のみ申上げました。かしこ。

十一 不在のお詫び

昨日は折角おいで下さいましたのに、折あしく留守にしまして申しわけ御座いません。私が夜家を明けることなど、ほんとは無いのでございますけれど、昨夜は珍しく主人が映画を見にゆかうなど申しますので、つい誘はれるまゝに出かけ、歸つてくると留守に、あなたがおいで下すつたことを妻やからさかさされがっかりいたしました。

どうぞ一度のことでも懲りくしたなどおつしやらず、この次の土曜日に又いらして下さいませ。幸ひ前日が月給日に當りますから御返事がなければおいでとさめて、昨日のおわびにもお好きな御馳走を澤山こしらへておまちしてをります。ではお詫び萬々その時に。さよなら。

十二 粗忽の詫び

此の間お花の先生がお出で下すつた節、盛花のお稽古に今一つ水盤があるなら、一對にして活けて下さると仰しやつたので爺やを伺はせたのでしたが、早速お貸し下さいまして誠にありがたうございました。ところがどうしたものか風呂敷を解いてみますと、縁の所がほんの少し缺けてゐるのです。爺やの粗相からだといふことは明かなのですが、御承知のとほりあんな忠實な爺やのことですから私も黙つてゐました。とんだ不調法をいたしました誠に申譯ありません。重ねがさね私から御詫びを申上げます。

昨日京橋へ行つて、お借り致しました品物と似通つた物を買つてまゐりましたが、歸宅の上較べてみますと少しく形が大きいのです。お手馴れの品と違ひますので、さぞかし御不満に思召すことと存じますが、何卒これで御勘弁下さいませ。お願ひ致します。それからこの水盤を持参いたす爺やは、お借りした品だと思つてゐますから、その點どうぞ御含み下さいませ。いづれお目にかゝりまして、萬々申上げたいと存じますが、取りあへず手紙を以てお詫び申上げます。御寛恕のほど伏してお願ひいたします。かしこ。

十三 紹介を断る

弟御さまの御就職のことにて、山上の伯父に紹介をとのこつてございしましたが、御承知のとほりあの伯父は、ほんとに頑固でございまして、さういふ紹介を一切受けつけないのでございませう。どうしたら宜しうございませうか。

先日一寸電話いたしましたら、堂々と正面から受敵するやうに傳へなさいと、かう申すのでございませう。

どう御返事したものと、ついで打案じて居りましたが、あまり遅れては却つて失禮と、本意ない御返事差し上げます。どうぞ悪しからずお許し下さいませ。かしこ。

第十一節 催促

一 縁談の催促

その後はいろ／＼と親身な御心配いたゞき、ほんたうに有難うございます。

先日は光子があら様へお伺ひいたしましたして、皆様にお目にかゝれて、ほんとに安心したやうに申して居ります。

二 註文品の催促

御本人の英雄さまは、來春御休暇にて御歸京の折取りきめようとの思召であり、それに御應召のこともお考への上、戦時中舉式は見合せたいと仰有いますのを、おせき立て致しますのはいかゞかとは存じますが、年寄どもが氣短から、出来ることならお約束だけでも、節分前にと申しますので、誠に手前勝手とは存じますが、今一應あら様の思召をお確め下さいまして、この上とも御力添へのほどを呉々もお願ひ致したる存じます。かしこ

先日カタログお送り下さいましてありがとうございました。就きましてはあの夏家具の中で、邊骨猫足大内行燈と、朱房白紙張鼓身燈籠二張とを求めたく、先月二十五日右代價に送料を添へ、金何圓也の小爲替を同封、手紙にて御註文いたしました。が、いまだに品物が到着いたしません。どういふことになつてをりませうか、お手数ながら至急にお取調下さい。いつもお間違ひのない貴店のこと、本来なら御催促などいたさないのですが、何分右の二品とも目の前にさし迫つた盃蘭盆に間にあはせたく取急ぎ註文いたしましたものにて、それを過

しては用にたぬものでございますから、心急ぐまゝにおたづねいたします。何卒よろしく御願ひ申し上げます。もし又季節のことにて註文の品賣切の節は、最も似寄りのもの見立て、十日までにお送り下さいますやう、その時には御手数ながら、代金の過不足も同時に御申送り下さいませ。先は右御願ひまで。

さようなら。

三 返金の催促

その後皆さまお變りございませんか。昨今は急にお暑くなりまして、身體に應へるやうでございます。さて、催促がましく申譯ございませんが、六月末のお約束のもの、御都合いかゞでございますか。

あの節もちよつとお耳に入りましたやうに、あれは今月早々拂込みの主人の保険料を、一時御用立しましたものゆゑ、遅くとも月半ばまでには御返金戴きたく、よろしく御願ひ申し上げます。まづは要用のみ。かしこ。

四 仕立物の催促

先日はお世話様でした。その節お願ひ申上げました四ツ身の

單衣、急がないやう申しましたが、實はよそ様からお慶びのお招きを受けまして、この八日に参ることになり、子供にもあれを着せてゆきたいと存じますので、勝手ながらせひ間に合せて頂きたいのでございます。肩あげ腰あげなど致さねばなりませんから、おそくも七日の夜までにはお間違ひなくお届け願ひたいのですが、もし間に合はないやうでしたら、恐入りますがこの手紙着き次第、そのまゝで結構ですからお届け下さいませ。なほつけ紐はやはり意色にして置いて頂きます。ではくれぐれも日にちをお間違へなきやう、御願ひ申し上げます。かしこ。

五 女中に歸來を促す

此度は久し振りにて歸郷されたことなれば、御兩親を始め皆さま喜ばれたことせう。友達なども久々に會つてお互ひに、どんなに珍しくなつかしい思をして居られるだらうと思像して喜んでゐます。もつと長く暇を上げたいのは山々ですが内の事情は御承知の通りなればさうもゆかず、三晩だけ泊つて歸つて来るやうにとの約束であつたのですが、今日でもう六日目になります。多分あたりから引留められて歸りかねて居るこ

とゞは思ひますが、いつもこんなことはなかつたので、どうしたのだらうと案じて居ります。色々用事も滞るし、坊やも淋しがつて居ますから、此の手紙受取り次第すぐ歸ることにして下さい。そして郷里の話を山々聞かせて貰ひませう。どうぞ御兩親にもよろしく。では出来るだけ早くお歸りを待つて居ります。かしこ。

第十二節 紹介

一 醫師に紹介す

昨今は梅雨とは申しながら何となく降りますことでございます。全く閉口いたしてをりますが、先生にはますます御元氣の御事とおよろこび申しあげます。

さて私の友達草野廣子さまを御紹介申し上げます。今年七歳の御子さまが顔色わがるく、瘦せてゆくのがこのごろとくに目にたつとのことにて、私によい小兒科のお醫者さまを教へてほしいとのことでございます。ついては先生にとくと御診察を願ひ、今後もずつと御指導によつて健康を進めることが出来ましたら、親御さんの御喜びだけでなく、私も大變うれし

いことに存じます。

近日その御子さまをつれて、病院の方へ上ることゝ存じます。どうぞよろしく御願ひ申し上げます。かしこ。

二 知人を紹介す

青葉の風すがくしき季節と相成り候。打ちたえ御無沙汰のみ申上げをり候へども、御機嫌よう入らせられ候や伺ひ上げまゐらせ候。

さてこの手紙持参いたされ候。小野まつ子と申候は、私小學時代よりの友達に候。用件は仕事のことにて、貴重なるお時間をいたゞき候は申譯なく存じ上候へども、何卒御引見たまはりたくお願ひ申し上げます。委しくは本人よりお聞きとり頂きたく願はしう候へども、本人及び家庭の事情は私よく承知いたしをり、確かなる人と存じ候まゝ、何卒適當なる仕事お考へいたゞきたく願ひ上げ候。甚だぶしつけにて恐れ入り候へども、本人の切なる希望にまかせ、この手紙したゞめ申し候。失禮のほど御返答下されたく候。かしこ。

三 子守女を紹介す

その後は思ひも寄らぬ御無沙汰にて、何んとも申譯御座なく候。さていつぞや御話の子守女、最早外様より御雇入ずみかと存じ候へども、この程に至り、漸く適當の者を見出し候まゝ御都合御伺ひ申上げまゐらせ候。かしこ。

四 履歴書同封にて友を推薦す

その後は御無沙汰申上げてをります、きびしいお暑さになりましたが、お障りいらせられず何よりと存じ上げます。さて昨日××氏から承り及びましたことですが、御手許に勧めてをられました松島氏が、此度御退社になりましたさうでございませうが、それは事實でございませうか。もし事實にございませうならば、自然お手許に新しく社員が御入用に成ることかと存じます。就きましては私の同期卒業の人で、岡田種子さんといふ方が、前々からぜひ御社で働きたいと申して居られましたので、もし御採用下さいますなら、此上もなきことかと存じまして、履歴書を添へて御都合をおうかがひ申上げます。岡田さんにとりまして、今度のやうな時は又とない好機會と存ぜられますので、兼ねて婦人の社員を御採用になりますやうなお話を伺つてをりましたのを思ひ、甚だ僥越ながら、お口添への

を致してお願ひ申上げた次第でございます。岡田さんは私とは學校時分から親友でございまして、才能も充分でございまして、性格も至極堅固な方と信じてをります。御信用下されとお差支への無い方と存じますから、何卒御厚意をもつてこのことお考への中にお入れ下さいますやう、くれぐれもお願ひ申上げます。かしこ。

第十三節 相談

一 娘を上京させるについて

此頃暫くお便りがありませんが、別にお變りがあるのではないでせうね。此間東京は大變な雪だつたさうですが、こちらではまだ雪も、それに雨もことはあまり降りませんで、氣候が乾いてゐるせいか、子供達が咽喉を悪くし困つてをります。さて、今度夏子が小學校を卒業するのですが、いろいろ考へて、どうかして東京で教育してやりたいと思ふのです。ついでに學校の方のことは先生が心配してゐて下さいますが、もし入學出来たとして、東京にゐる間は何處から通學させようか、その點を心配してをります。

どこか親類であづかつて下さると一番いゝのだけれど、私はそちらの方とは餘りよく知り合でないから、厚かましくお願ひもしにくいし、あなたはまだ獨身だから勿論あづかつて貰へないし、寄宿舎かと思つてゐますが、それは主人が不賛成です。いづれ詳しくは又手紙を書きますが、どうぞこのことを、あなたにもよく考へてみて貰ひたいと思ひます。どこか學校の先生などで預かつて下さるやうな方はないでせうか。お心當りをたづねてみて下さいませんか。あなたのところには郷里の方から便がありますか。一度逢ひたいものですね。

おからだを大切に下さいまし。かしこ。

二 姉に買物の相談

此頃の山里のさびしさ、一頃にぎやかであつた椋鳥のおしゃべりもはつたり止んで、草も木もすっかり休息の状態にはいりました。急にお寒くなつたので、私も襟巻を一つほしいのでございませうが、あまりいゝのはお父さまがお許しにならないので、中位の品を一つお姉さまに見立て、頂きたいと存じます。お値段や何かは見當がつきませんからお任せいたします。只色合だけは私の好みで、薄いクリーム色のやうなのがほしい。

第十四節 勸告

一 講習會に入會を勧む

欄變らずお稽古事に、追ひ廻されていらつしやることでせうね、實は私も柄になく、この頃お料理のお稽古始めますの、御存じでせう、あの櫻井先生つて工學博士で、佛蘭西料理を趣味でなさる方ですの、十人ばかりで、一組の講習會みたいなグループに入るので、みんな知らない奥様やお嬢様ばかりでは心細いので、あなたをお誘ひするわけ。九月から十二月まで、毎金曜日の午前中なの。お録合せになつてぜひ御入會下さいまし。お願ひよ。そしてお母様によろしくね。さようなら。

二 就職を勧む

御許さまにはいよいよこの春女學校を御卒業になりませんが、それにつき、只今私の会社に女子事務員を募集いたしましたので、もし未だ將來のことについて御定まりなくば、御入社になつてはいかゞかと、取急ぎ御知らせ申すのでございます。私ども社員の紹介に對して、先取權が與へられてゐますので、御希望さへあれば十中八九は大丈夫なものです。それもなるべく早く、申込んでおいた方がよろしいと存じます。社の概略は時々の御知らせで大體御承知のことと思ひますが、他社より待遇もよく將來の不安もないので、お勧めいたしたう存じます。至急御返事待ち上げます。かしこ。

三 結婚を勧む

こちらが結婚をして、娘時代の夢が破れると、まだ獨身である友達が羨ましいあまり、同じ穴へ引つりこみたくなるといふ譯でもないのです。そんな悪い私でもまたそんな殊勝なあたしでもないのです。たと極めて平凡な考へ方で、どうせ獨りで押し通せるものでないのが女の身ですし、どうせさうなら餘りお

くれぬ方がよさうです。どうせ私共の理想なんでものは、結局夢になつてしまふのですから、いゝ人があれば、その時に結婚してしまふのがよいと思ひますから、結婚のことなんか考へちやゐないわといふのをよして、二三年向ふのことといふのを譲歩し、今の問題として考へてくれませんか。大變な前おきになつたんですが、つまるところあなたにとてはい人が見つかつたので、お嬢さんになつておやりなさいといひたいのです。

とにかくあなたの心持が先決問題で、いゝ加減な人なら結婚しようといふ氣になるなら、先方の人柄や何かについても、もつと本腰に調べてお話しします。いゝ加減に私のいふことを聞いて、私のやうに平凡な義理になつちまひなさい。

御自身でおいでになるお暇がないなら、御手紙で御返事を聞かせて下さい。御令母様へよろしく願ひます。さようなら

四 湯治を勧む

お父上様の御病狀、お手紙で委しく伺ひましたが、それに

いて私父も、一昨年類似の病狀で長らく困つてゐましたが、有馬温泉の入湯で、すつかり全治いたしました経験がありますし、さういふ御病氣なら有馬が必ず効くと、父も自信あり氣に申してゐますから、時候もよろしうなりましたし、お出かけ遊ばしてはいかゞかと存じますので、とりあへずおすゝめ申します。かしこ。

五 不養生を戒む

一筆しめしまるらせ候。さてとや仄に承れば、御許様には、此度女學校へ御入學のため、専ら御試験の準備にいそしみ給ひ、晝夜をわかれたぬ御勉強にて、御散歩さへ抄々しうも遊ばされずとの由、其のためには有るまじけれど、そこはかとなく御健康をさへ害せられしなど、安からず承り候。御許様が常々の御氣象にて、御熱心なる御勵みの程はさることながら物には程度と申すもの候。御心には染むまじとも、少しは郊外の御そとろ歩きをも遊ばし、御氣保養のどかに遊ばされ、せめては夜なども、十時頃までには御やすみなされ候やう呉々も念じ上げ候。何事も御身體のたしかならでは成らぬものに御座候。又御妹様より承るに、御徹夜さへ折々遊ばさ

れ候とか、さらばいよいよ御障りの基とやなり給はん。一日ゆるく、こゝら渡りの田舎へ御立越下さる間敷候や、さらば山と積るその後の御物語くさく聞え上ぐべく、なまけ者がよい事にして、御誘ひ出しまるす様に候へども、試験の成績と申し候も、全く時の運一つにて、よろづ御心のびやかにあせり給はぬやう、老妾心めきて御開苦しく候はんも、呉々も申し添へまらせ候。あらゝかしこ。

六 怠惰を戒む

拙き筆をかへり見ず一言申しまゐらせ候。さて御許様には、時々御缺席遊ばされ候へば、定めし御家事向きのためか、或は御病氣のためならんと存じ居り候ひしに、昨夕親しき友より承り候に、只々故なくして御登校遊ばされず、御兩親様におかせられても、殊の外御心痛遊ばされ候との御こと、少なからず驚き入り申し候。最早程もなく御卒業遊ばされ、御兩親様の御心を安んじ奉るべく候ふに、今御退學なさるやうのことも候はゞ、折角今までの御苦心も水の泡に歸し申すべく候。何卒明日より御登校下され度、さすれば御兩親様始め私共一同の喜びも之に過ぎ

申さず、呉々も御反省下されたく願上げまゐらせ候。かしこ。

七 別居を戒む

お手紙を拜見して驚きました。十五年も連れ添はれた御夫婦間で、二人まで御子達のある御間柄で、御主人が女中にお慮れになり、あなた方を慮られないとは何としたことでせう。あなたの御心になつて見れば、本當にお氣の毒でなりせんし、そのため御別居なさらうとする御心持も、御無理ではないこととお察し申上げます。

しかし御主人の行爲は父として恥しく、娘さん達に對しても大罪ですから、あなたは別居なさる前に、その非を改めさせることに努めねばならぬと存じます。

それについて第一に考へられることは、お子さん達にも、ウソと家事を手傳はせることにし、女中はやめて、あなたが第一線に立つて働くことです。

御主人にはハッキリと理由をお話しになり、成長する御子さん達のために、家庭を神聖にしなければならぬ親の義務を説き、あなた御自身も働き、御主人にもよく仕へる代りに、御主人もお心を改めて下さるやうお願ひして、一家の更生を圖つて

御覽になつては如何でございますか。

次に第二の考へとしましては、女中は置くにしても、ずつと年寄りで、あなたの助手さへ勤まればよい位の人を置かれては如何でせうか。

さうして働いて居られるうちには、あなたも御丈夫になつて若返られませう。人手があるに任せて、くよくよとして居らつしやるから、一層からだもお弱くなつて、御家庭の空氣も陰氣になりませうし、御主人にも若い女中に、心を動かす隙を與へるのではないかと存じます。

先づあなたが家庭の人氣の中心、笑顔の中心となられるやう御心がけになることが、幸福を招く第一歩かと思ひます。

今のあなたとしては、そんなにまでして此のやうな面白い家には居られるか、といふ御氣にもなりませうが、可愛いお子さん達と一しよに、何の不自由もなく暮して行けるといふことだけでも、母としては有意義なことであり、人生としても嬉しいことではないでせうか。

現在のまゝで何もかも振りすて、別居して見たところで、決して幸福な道は開けて来ないでせうから、もう一度篤とお考へになつて、もう一度尊い御自分の立場を見直し、どうか笑顔

になつて暮せるやう、御努力あらんことをお願ひ申上げます。かしこ。

八 離村を戒む

東京へ出て何をなさらうといふ御考へですか。女子一通りの學問ならば、今日では田舎にゐても立派に修めることは出来ませし、働くならば都會よりも、田舎の方に仕事は多い筈です。

あなた位の年頃には、誰しも都會の華やかな方面ばかりが目について、憧れの念を抱くものであります。都會といふ所は田舎で育つた純な、経験に乏しい人達の考へるやうな、そんな夢のやうな世界ではありません、本當のことを言へば、それは全く反對に蕪蕪の集窟のやうな所なのです。

こんなことを言つても、實際を知らないあなた方には御理解は行きますまいが、見物するにはよからうが、生活するには好ましくないことは斷言して置きます。

それでも色々の事情のため、都會生活をしなければならぬ人なら兎も角、あなたのように何の不自由もない身が、憧れの心から都會に出るといふことは、何うしても賛成出来ないことです。況して現在の日本は事變のため、田舎に人手が足りなくて

困つてゐる時ですから、それらのことも能く考へて徒らなる都會への憧れの念を斷ち、堅實なる地方の一分子として、與へられた業を忠實にお勤みになることをお願ひいたします。かしこ。

第十五節 弔 慰

一 死亡通知

母利惠儀豫て病氣療養中の處、今十一日午後八時、死去仕候。茲に生前の御交置を深謝し併せて謹告仕り候。追て来る十四日午後二時より三時まで、谷中霊場に於て告別式執行致候。敬具。

二 會葬の禮狀

亡母利惠儀の節は遠路御會葬下され有難く存じ奉り候。拜禮の上御禮申上げべく候處、午略儀以雪中御挨拶申上候。敬具。

三 忌明けの挨拶狀

拜啓。その後御皆々様には御機嫌よう入らせられ候御事、

何よりと御悦び申上げ候。さて父死去の節は早速御弔問下され、御葬重なる御供物まで賜り有難くあつく御禮申上げ候。本日照徳院智光善教居士五七日忌に相當り候に付、心ばかりの法要相替み候しるしとして、粗品別封を以て御送り申上げ候。まゝ何卒御落手下され度候。まづは御禮券々御挨拶申上げ候。敬具。

四 父を喪つた人に

御尊父さまには昨日御逝去遊ばされ候よし、まことに御愁傷の御ことに存じ上げ候。御高歸とは申しながら、平素の御養生よろしく渡らせられ候御身のまことに急なる御ことに御一統さまの御嘆きもさぞかしと御推察申上げ候。早速参上御永別申上げたく存じ候ところ、數日前よりの風邪にていまだ外出叶はず、残念ながら失禮申上げ候。別封はまことに些少なから、御香料として御靈前へお供へたまはりましたく御願ひ申上げ候。つゝしみて御悔み申上げ候。かしこ。

五 子を失つた人に

御令息さまには御急逝との報に接し、たゞく驚き入り申し

候。やうくこの秋五つの御祝ひもすませられ、御利安にお可愛く御成人の御こと蔭ながら、いかばかりか御よろこび申上げ居り候ひしに、何といふお痛しきことに候らむ。御一同さまの御悲嘆さぞかしと御推察申上げ候。なまじひの御慰めの言葉も申上げがたく、たゞく御あとを御大切に遊ばされ候やう祈り入り候。持たせ候花環、何卒御靈前へ御たむけ下されたく。かしこ。

六 香奠返しに添へて

謹啓。主人死去の際は御二方さまより、御葬重なる御悔み状並に御香奠を頂戴いたしましたして、有難く存じました。なほ御實家のお父上さまよりも、わざわざ御慰問の御手紙をいたさきまして、厚く御禮申上げます。日を経るに従ひ却つて子供だちに力づけられ、氣を取り直して昨今では、やうやく何かと家事を手傳て居ります。就きましては本日五七日忌に當りますので、寸志までに故人の歌を築めさせました風呂敷御送り致しました。どうぞお納め下さいませ。賢

第七編 女流書翰文の味ひ方

第一章 祝賀

一 舊主への年賀状 奥むめお

謹んで新年の御壽目出たく申納めます。御尊家みなく様には御打ち揃ひ目出度御越年のことと存じ上げます。舊年中は格別なるお心添にあづかりまして、まことに有がたり存じました。今年もどうぞ至らぬ私共を御導き下さいませやう懇願申上げます。おかげ様にて私共の不慣な商賣も順調に参つて居ります。御主人様の日頃のお諭しを憶ひ出し、いよく薄利多賣主義で骨身惜まず働いて居りますため、お客様よりは果物は八百富でなければならぬものゝやうに、御慮儀にあづかつて先づは繁昌致して居ります。それにつけても思ひ出しますのは、長の年月に亘つておかけ下さいました御親切のかずくでございませう。何を以てこの御恩返しを致しましたらよるしうございませう。どうぞ何時々々までも御きげん美しく御健かにおいで下さいませ

二 義妹の出産を祝ふ 原田琴子

御安産のお電報今朝ほど頂戴致しました。おめでたう御座います。女のお子さんの由、お祖母様どんなにかおよろこびでらつしやいます事せう。恰度あしたは彌生三日、この赤ちやんは屹度御誕生の多い赤ちやんにちがひありませんわ。お産室のあの六疊のお窓には緋桃やそれから乙女權の花が、未來多い赤ちやんのお誕生を祝して美しく咲いて居ることせう。本當によい時候にお生れになつて、あなたも赤ちやんもともくにお仕合せで御座います。お初産の事とおしらせ頂くまではとかく不安に思ひましたけれど、今ではすつかり朗らかな氣持になりました。茂様もさぞ御満足の御事と存じます。諺にも一姫二太郎とか申しますやうに、おはじめはお嬢さんの方がおよろしいかと思ひます。殊にお若いお母さんのおためには。お祖母様がらつしやいますこと故、わざわざ御注意申上げらまでもないことと存じます。おあととくれくもお大切に三週間はお床にゐらつしやるやうなさいませ。日頃御壯健なあ

なたの事ですからお起きになりたくお思ひかもしれませんけれど、お産後の無理ほど恐ろしいものは御座いせん。ことに針仕事はなるべくおひかへなされる方がよう御座います。くどくどと申上げました。お氣をおつかひなさらずに暢氣に御座下さいませ。何れ何かお祝ひの品をと存じますが、今日とはとりあへずよろこびの言葉まで申上げる事に致します。くれぐれもお大切に。

三 友達の弟の結婚を祝ふ 大村 嘉代子

しばらく御無沙汰申し上げて居りましたところ、お手紙をいたゞきましておなつかしく拜見いたしました。弟御様にはいよく御嫁御様をおむかへ遊ばしますさうで、御両親の御後あなた様のお手一つにお育てになりました弟御様の御事とて、およろびも一しほの御事と存じ上げます。先づ何よりもおうれしく存じますのは、これこそ不思議な御縁と申しませうか此の度お迎へになります御嫁御様の御両親吉田様は、實は私共で永年御懇意にして居りますことと存じます。私共が舞鶴に居りました十年間、吉田様とは同じ官舎のお隣住居で築の庭の木戸は始終あけはなしきりにして、一つ家のものゝ様にい

たして居りました。一昨々年の春、私共が東京へ轉任いたしました、吉田様もその年の秋こちらに御轉任で、本社の青山と出張所の築地と離れては居りますが、相かはらず御懇意に致して居ります。御夫婦ともまことによいお方で、御嫁御様も小さい時から存じて居りますが、まことに御縁のよい上に御利發で、素直でおとなしく、ことにお人あしらのお上手なお嬢御様でございます。御如才のない弟御様とお二人でお店にお坐りになりましたら、どんなにか御繁昌なさいますこととせう。まことに御縁で幾久しくお祝ひ申し上げます。兩三日中に参上いたしますが、不思議な御縁のうれしさに先づ取りあへずおよろこびを申し上げます。

第一章 見舞 舞

一 曇中見舞

伊藤部 敬子

この外きびしいお暑さでございますが、先生にはお障りもございませんか。もうそろそろ學期試験でさぞお忙しくいらつしやることと存じます。私共も昨年までは今頃になりますと、毎日の麗美人草の眞赤に咲く校庭に集つては、試験のことと

夏休みのことばかり話しあつてゐたのを、なつかしく思ひ出してをります。

今年も試験の苦しみもございません代り、夏休みを指折つて待つ楽しみもございませんが、おかげ様でいつも元氣で毎日家事に精出してをりますから何卒御安心下さいませ。學校にをりました頃、手をとるやうにして教へて頂きましたおかげで、お料理もどうやら皆にみとめられました。この頃はお薬所を一人で引受けてをりますが、一日中忙しく働いてをります家の人々を、今日の夕食には何をこしらへて喜ばせようかと考へますだけでもずるぶる楽しく、働き甲斐があるやうな氣が致してをります。

この間、お花のお稽古の踊りだといつて、久しぶりに山川さんがお寄り下さいまして、二人で先生のことや、學校のことや、同級生のことなど、いつまでもお話し致しました。

秋になりましたら、ぜひ一緒に學校へおたづねする約束をして別れました。

九月早々、つれ立つてお伺ひ申上げます。あのゴブラの見えるなつかしいお教室で、その後のいろ／＼なお話し承りたうございます。どうぞ十分お暑さおいとひ遊ばしますやう。賢

二 寒中見舞

山中 崇太郎

朝夕のお寒さ暮にちかづきまして、殊にお厳しく存じられます。お父上様には、いかにお寒さあそばしてと、いつも主人とお噂のみ申しあげ、くれぐれもお願ひあそばしますやう、ひとへに念じあげてをります。

主人も日頃の御無沙汰をお詫び申上げてと申し居られますが、會社の方も月ごとに發展の有様にて、自然勤めも忙しく、近ごろは私にまで餘程お得意の御様子に伺はれます。この事、どうぞお喜び下さいますやう。加へて太郎も日々に成長いたしました、ほんたうに健かに、家ちうの幸福を、小さな坊やが一人でお占めてをります。くれぐれも御安心あそばしますやう、主人にかはりました、皆々様の御無事を、とりあへず右まで聞えあげます。

何かと存じながらも、暇なき主婦の、つたなき手縫ひを時々にいたしました。別包みのお願書、お目にかけますさへ、お恥かしい針のあとでございます。たゞ繻は、本場のものを吟味いたしましたもの、どうぞお寒さ凌ぎに、お使ひ下さいますやう靜が心ばかりのお見舞までに、お膝もとへお送り申しあげまし

主人よりも、なほ太郎よりも、「お祖父さまへ、坊からよろしく」と、まはらぬ舌にて申してをります。かへすくも、お見舞をお願ひのほど、お見舞ひと共に、幾重にも念じあげてをります。

三 留守見舞

美川 きよ

しばらく。
其後御元氣でいらつしやいますか？
お坊ちやまもさぞかしおみ大きくおなりのことゝ存じ上げます。もうアンヨが出来になる時分ではないでせうかしら？
お元氣のよい日におつれ遊ばして、一日がかりでお遊びにいらつしやいました。うちの入重子がどんなによろこぶことせう。

昨日銀座へ買物の途中、ベスの中でベッター河崎さんにお目にかゝり、あなたのお噂も出ました。この頃御主人様、御店の方にて御留守中とか、それならばこれから二人で、押しかけませうなんて申しましたのですが、あいにく河崎さんにお差支へがあつて残念ながら、又の日にのびしました。

御主人様御留守では随分のんき過ぎていらつしやるんではなにかしら、それともお淋しい？ ハ、ハ、とにかくおひまこしらへてお遊びにいらつしやいましたね。私も近日御伺ひ致します。先日モーパッサン全集を求めました。なか／＼面白いのや皮肉なものが御座います。まだ御覽になりませんでしたら御届け致しますせうか？
よく毎日降りますのね。何卒おからだお大事に。さよなら。

四 病氣見舞

長谷川かな女

素子さんしばらく。植物園へ御一緒にいつたきりお目にかゝりませぬのね。あの日は春だと云ふのに随分冷たい日でしたね。私は愈生して居る指がうごかなくて困つたのよ。あなたはその時私に風があたらぬやうにじつと立つて居て下さつたのね。お家へお歸りになつてから風邪でもお引きになるやうなことがあつては、おやすみになつて居るお母様に申譯がないと思つて随分心配しました。あれきり何處へもいらつしやらないのでせう。私もあの寫生したものを試験製作にするので學校と家の間を往復するのが漸くで、お風呂に入ると時間も惜しいのよ。この頃お母様はどんな御容體でいらつしやいますの。今は氣

候の變化の多いときですがお障りございませんか。ほんとうに長くおやすみになつていらつしやると鳥渡したこともお障りになるでせうから心配ね。でもあなたがお母様をお案じになるのをお母様はあんなによく知つていらつしやるのですもの、あなたの思ひでも乾度もうちきお癒りになりますわ。私がおたづねした時もお家にばかりあなたが居るのだから、お母様は無理に私と一緒に植物園へゆくやうに仰しやつたのね。お母様も乾度一生懸命に早く良くならうと思つていらつしやるのよ。
あなたの熱誠な御看護と、お母様の思ひだけでも乾度御全快になりますわ。私も祈つて居ります。
水仙の花はお母様好きかしら。あなたは好きね。少し時候はづれですけど、風よけに立つて下さつて寫生したものを色紙にうつして見ましたからお送りします。私もあと一週間はたうらへると思ひます。くれぐれもお大切に、あなたも大事にしてね。すぐお返事下さらないでもいゝのよ。ハガキで結構ですから御容子を聞かせて頂戴。では。

第三章 招待

一 お正月に友を招く

三津木 貞子

その後ごきげんいかゞでいらつしやいますか。
さて正月七日は祖母の誕生日なのでいつも七種を賑やかにお祝ひするのでございますが、今年は特にその古稱の賀をかねて、せい一ぱい賑やかにお祝ひをしようといふことになつて、私たちがごらんを通り兄弟姉妹がめい／＼のお友達をお招きして、若々しい氣分で祖母をよろこばせようとみんなで相談がまとまりました。でもかうした内祝ひのことですから、極くお親しい方々に限るといふ條件つきです。私からは第一番にあな、それからふたりの仲よし君島さまと半田の悠紀子さま、あなたには御弟妹みな様でいらつしつて真きたいの。そして願へれば寛子さまと園枝ちゃんには童謡贈をお願ひ致したいと思つてますけど、勝手すぎませうか。いつも會館に御出演のお手並をうちでお囃するのを、外出の出来ない祖母がその度に残念がつてをりますので、座敷ではお踊りになりにくいのでせうけれど、一度拜見させていたゞければ祖母もどんなに喜ぶことかと存じます。こちらでは父の謠に母の仕舞、その他餘興が澤山ございすが、まづ／＼天機もらすべからず。
なほ、これは餘興にも即興にも當りませんが、園藤好きの祖母が秋の頃から丹精して居りました春の七草を、硝子戸の内の

縁側に大半を箱庭にして作り込みましたのが、摘草に丁度頃合の新芽をこみ合せつゝ萌え出て居ります。祖母は今から日の深く射し入る部屋一杯に絨毛氈など敷きつめて、野遊びのお辨當かなんぞのつもりで、秘蔵の蒔絵のお花見重箱を撫でながら、七草にはお鷹様かたと摘草あそびをするお申して、ひとり頬をへこませてほくほくして居りますのよ。こんなことあなたのお氣には召すかもしれませんか。その日を楽しみにお待ちいたして居ります。

ニ クリスマスの招待状

生田花世

此間は失禮いたしました。もう少しゆつくりするやうにとお言葉はいただきましたが、あのとほり同伴者がありませんでしたのでさういふわけにもゆかず、失禮してしまいました。心のこりでございますが……。

そのせつ胃腸をおこはしになつて、おむづかりでした赤ちやんにはもうすつかりおよろしうございますか。お子育ては何と申しましたも御骨の折れることでございます。子供のいない私たちは、申すまい氣もするのでございませう。その申すまいといふほどでもないのですが、このクリスマス――

二十五日に午後二時から私の家で、面白き「くじびき」入りの會をいたします。赤ちやんが御病氣でもありませんたら、到底御入り願へない事なのですが、十中八九さうしたことないやうな第六感！があらまして、「くじびき」にはあなた様と赤ちやんとお二人分の用意もいたし居ります。久々の御外出もまたよろしき事と存じますし、「くじびき」にての愉快な爆笑もよき思出と存じますので、どうか萬障さしくり御来席下さいませ。たのしみにお待ち申度おもひます。なほ他に御同伴の御方がありませんれば更に結構と存じます。右御招きまで。

三 法會の招待状

岡 初野

例年の事ながら梅雨あけ後にはかに酷しい暑さとなりましたが、皆様御機嫌如何で入らつしやいますか。やがて御揃ひで房州へ御出かけでせうなどとお噂さ申上げて居ります。

さて突然ながら本年は亡父の七周年に相當致しますので、来る七月二十日(土曜日)午前十一時より心ばかりの法要を営み序を以て遺體をも少々御覽に入れたいと存じます。就ては炎暑の折柄恐入りますが、御叔母上様並びに一郎様には御繰り合せ御出席下さいませ。なほ前夜には亡父の親友江原

翁が御來宅特に御願下さる管で御座いますから、御叔母上様には御都合お宜しくば前日より御出かけ下さいませ。正雄よりみ子供達よりも切に左様御願ひ申して居ります。そのかはり精々お涼しくしてお上げ申さんものと工夫中で御座います。なほ正雄より改めて御案内申上げませんが、あしからず御願ひ申します。

第四章 誘引

一 同級會へ友を誘ふ

平塚明子

青葉若葉の爽やかなこの頃、久しくお逢ひいたしませんか、お元氣の事ませうね。

扱、一兩日前に出しました同級會の御案内状はもうお手許につきましたでせう。御覽の通り、今度はいつとは違ひ、卒業後二十年の紀念の集りですから今度こそはあなたも久しぶりでお出かけ下さい。Y先生はじめ、H先生、F先生、K先生それに今年八十四におなりのO先生も御出席下さる管です。MさんやSさんたちの長唄や謡曲は勿論ですが、その他思ひがけない人たちの隠微がたくさん出る豫定です。ずるぶるお仕事がお忙し

いあなたとは常々よく知つて居ますけれど、一日を少女時代の思ひ出に何もかも忘れて遊び暮さうではありませんか。Iさんもあなたにほんとうにお逢ひしたいとおつしやいます。少し早めにいらつしやいね。私は幹事ですから十時頃から行つてます。

二 音樂會に誘ふ

ささきふさ

先日の國技館では浴衣がけの男衆も暑さうな顔でしたのに今日は又梅雨じみた雨で、變に冷えびえ致しますが、お障りもなくお過しでいらつしやいませうか。

國技館といへばあの節はあの混雑の爲、近いかとお顔を見ながら御挨拶にも何へず、ほんたうに心残りでございます。お話をこんなにあつたつてゐるのにと、家へ戻つて後もどんなに口惜しかつたか知れません。それにつけても毎日お目にかゝつて好きなお話の出来た在學時代を懐しく思つて居ります。

扱突然ですが、今度の金曜に何かお約束があらになりまして？ 實はR氏のピアノ獨奏會へ家中でまゐる管になつて居り

ましたところ、父が急な社用の爲め明晩西下することになりまして、残りもので失禮だけと織枝さんでもお誘ひしたらと母が申すのです。母は此際R氏の來朝した時、貴女と私とが、よかつたわねよかつたわね、と騒いでゐたのを憶えてゐたらしくございます。あの頃は二人ともピアノの始めたてでしたものね。ショパンのエチュードもどうやら弾きこなせる今の私達に、R氏のタッチがどう感じられるか——音楽會へ行く楽しみの中には、そんな氣持も混つて居ります。

御先約がなかつたら、なるべく御都合をおつけになつて、いらして下さいませんか、母は明るいうち宅まで来ていただいて、御一緒に御夕飲をいただいたらと申して居ります。そして歸りは車でお門口までお送り申上げようと云つて居ります。ではどうかよいお返事いただけますやう、鐵傘下で出来なかつた積るお話し上げられる金曜日を、今から楽しみにして居ります。先づはお誘ひを兼ね右まで。かしこ。

第五章 贈 答

一 結婚にお祝品を送る 深尾 須磨子

幸 子 様

かねてから嬉しいお話をうかがつて心ひそかにおいのりしてゐましたが、愈々めでたくおきまりになりましたさうで、そのおたよりの届いた今夜は、主人と二人で手製フルーツポンチの祝盆をあげました。手製フルーツポンチといふのは、ほら、私達が結婚後そちらに滞在中よくあなたが作つて下さつたバナヤオレンヂの細かくきざんだのにベルモットをかけたあれですよ。——おめでたう幸子さん！ お名のとほり幸福な人生におはいりになるやう心からおいのりいたします。

Sさんのことは主人もよく知つてゐるさうです。初めこの御相談があつた時、何だ、S君なら同じクラスのH君の従弟ぢやないか、僕より學校は二年ばかり後だつたが、あれなら人物も請合ひだ、と大變喜んでゐました。縁といふものは全く不思議なものです。主人の話によりますと、體も大變御健康な方の上し、それこそ幸子さんのお相手として第一の資格だと祝福いたします。あなたはあなたで、何しろ女學校時代五ヶ年間皆勤といふ事實が證明するほどの健康さです、全くどんなにか理想的な家庭が出来上ることです。それに音楽好きといふ趣味まで二人一致してゐるなんていつそ羨ましい位です。

おかげで、音楽嫌ひが自慢の主人は大恐愧のいでです。僕も尺八でもやらうかなあ、ですつてお笑ひ下さい。

さてお祝ひの品を何にしようかと、二人で首をひねりましたが、結局何ら名案も浮ばず、止むを得ず失禮ですが二十圓お送りして恰好のものをお求め頂くことにきめました。どうぞ悪しからず御了解下さい。實はもつと〜何とかいたしたいのですが、何分にもまだビイビイでそれこそほんの心ばかりです。貴者の一燈とでもお考へになつておゆるし下さい。

主人にとつては、結婚の贈物を選擇することは高文の試験よりもむづかしいのださうです。全くさうかも知れませんが、せつかく選んで送つたものが他家からの二重になつたりしても氣がきまませんし、色々考へぬいた揚句がたう〜この始末です。とにかくお慶びの心持だけをおうけ下さい。

何かとお心忙しさを他事ながらお察しいたします。どうぞ御機嫌よろしく、手おちのない御準備をお願いいたします。皆様にもよろしくおつたへあげ下さい。 おめでたう。

二 形見分けの品に添へて

大妻 コタカ

日増しに新緑の色が濃くなつてまゐりました。御地ではさだ

めし妻田もゆたかに移つたこととございませう。伯母様には愈々御達者でお過し遊ばしておいでとございませうか。さて先日老母死去の際には御尊重な御悔み並に御香料を頂戴いたしました。まことにありがたう御座いました。おかげさまで野邊送り、初七日いづれも滞りなく相済ませましたからどうぞ御安心遊ばして下さいませ。

しかし、萬事片づきまして落ちついてまゐりますと、ありし日の母のこととかがそれからそれへと思ひ出されて、何ともいへぬさびしさに仕事も手につきかねることもあるやうなしまつ、死去が突然だつたことも一つではございますが、ふだん何もかも母に頼り切つて、母が死ぬ！ など夢にも考へてゐなかつた愚かさゆゑと存ぜられます。このやうな時、伯母様が近くにいらつして下さつたならと今更お慶しさに堪へかねる氣持で御座います。どうぞこれからはいままで倍してお心添へ下さいませ。

さて何かと母のありし日の思ひ出がつらく、のび〜になつてをりましたが漸く亡母の形見分けをいたしました。ふだんあのやうにみなりなどかまはぬ人ゆゑ、さし上げるやうな品もございませぬが、中でもこれがまあ一番ましと思はれますので、

伯母様には帯と羽織を送らせていただきました。これは昨年伯母様が御上京なさいました時、御一緒に歌舞伎座へ着てまゐりましたもの、伯母様にめしていただけたら母もさだめし喜ぶことと存じます。どうぞお納め遊ばして下さいませ。又御上京をお待ち申上げてをります。伯父様はじめ皆様によろしく。

第六章 謝禮

一 お土産を頂いたお禮 小寺菊子

梅雨上りのいやなお天気で、旅中別條もなかつたかと案じておりましたが、御無事北海道からお歸りのよし、まづお目出たうぞんじます。

昨日はわざわざお珍らしいお土産を澤山にお届け下さつて、ほんとにありがたうございました。生憎買物に出かけて留守にいたし、使ひの人への心づけも出来ずまことにすみませんことでした。

さて、小樽の叔父様も御氣遣いおよろしいとのこと、心からほつといたしました。秋にでもなつたら、久々で大沼公園へ遊びに行きたいと思つております。

國や札幌の紅葉でも見物かたぐい参ることにしようか、など、話してゐる次第です。

あなたもちよつと一ヶ月の滞在で、思ふ存分親孝行が出来てほんとによいことをなさいました。どんなにか叔父様御満足だつたらうと、あのエビス様みたいにニコ／＼なさる叔父様のお顔が、私にまさ／＼と見えるやうです。然し、あや子ちゃんをつれてのお父様への看護ゆゑ、あなたも氣疲れや何かで大變だつたでせうし、それによき理解を持つて留守をなすつた伊藤さんも、一ヶ月奥さんを奪られて、どんなにか不自由だつたらうと、あれやこれやお察しいたし、留守中ちよい／＼のぞいて上げなくてはすまないと思ひながら、自分にかまけて失禮ばかりしてゐましたが、どうぞあなたからよろしく伊藤さんにお詫びして下さいな。一つはあんな風にさつぱりした方だからと思つて、私の方で安心してゐたせもあるんですよ。

あちらでは女學校時代のお友達にも逢へたりして、お楽しみなこともあつたでせうね。頂いたトラビストのバターも結構ですが、海の珍味は殊に主人晩酌の好伴侶で、ぼつ／＼楽しみにして頂いてをります。主人からも厚くお禮を申しました。小樽の方へもいづれゆつ

くりお喜びを書いて出します。ではとりあへずお禮だけ申上度ぞんじます。

二 馳走になりし禮 三津木 貞子

拜啓。昨日はお伺ひいたしましたして、久しぶりの御温答に接しおん懐かしさのあまりつい長座いたし誠に失禮いたしました。殊に先生には信州への御講演の旅の御疲れのあとと存じ上げつゝ、旅のお話の面白きまゝ時の経つのも忘れ、おいとま申上げようと思ひましたとき、こんどは御馳走にあづかりまして、重ね／＼恐縮つかまつりました。

御心づくしの御もてなしとは、あのこととわたくしの今後の家庭生活へ御光が射すやうにさへ感ぜられました。お食卓に出されました水鮎とグロスタノスの調和のよさ、アスパラガスがお庭につくられたものであつたり、高苔やセロリの新鮮さ、高價な洋菜も菜園に種子をおろせば人蔘牛蒡よりも作り易く、而も安價につき、味の世界も豊富になることなど、おはなし伺ひながら頂くお料理の結構さ、まことに無類のお調味と拜味いたしました。

いつたいわたくしは、都會生活の人は、御馳走と云へば外で

いたゞくものゝ様に考へる人が多くて、家庭生活を享受するところが乏しく、客があれば外から種々のものを取寄せて御馳走ぶりを見せ、手料理は失禮といふ様な卑下した態度に出るのは滑稽だと思ひます。なまいきを申すやうで恐入りますが、感激のあまりお世辭なしに申上げる次第でございます。ほんたうに昨日はわたくしにとつて、恵まれた時間でございます。

満ち足りた心持で先生の御門を退出すと、棧の櫓かげに折から新月がかゞやいてゐましたが、今宵も晴れていくらか大きくなつた月影を窓にながめて感激の念に一杯で、この手紙をしたゞめました。

第七章 通知

一 出産通知 北小路喜勢子

まことにまつてみた赤ちやんとう／＼ゆふべ十一時二十分に生れました。申し分のない男の子でございます。このよろこばしいお報せをしたゞめながら、昨日とはまるで變つた家の中を見

まはさずには居られません。お兄さまはまだ寝ていらつしやるし私も今朝はまだ産室へもお見舞に行かないで、全く静まり返つた朝なのに、なんだか賑やかなのは不思議なものでございます。あんなに小さくて赤いひとがこの家に存在すると何となく楽しい新鮮な気がするのをごさいます。平常、私を茶化してばかりいらつしやるお兄さまが、ゆうべはびつくりするくらい真剣でした。いざとなれば本氣になつて火の玉みたいに感じられるお兄さま、私きつとお姉様も心から頼もしくお思ひになつたらうと誇らしい氣がいたします。只今こゝまで書いたら産室からお迎へがきたので行つて見ました。お姉様も今朝は元氣よく微笑んでゐらつしやいました。赤ちゃんもへんな顔してをりました。お兄さまにもお姉さまにも似てゐないやうだといひましたら、お母様のお説では私に似てゐるさうです。

生れる前には、男の子か女の子かといふことが問題になつて、結局女の子だらうといふ説が優勢だつたので、お兄さまも昨夜までその氣でゐらつた様子でしたが、案外丈夫さうな男の赤ちゃんだつたので、お兄さまの御喜びはまた格別です。

お乳も充分ださうですし、お二人とも元氣ですからお肥立も宜しいでせう。喜んで下さいませ。

二 卒業の通知

守屋 東

伯母様、御元氣でいらつしやいますか、木の芽だちの頃は例年御手やおみあしがおいたみになるやうでございましたが、今年は何でいらつしやいますか、御案じ申してをります。

伯母さま、およろこび下さいませ。操はおかげ様で卒業いたしました。式の當日は總代で答辭を述べる事になり、皆様からもしつかりやつてと隣まされつゝ、晴れの席に立ちました。おかげ様で自分でも落つた氣持で、日頃先生方から御うけした御恩の御禮も申す事が出来ました。友達同志の親しいものといよく別れて、今日から社會へ出て行くのだなどといふやうな事を申述べてをりますと、自然に涙さへ出て、卒業式の喜びの悲しみといふやうなことをしみじみと味はひました。

職業人としての教育をうけて世に出てゆく私共へ校長先生を始め諸先生方の御慈みは決して忘れる事は出来ません。私共の歩み方一つで、この學校の價値も信用も高まるのだと、考へますといふよゝ責任を感じます。

この頃になつて急にすべてのものが、事新しく見られます。社會の一年生になつたからでございます。

三 移轉通知

伊福部 敬子

伯母様！ どうぞ今までも増して此一年生をお教へ下さいませ。お導きを頂いて、よい勉強をしてゆきたう御座います。まづはお知らせをかね御禮まで。かしこ。

その後は御無沙汰いたしました。皆様お變りもございませんでせうか。

このおたよりは、ずつとお近くからさし上げるので御座います。四五日前表記の所へ移轉いたしましたの。

いつかお申し上げましたやうに、今度百合子が高師附屬の小學校に入學しましたので、これまでの住居では行きかへりになり時間をとられまして、本人も家のものも大變でございますので、思ひ切つてこちらに移りました。何分子供本位に考へまして、たゞ通學に便利になつたといふだけのこと、至つて手狭な住居ですけれど、あなたをはじめ、美子さん、大川先生などの御住居にちかくなつたことは、ほんとうに思ひ設けぬ喜びでございます。

私もこれからは度々伺はせて頂きますから、あなたもお子さまをおつれになつてお散歩のついでにでも、度々いらして下さいませ。

第八章 紹介

一 婦人子供服の専門家を紹介する

弘田 由巳子

若葉會主催の音楽會では、久しぶりの御同席。あなた様の御洋装は、私はじめて拜見、其の上に美しい御禮儀方にも、御目にかゝられ、ほんとに仕合せ致しました。

其の節御尋ねの、婦人子供服の事、あれから色々考へて見ましたが、やはり家政學部御出身で、現に母校の講師、並びに櫻楓學園の主任でいらつしやる、丹羽よし子様、御相談遊ばしたらと存じます。

丹羽さんは、唯だ裁ち方や、仕立ばかりでなく、流行の型を自由に應用して、簡単に作られ、其の上意匠と配色との調和や又有り合せの材料を、手際よく利用する事などは、家庭婦人にとつて、最も大切な事である云ふ御考へから、深く御研究遊ばして、高貴の御方にも、其の道で御仕へ申し上げておいでになる方でございます。あなた様の御相談相手としてはこの上ない方のやうに存ぜられますので、特に此の御方を選んで、御紹介致します。

なほ生地などに就いても、佳い品を御手にお入れになるに御便宜のこともあらうかと存じますので、是非一度御面會遊ばされますやう、御勤め申し上げます。

先生の方へは私から申上げて置きますから、御都合のお宜しい折、私から聞いたと申してお出かけ下さいませ。月、水、金の午前中なら大抵御在宅の筈でございます。ではさやうなら。

二 女中を紹介する 西崎綾乃

日に増し新緑深くなりました。御手不足の折柄御疲れはございませんか伺ひ上げます。

扱過日一寸お話しになりましたお女中さん、幸ひ宅の召使の從

妹に當ります者、可然方へ御奉公申上げたき希望にて、四五日前郷里より上京致し参りました。私宅にて少々手傳ひ致させました處、至極順良にて、人柄としましては先々申分なき様に見受けますけれども、何分田舎から参つたばかりの者で、すぐに萬事のお役にはたちかねると思ひますが、御家風になじみますやうお氣長にお仕込み下さいませ思召で、試みに御使ひになつていただければまことに仕合せと存じます。

一二ヶ月はお互に氣心を飲み込みます迄苦心が要ることでございますが、氣立さへお氣に召せば、或點迄は許して使つて頂ける事と存じまして、兎も角も差遣はしてみます。唯呉々もお願ひ申上げた事は、私からの紹介であるからと御遠慮下さいまして、お氣に召さない者を無理にも御耐へになつて御使用にならないやう遊ばして頂き度いのでございます。私がよいと申上げましたも、わづか二三日の間の見聞に過ぎない事でございます故、折紙付と申すわけではございません。なほ、お給料などはとくと本人御覽の上のことでございますが、たくさん頂くことを望みませず、將來主婦として役立ちますやう、御行儀其他お仕込み頂きたいと申しをります故、序ながらお含みおき下さいませ。何卒親しく御使用の上よろしく御取決め願ひ上げ

ます。かしこ。

第九章 依 頼

一 嬢の縁談を頼む 仲町貞子

先日は御旅よりの數々の御繪葉書まことにありがたく一同打寄り拜見致しました。子澤山の私は何時になつたならば、さういふ楽しい旅が出来ますことやら、つくづくお羨ましく存じました。

そのやうなことから思ひついたわけでも御座いせんが、先日も姑が参られ陸子が花嫁さんになつた夢を見たと話され、どこからさういふ御請望に預らないかとお話に、日夜長男次男のことは頭から去らないまでも、十九になつたばかりの陸子のこととはさほど氣にも止めず参りましたので、急に目を覚ましたやうにて心急がれ、それにつけてもおたよりに致しませぬのは、あなたさまよりほかに無く陸子のことをお願ひにこの手紙認めました。

當人は主人似で體格はよろしく、學業はどうやら全甲、親から申すのは如何と存じますが、なか／＼の努力家にて、家事向

のことを致させましたも、落ちついて、じつくり處理して參ると云つた性質でございます。

何しろ田舎の、小地主の娘にて、何事にも質素に質素にと育てました故、物質的には兎や角の慾望は無く、矜持をもち眞面目で徳廉な方なれば、喜んで嫁ぐことゝ存じます。若しそのやうな方に御縁が御座いましたら、御世話下さいませやう御願ひ申上げます。寫眞も御送り致して見ました。これは實物より少し美しくそして老けてをります。

姑もあなたさまのことお話しいたしましたところ、それは御交際もお廣いしこちらのこともすべて御承知故、ほんとうにありがたいことだと申して喜んでをられました。厚かましいお願ひながら何卒よろしく御願ひ申上げます。

末筆ながら御主人様へも御よろしく御傳へ下さいませ。今日はたゞお願ひのみ申上げました。

二 就職の世話を頼む 河崎なつ

先生！今日は折入つての御願ひでございます。あまり御無沙汰申上げてみましたので、何から申上げてよいかわからぬ位でございますが、實は遠てより長病ひの母が昨秋死去し、續い

て暮には頑健を頼みにしてゐた父の頓死にあひ、小さい三人の弟妹達を私と十七になる弟の手で支へてゆかなければならなくなつたのでございます。

末の妹はもう尋常二年生で手はかゝりませんが、市役所から頂く二十圓の遺族扶助料ではどうにもなりませんので、弟は中學四年で退いて、さる自動車工場の修繕部に臨時工となり毎朝七時から勤めて日給六十五圓を頂いてをります。私も弟の健氣さを見るにつけ、何か職業をと焦つてをりますが、今は時期が悪くてどこにも勤め口がございません。私が一番上ではあり、私だけ女學校を卒業させてもらつたしあはせを、今こそ弟妹達の上に生かさなければと思ふと、夜も目がさへて眠られぬ位でございます。

昨夜もいろ／＼考へてをります中、先生のお顔がふつと目に浮び、さうだ先生に御願ひして見たらと、長い間の御無沙汰の申譯なさを存じ乍ら、この手紙を書きはじめました。

先生、何なりと私に勤め口は御座いませんでせうか。然を申せばいろ／＼理想もございしますが、私に出来る事ならどんな事でもいたしますから、どこかよさうなところへお世話願へませんでせうか。

先生の御高配にひたすらおすがりする次第でございます。どうぞ何分とも御願ひ申上げます。

三 規則書の送附を頼む ガントレット恒子

拜啓。未だ一度も御目に掛りません者、が突然手紙を差上げますふしつけを御許し下さいませ。

實は私は縣下の女學校を出たばかりの商家の娘で御座います。御校で洋服裁縫を研究させて頂き將來萬一の場合の用意にもいたしたいと存じ、両親の許可も得ることが出来ました。就いては規則書を拜見して御校のこと委しく承知いたしたく、郵券(三圓)封入いたしましたから、まことに御面倒様ながら一通御送り下さいませ。右御手数ながら願ひまで。敬具

第十章 問合

一 縁談について問合せる

宮田 多賀子

青葉若葉をそよがせてふき渡る初夏の風のさわやかさ、見なれて居りましても此頃の田舎の風景は繪のやうに美しうござい。東京はもうお暑いこととぞんじます。今年は久しぶりで御家族御同伴、夏の休暇は故郷でお過ごし下さる様おきめ置き下

さいませ。平素はお心安立ての御無沙汰、たまにお便り申上げると、何時も／＼お願ひばかりで身勝手とお恥かしく存じますが、どうぞお許し下さいませ。

實は律子の縁談のこと御座います。あなた様もごんじの女學校同級生の仲よし、橋さんのお母様からお話がございました。のですが、同奥様の御親戚に當る方御身分、學歷、只今のお務めも申分のない好い條件、それに律子在京中二三度橋さんで落合つた事もあるので、改めてお見合などの必要のない理想的なお話ではございますが、ふだんは結婚は當人まかせと立派な事を申して居りましたが、いよく／＼となるとやつぱり御多分に洩れぬ親心、あれこれと思ひ過して取りきめ兼ね、も一度貴女様にお願ひを願つて、其れ次第でと主人も申しますし、第一律子が私を一番よく理解し可愛がつて下さる伯父様方が御願ひ下さつて、よいと云つて下さる處なら安心してゆける故、是非お願ひしてくれと申しますので、日頃御多忙の貴女様をお煩はせ致しますのは御迷惑と存じます。律子一生の大事とまげてお許し下さいませ。別紙は本人住所姓名職務先等でございます。最も充分信用の置ける人格者の御仲人故、普通の取調は結構で御座います。ことに律子日頃の理想、男らしく朗

二 病氣の容態を問合せる 伊福部 教子

雪子さん、その後お母様の御病状いかゞですか。だん／＼とおよろしい方でせうか。少し涼しくなれば、ずつとお元氣になれるのだと思ふのですけれど、この頃のやうに暑くては、丈夫な私たちでさへ體がもちにくいのに、熱のさしひきのあるお母様には、さぞお苦しいことだらうと心配してゐます。お手紙にあつた菜太樓の玉だれはお送りしました。

もう届いた筈と思ひますが、お母様喜んで召し上つたかしらあれを召し上げるやうになつたのなら、大分お氣先もいゝのだと安心したりもしてゐるのですよ。

この間あなたのお手紙をよむと、すぐ日本橋へあれを買ひに出かけたんですよ。そして、夕暮の三越前の雑沓を、わけて歩いてゐる中にふつと涙が出て來たんです。この前やつぱり今時分かうしてお父様の御病氣の時、西瓜を買ひに行つたことを思ひ出したんです。あれからもう丸五年の間お傍をはなれて過してることや、その間のお母様の御苦勞が急に思ひ出されて、でもあの時は、メロンの味が太夫よかつたとお手紙頂いて、本當にうれしかつた事も覚えてゐるわ。今度もお母様、これでお元氣になられるかもしないと思ふんだけど。

雪子さん、あなたも長い御病氣で大變でせうけれど、どうか私の分もと思つてつくして上げて下さいね。そして、御様子になるべく委しく知らせして下さい。あなたもどうか體を大切に。ではお手紙まつてますよ。

第十一章 注文

一 反物を注文する

美川 きよ

相變らず御忙しいことと存じます。又一つ御面倒ながらおねがひ致します。先日熱海へまゐる途中、汽車の窓から眺めた海の色があまり美しいので。あんな着物が出來ないかしらとふと考へついたのです。青の一角だけでもずるぶん素晴らしいのですが、私には少々地味かしらと思ひますので、波頭だけでも白い絞りで、一列か二列ところどころへ散らしてみたらなどと思つたりして居ります。

色もの故裕の一枚着がいゝと思ひます。生地は波模様の地紋のあるもの輪子などいかゞでせうか。もつと、面白い生地があれば尙更結構ですが、何卒探して見て下さい。

海の色なんて大變漠然とした言ひ方ですが、はなやかな色よりは、深い落ち着いた色が好ましいのです。

生地も色も柄もおまかせ致します。せいろく御工夫の上おもしろい出來ばえを見せて下さい。この頃流行の金糸銀糸のあるのや、光つた生地は御めんです。

餘りお金をかけず五十圓位までの費算でやつて見て下さい。一寸心づもりもあり、來月中頃までに拵へて頂きたく、楽しみに待つて居ります。ついでに、共色の裾廻しも一枚分染めておいて下さい。

右、勝手な注文でございますが宜しくお願ひ申上げます。

二 仕立物を注文する

長谷川 時雨

わざわざお便をありがたうございました。染は大層よく出來上りました。それですぐに仕立てにまはしていただきたいのですが、何時も申すやうに、この頃は、どうも直にひき解いたり染直しをしたりして、皆さんが異つたものを着てゐるやうに見えるのが流行るせゐか、仕立が——（仕上げは綺麗なのですが）どうもだん／＼ぞんざいになつて手が抜いてあるのが多くつて困ります故、お店では大丈夫と存じますが、入念にいたしますやうに、御面倒ながらよくお申付け下さいまし。ことに、單物ゆる腰のところから下までの針目を細かくして、ふしきあてなしに細かくしおせに、上まで共ぎれで願ひます。それに、縫糸は本絹糸をお用ひ下さるやう。近ごろ細い、燃のちつともない糸でくけてくるので、すぐにほころびて困ります。

も一ツ御注文申したいのは、襟かたのクリが、お若い方のやうに大きく深く、タツてあるとぬき衣紋になつて厭味になりますから、あまりタラないで下さいまし、といつて、男のやうでも困りますから、五分ぐらゐるところにお願ひ申します。日限

はなるべく一週間以内に仕立上げるやうお願ひします。

第十二章 相談

一 就職につき両親に相談する

佐々木 邦

餘程まだ遠ざかき折柄、父母上様には益々御清福にわたらせられ慶賀の至りに存じ上げます。私ことも御蔭をもつて、もうちか／＼卒業でございます。高女を出て又三年、随分長い學校生活を續けさせて頂き、今更ながら有難く感謝いたしてをります。

さて、今日担任の先生から突然相談がございました。當校では學問奨励の爲め、卒業生中特別優等のもの一名は助手として一年間勤め、二年目から教師に採用されます。年來さういふ規定になつてゐますが特別優等のものは、この二、三年ございませんでした。私ことは一年二年を通じて首席で入り、三年は何うかと案じてみましたところ、思ひがけなく資格があるさうでございます。助手は研究費を月二十圓繰上りに、寮舎のお世話をお願いしますから、費用は一切かゝりません。

お父様、お母様、如何でございませうか？ 入學當時私は

單に自分の修業の積りで、就職を問題にしてみませんでした。唯今名譽の地位が目の前に降り湧いて、頻りに考へさせられます。尤も先生も考へて見るやうにと仰いました。今まで就職のことは全然頭にごさいませんでした。又それについての御意も一向に存じませんから、以上早速お知らせ申上げて御判断を仰ぎ上げます。ゆつくり考へてから又申上げたいと存じますが、かういふことは何より父母上様の御考への方が先だと存じまして、右取急ぎ認めました。何とぞ早速御返事頂きたう存じます。

二 結婚につき田舎の母に相談する

加能 作次郎

そろ／＼暑さに向ひ始めましたが、その後お變りもございせんか。私もお蔭で毎日無事に勤めてをりますから、御安心下さいませ。新聞で見ますと、春蘭の相場が豫想以上によかつたさうですが、如何でございましたか、噂だけでも何よりのことゝ喜んでをります。

さて、と改まると何となく書きにくいやうな気がしますが、私の身の上につき折入つて御相談願はねばならぬ事が出来ましたので、一寸一筆申上げます。と申すのは外でもなく、私

の縁談についてですが、實は一昨日、日頃格別お目をかけて頂いてゐる課長の井上様から、少し話があるからとのことでしたので、何事かしらと胸をとどろかせながらお宅へ伺ひますと、奥様とお二人で、私に結婚しては如何かとお勧め下さるのでした。先さまは、井上様と御同郷石川縣の方で、寮野一郎と申され、只今は丸ビル内の日東水産會社にお勤めなさうです。今年二十八歳で私と五つ違ひ、元、井上家に寄寓なさりながら苦學で私立大學を出られた秀才で、人物も至つて眞面目でしつかりしてをり、將來頗る有望な青年だと、お二人で折紙をつけてのお勧めでした。私もこのお正月、井上家へ御年始に参つた時、偶然同席して一寸ながら面識があり、今から思へばその節井上様がそれとなく私を、そのお方にお引き合せになつたらしいのですが、係果も至つて少く、お妹さんが、近々結婚なさるので、後はお母さまお一人きり、それ故急いでられる由なので、私さへよければ、此儘身體一つといふ、誠に願つてもない結構なお話なのです。

就ては如何お返事申したらよいでせうか。外ならぬ事もお二方の御親切なお言葉でもあり、私としても、何んとなき幸福になれさうな気がしてゐるのですが、それにつけても心が

りなのは健ちやんの學費の問題です。僅かながらでも、これ迄のやうにお手傳ひが出来なくなりまして、今後お母さまの御難儀も如何ばかりかと、それを思へば、子として誠に忍び難い氣が致します。後もう二年、健ちやんの卒業まで、やはり此儘でゐる方が、お母さまの爲にも一人の弟の爲にも、子たり姉たる私の義務だとも思はれ、千々に迷はされてゐるやうな次第です。何卒、叔父上とも篤と御相談下され、何分のお返事を願ひたく存じます。私は何様とお母さまの御心任せに従ひます。取敢へず御相談旁々右まで。かしこ。

第十三章 催促

一 注文の品を催促する 伊福部 敬子

拜啓

とりいそぎ手紙にて申上げます。私はいつもお世話様になつてをります中野の山本でございませうが、この十日に、夏座蒲團五客（品物は水色無地綿）と、夏掛蒲團五枚（品物は藍模模綿、麻、カパー付）を三番賣場矢野様扱ひにてお願いいたしましたその節、十七日までは仕立上げてお届け下さるといふお話し

なつてをりましたので、昨日は心待ちしてをりましたが、まだお受取りいたしません。

どういふ事になつてをりませうか。

何分、季節のことで、お仕事も輻輳してをりませうから、注文の際、特に急ぎと念を押さなかつたため、自然後まはしにでもなつてゐるのではないかと、気がかりになります。

いつも御約束とちがつたことのない貴店のことですから、ふだんなら、一日二日のところはお待ちしてみるのですけれども、實は、急に遠方からの逗留客があることになり、それが二十日にこちらへ到着することになつてゐますので、その前日までに必ずあの品々とりそろへておきたいと思ひます。

二十日當日は朝から何かと取込んでをりませうし、不體裁のことがあつても困りますから、何としても明十九日一ぱいにはお間に合せ願ひたく、氣短かのやうですけれども、右様のわけで御催促する次第でございませう。

何卒至急おとりしらべの上、よろしくお運び下さるやうお願いいたします。

先は右要用のみ。

二 返事を催促する 生田花生

其の後益々御清祥の御事と存じます。久々御無沙汰いたして
りますので、ぜひ近いうちにお邪魔に上りたくおもつてゐます
實はその節にと存じてゐましたところ、先日私の紹介状もち
まして参上いたしましたところ、相賀定子様が昨日おいでに
なりましたので、そのせつ御耳に入れました「裝飾研究會」
の發起人お願ひの件、御承諾願へませんでせうか、私より御
返事いただいてくれるやうにとのたのみでございます。

「私ごときものは」と仰せられましたとかでございますが、そ
の御謙遜は勿論御無用でございますし又、決して貴女様に御迷
惑をおかけするやうなことはございません。重ねてのお願ひは
失禮かとも存じますが、相賀様も眞面目にこの仕事をなさりた
き御希望でございますので、どうかよろしく、私よりもお願
ひ申上げます。すりもの都合もありませんので、御諾否一寸お
知らせ下さいませ。よろしく願ひ申上げます。

第十四章 謝絶

一 無沙汰のお詫び 大村 嘉代子

其後は御無沙汰を申上げて居ります。日に増しお曇りにむか
ひます。御両親様にはおさはりもなくお過しでゐらつしやいま
すか。例年お父様の御丹精になります懸望、今年も御見事に
来ましたか。花壇の花はいかゞでございます。さぞいろ／＼咲
き揃つて美しいことで御座いませう。御二方様の御丈夫なもの
一つには朝夕花壇の御世話がおからだのためにおよろしいから
だと存じます。先日友達の家へまゐりましたら、そのお父様が
有名な朝顔つくりの方ださうで、まるで牡丹の花のやうな朝顔
が咲いて居りましたので、早速種をいたゞくやう御願ひして
きました。秋には御送り申上げます。
主人も近頃は夜學まで教へて居りますので寸暇もなく、御無
沙汰申上げて居りますが、此の暑さにも大變元氣で居りますか
ら御安心下さいませ。太郎も元氣で獨逸語の夏季講習會にま
つて居ります。あと一週間で終りますので、すぐお祖父様お祖
母様の處へ伺ふと申してをります。
昨年お父様のおともをして、黒鯛を澤山釣りました、その味
が忘れられないと見えまして潮見表だの、うきだのを今から並
べてにこ／＼致して居ります。定めて黒鯛つりをお父様におね
だり申すことゝ存じます。太郎が伺ひます時、先日主人がお父

様にと、もめておきました魚籠をお届けいたします。

お曇りの折柄おからだ御大切に願ひ申上げます。

二 娘の縁談を断る 伊東 静江

過日は和子の縁談につき御多用中を御親切にわざ／＼お出で
いただきまして、まことに有難う存じました。

幼い頃から和子をよく御存じのあなた様が、和子の將來まで
もお考へ下さいまして、お運び下さつた前途有望な青年御學歴
御家庭共に申分のない結構な御縁談と存じ、主人にも話しまし
たところ非常に喜び、且つ御芳志を厚く感謝致して居りました
が、昔のやうに親の一存にても御返事申上げかねて、當人にも
意見をききましたところ、當人はまだ結婚のことなど考へ
ても居らぬらしく、「まあ私が」とびつくりしたやうに申す
のでございます。そして「お母様は私を二十三になるまでうち
において下さるとおつしやつたでせう」など申しますので、
そんな約束をしたかもしれないけれど、今の若い娘さん達がど
んなに結婚難に悩んで居られるかを話してきかせ、良縁が見つ
かつたらば早く結婚するが得策など、申して見ましたところ
それではもうすこし御返事を待つてといふことになり、私も

ホツと教はれた氣持で御座いました。

ところが結局本人にまだ全然結婚といふ氣持がないので御座
いませう。回答日の昨日になつて「どうしても卒業後二三年は
自分の好きな音楽や語學を専門にみつもり勉強し、出来れば中
等學校教員の資格位得て置きたい」とかう申すので御座います
このやうな氣持の娘を結婚の方にふりむかせるやう説得いたす
ことも急にはむづかしく、又先方様ではおいそぎのやうに伺ひ
ましたので、誠に惜しい御縁談では御座いますが、結局御縁の
ないものと、此度は御辭退させて頂くことにいたしました。何
卒々々いづもの御厚情をもつて、よろしく御誠承の程伏して
御願ひ申上げます。

なほいつかは嫁がねばならぬ娘、この度のことにおこりなさ
らず不束者ながら、此後とも御見捨なく一層御眼をかけて頂き
ます様重ねて御願ひ申上げます。

三 借金の申込を断る 宮田 多賀子

お手紙拜見致しました。仰せの通り今年のお曇りはまた格別
の様にぞんぜられます。御大患のおあと故いかゞとお案じ申上
げて居りました勝子様にも、益々御元氣になられました由感れ

しくぞんじ上げます。
御申越の御用件、日頃お物堅いあなた様のこと故、よくのこと申越されましたものと深く御同情申上げて居ります。なんとかしてお心に酬ひたいものと心配致して居りますが、實は御承知のごとく先年主人病致いたしました際は、相當遺産も御座いました。其後専ら整理にお當り下さいました親戚知友の御意見で、子供達の教育を済ませぬ中はことに大切なお金。自由にならぬ方が子供達の身のためと、選まれて四人程後見人におなり下さいまして一さいを信託會社にまかせ、月々の入費も不自由のない程度に其方から支給されることになつて居るので御座います。先頃もやむを得ぬ入用が生じまして少々ばかり臨時費を請求致しましたところ、細々と用途を聞きたくされまして、元金に手をつけたい方がよいからと四人で出し合つて一時お立替置き下さると云ふ御親切からのむづかしさ、我物ながら少しも自由にはならないのでございます。さりとして手元には餘裕もなく、主人存生中ではございました。是位のことなら御不自由かけずに済むものをと、思はず愚痴も出ましてございますが、其様な御故慮しからずお許し下さいませ。何ふとどれも御尤な御入用ではございますが、とりわけ晴子様今度晴れ

の初演奏に召さるゝお洋服のこと、日も迫つて居りますこと故無かし氣をもんで居らるゝ事と存しまして、色々考へました末、ふと思ひ浮びました別封のドレス一着、これは昨夏やはり定子が演奏致しました時に齎致しましたもので、評判もよろしう御座いました。先生になつてはもう派手で着られぬと申して、たゞ一度手を通しました丈でしまつて置きましたもの、幸ひ今年の流行の色合、品も相當自信のあるもの、たゞ古着で失禮とは存じましたが、従妹同志の事、急場のお間にお合せ頂かれまして此上もございませぬ。充分に御理解申上げながら御用立の出来ない心苦しさを、せめてこれでもお役に立て、頂けば、幾分慰められるとぞんじまして、早速小包に致して見ました。

晴子様には東京の伯母が心祝のおしるし、當日の御成功を今からお祈り申上げて居るとお傳へ下さいませ。
取急ぎまして、早々。

第十五章 戒 慰
一 夫の失業した友を慰む 奥むめを

奥むめを

青葉美しい初夏となり満目一新の感がございますが、皆々様には益々御健かにお元氣に御消光のことと存じます。

けさ程は折角お越し下さつたのに生憎他出中にて、まことに失禮いたしました。私もかけ違つてお會ひ出来なかつた事を非常に残念に存じます。

擬、御書面に依りますと、この度御主人様には、社長更迭による人員整理にお會ひなされて、御失職なさいました由、全く罷はれ人と雇ひ主との世の中とは、こんなもかのとあまりの唐突のこと、私まで思はず考へこんでしまいました。

あなたの長い御患ひがお癒りなされて御安神のひまもなく、今失職の境遇にお入りなされ、どんなにか御力おとしのことと存じあげます。しかし、今働きの盛りの、御年輩の橋本様のことであり、殊に、在職中は格別なる御信任の下に大切なお仕事をしてお出でになつてゐたのですから、必らずやいろ／＼と有力な手掛りを以て、よい御仕事に早速お就きのこととは存ぜられませんが、とにかくも一日も早く御安神がまゐりますやうに、及ばずながら私共も出来る限り恰好なお仕事を探してみることと致しませう。

まあ、心を廣くお持ちになつて、長い職業生活の息抜きだ

と思召して、今の内にゆつくり御休養、他日の勇躍のための力を御養ひおき下さいますやうにと祈ります。

二 破鏡の友を慰める 岡本 かの子

岡本 かの子

承れば折角進行中の御結婚生活も意外の障害にて、この度御不縁になりましたとか、たゞく驚き入るばかりでございませぬ。

私どもの他所目には、御縁談の始りより御式も済み、いよ／＼新家庭をお営み遊ばさるゝまで、前後の御様子を拜察いたし、これほどの良縁は世に珍しく存じをりましたのに、このやうな結果になりますとは、よく／＼深い御事情のあることとまことに残念に存じます。あなたさまは私たち友人仲間、妻として主婦として、何一つ非のうちどころもない方でおありになることは衆評一致してをりました。今更このたびの御不幸の原因を、あなたさまの落度と思ふものは一人もございませぬ。すべては人事の限りを盡しての不可抗力で、あなたさまなればこそよくもこゝまでお忍び遊ばされしものと、たゞ／＼御同情申上げるばかりでございませぬ。

世の中のこととは何が幸か不幸かわかりませぬ。すべては永い

一生の間の試験の一つで、不幸もそれを活用すれば幸福の基でございませう。御同様の女としての、堪へ難く断ち難い想ひも時に觸れ起り勝ちではございませうけれども、極力お氣を廣くお持ち遊ばして、次に待ち受けてゐる管の幸運をお捉へ遊ばすやう、申上ぐる迄もなきことながら、切にお勧めいたします。

三 誘惑にかゝらぬやう煩を戒める

山田わか

綾子さん、その後はいかですか。都會は田舎より一層不景氣だといふことは、この頃よくきてゐます。あなたの派手の仕事、この頃は少し忙しいのでせうか。

先達のお手紙には「思ふやうに仕事がないけれども、それはこの時勢でやむを得ないこと、私は皆様から可愛がられてゐるから安心するやうに」とありましたが、私はそれが氣遣はれます。

「皆様から可愛がられてゐる」といふのが本當ならよいけれども、あなたは仕事大事と一生懸命にするつもりでも、何かと都會生活に慣れないところから、役に立たないと思はれてゐるのではないでせうか。

田舎とちがつて、いろいろ心を引くものが多い中で、仕事も

忙しくないといふ、ついした事から過ちに誘はれないとも限らないと思はれます。都會で成功するつもりで出ていつたあなたが、却つて私を心配させるやうな事はして下さるな。あなたの事だから、やみくも誘惑に負けたりはしないと信じてゐますけれども、心配になり出すと、そんなに都會で立身しなくても、母のそばで平凡に間ちがひなく暮してくれる方がいゝ、とさへ思ひます。

そちらで働いてゐれば、自然いろいろの男の方と御近づきになる折も多いだらうと思ひます。そして大勢の中には、あなたもなにか思ふやうな方もあるかもしれませんが、よく自重して下さい。結婚といふやうな話になつた場合、お母さんのことを考へて下さい。「母の承諾を得てから」この言葉が大勢の人の中で暮すあなたを、間ちがひに引入れないお守りでもあり、試金石でもあると思つて下さい。私はわからない事を言つたり、あなたと結婚する人の世話にならうといふつもりはありませぬ。けれども、不真面目な人であつたなら「母の許を得てから」と、毅然とあなたが言へば、親切らしく出してゐた手も引つめてしまふだらうと思ふからです。

二十年の間私の思ひは、あなたをはなれたことはありませ

ん。どうぞ私のために、體をも心をもそこなはないやう、くれぐれも注意して下さい。おたのみします。憑着して風邪など引かぬやう、ではお大事に。

第十六章 情 愛

一 浪子より武男へ

徳富蘆花

近頃は夜々御姿の夢に入り、實に一日千秋の思をなし居り参らせ候。昨夜も御一處に鑑にて伊香保に就とりて参候處不圖誰か私共の間に立入りて、御姿は遠くなり、わたくしは體より落ちると見て驚はれ候ところを、母上様にご知らせやうく胸撫でおろし参らせ候。愚痴と存じながら何とやら氣に相成、其につけても御歸りが待遠く存上参らせ候。何もく御歸りの上にと日々東の空を眺め参らせ候。或は行違になるや不存候へども、此状は布哇ホノル、留置にて差上参らせ候

十月×日

浪子より

武男様 まゐる

二 宮より貫一へ

尾崎紅葉

生れてより神佛を頼み候事とは一度も無御座候へども、

此度ばかりはつくづく一心に祈念致し、私命を縮め候代に必ず此文は御目に觸れ候やうにと、それを力に病中ながら飲取りまゐらせ候。幸に此の一念通じ候て、ともかくも御被せ被下候は、此身は直に相果て候とも、つゆ體には不存申候。元より御憎悪強き私には候へども、何卒是非を悔て自害いたし候一箇の感なる女の、御前様を見懸けての遺言とも思召し、せめて一通り御判讀被下候は、未來までの御情と、何より嬉しく存上げまゐらせ候。

擬とや、先頃は久々とも何とも御生別とのみ、朝夕に誇め居候御顔を拜し、飛立つばかりの御懐しさやら、言ふに諷れぬ悲しさやらに、先立つものは涙にて、十年越思ひに思ひまゐらせ候事何一つも口には出でず、あれまでは様々の覺悟も致し又心苦しき御目もじの肌をも忍び、女の身にてはやうくの思にて参じ候効も無く、誠に一生の無念に存じまゐらせ候。唯其折の形見には、涙の隙に拜しまゐらせ候御姿のみ今に目に付き候て、且暮忘れやらず、あらぬ人の顔までも御前様のやうに見え候て、此頃は心も空に泣暮し居りまゐらせ候。

久しく御目もじ致さず候中に、別の人のやうに纏て御變り被成候も、私には何とやら悲しく又殊に御顔の裏、御血色の

悪さも一方ならず被爲居候は、如何なる御疾に候や、御見上げ申すも心細く存上候へば、折角御大事に御養生被遊候は指さても御身は大切に御願被遊候やう、好い明日を御迎へ被遊、ますく御繁榮に被爲居候やう、今は世の望も身の願ひも、そのみに御座候。まづはあら／＼かしこ。

五月廿五日

おろかなる女より

戀しき

生別し御方様

まふる

三 旅にある人へ

ダンディ夫人

貴方のおさびしさうな眼差がチラ／＼眼について、お聲は聴かれないとは知りながらも「マ・ブット」と呼んで下さりはしないかと思はれます。でも御便りを書くと何んと難しいのでせう……さう、貴方は栗鼠に似ていらつしやる。栗鼠がクルミを詰め込むやうに、貴方は憂鬱をお集めになつていらつしやらないかしら……悪い季節が参りますからね。とうとう猫の毛のやうに灰色の雨が落ちて来ました。マリイ（註、女中の名）は、鶏の御料理を又やりそなたつてよ。貴方のお留守中

四 都へ旅立つ人を送る 下田歌子

朝夕は、やう／＼暖氣催し、凄きよく覺え申し候。御前様御事、この度御良人様よりの御迎へにて、御家内御一統御引連

はあの娘まで何にもかもよく行かない様です。私達のお部屋には貴方のお召物があるだけ……私はよく睡れません……貴方お休みなれましたか？ 風邪をお引きにならないやうに。嫌な風が吹荒んでありますから……トツプ（註、犬の名）は貴方のお名を呼んだだけでリン／＼なきますの。お見せしたい程のさびしがりやうです。グロウさんが貴方にお目にかゝりにいらつしやいました。又お出でになるさうです。男の方つて、どうして斯うウヌ汚ないのでせう。御立派なのは貴方だけ。私少し熱があるから私達のはじめての日の様に、身内がほつておづ／＼して居りますのよ。すぐ御手紙頂戴、長く御滞在なすつては嫌で御座いますよ。マルセルより（註）これは一九三四年パリで行はれた「戀文藝技會」といふ風變りな催しで見事一等賞をせしめたラヴレターである。筆者は近世の大作作曲家アンサン・ダンディの孫の夫人である。遠く旅にある良人に宛てた妻の書簡である。

れ、御上京の途に上らせられ候よし、誠に御愛でたく、さりながら、久しく御懇情に預り候ひし御交誼を存じ候へば、御名残り多く、詮方も無く思ひ詫び申候。垣の紅梅、打眺め候ふにも色をも香をも、亦誰とかはと、物あはれに覺え参らせ候。汽車の旅路、便利よき世にては候へども、幼き御方々御同伴、賑々御心遣ひの御事と、山々御察し申上候。折角御用心、御安著の御報待ち入り候。この錦詰三箇、果物二籠、御途中御子様方の御慰みにもと御覽に入れ候。私事、是非とも参上の心得に候。先達中より持病の體麻質斯にて、歩行甚だ難儀に候故、何分伺ひ兼ね候段、不本意の限りに在し申し候。明日は、伴、娘どもを停車場まで、代理として差出し申すべく右悪しからず御海客の程、偏にねんじ上候。末筆に相成り候へども、御序の節御表様へも、宜しく／＼御申上げの程御願ひ申上候。かしこ。

此の頃承り候へば、此世限りの御催しのよし、蔭ながら嬉しく思ひ参らせ候。唐の項王とやらむは、世に猛き武士なれども、虞氏の爲に名流を惜しみ、木曾義仲は拜殿の局に別れを歎くとやら、されば、世に望み窮めたる妻が身にて、せめて御身御在世の中に最期を致し、死出の道とやらむにて奉待上候。必々秀頼公多年滄山の御瀧願御忘却なき様願上参らせ候。あら／＼めで度、かしこ。

六 わが身一つを失ひ候 袈裟御前

さらぬだにも、女は罪深しと承り侍るに、うき身の故にあまたの人の失せぬべければ、わが身一つを失ひ候ひ。ひこり残り留りおはしまして、歎き思召さんことこそ痛はしく侍れ。何事もしかるべき事と申しながら、先立まるらせぬ悲しさよ相講へて後の世よく弔ひたまはらん。佛になり侍りなば、母御前をも渡をも必ず迎へ奉るべし。よろづ細かに申度侍れども落つる涙に水草の跡見え分かず。

五 蔭ながら嬉しく

木村重成の妻

一樹の蔭、一河の流れ、是他生の縁と承り候にこそ、そもおと／＼の頃よりして借老の枕をなして、唯影の形に添ふが如く思ひ参らせ、思はれ参らせ候。

七 舞臺の隙に

西條 エリ子

ハルヨさん、コンニチワ。
ごきげんいかがですか？ エリコとても元気です。先日ママ
ム・コバヤシにお逢ひすることが出来ました。とても美しい方
でした。寒くなりましたから、からだに氣を付けて下さい。
さよなら。

八 來月は明治座

水谷 八重子

日々お寒くなつて参りました。皆様お元氣にお渡り遊ばされ
ますか、お伺ひ申上げます。私共も皆元氣で朝の十一時から夜
も十一時近くまで働きづめで、宿へ歸りますとほつと致します。
けれども私は樂屋入り前の二時間を、スケート場で思ひ横滑つ
てをります。

來月は明治座出演に決定致しました。先月の償ひに一場も休
まず思ひきり奮闘致す事になりました。何卒皆様により以上御
聲援の程を偏にお願ひ申します。

九 御友情有難く

賀川豊彦夫人

御寒さの破御元氣にて何よりと存じます。過日は吉崎様を御
尋ね下さいました由、舊き友を思召す御友情有難く存じました

久子様の今の御生活で、あなた様の御訪問は單なるよろこび計
りでなく、定めて力強い感と興へられたことと存じます。私も
時を得まして御逢ひ致し度く願つて居ります。御返事迄。
一〇 スキー場から 夏川静江
愛宕山もすっかり白くなつてしまひました。
皆様御壯健でお暮しの事と存じます。
私もお正月の休みを利用してスキーをやりに参つて居りま
す。二三日して山を降りますから一度お伺ひ致し、スキーの自
慢話してもしに参上いたします。
御主人様によろしく。

一一 東京へ行きそこねて残念

桂 珠子

いつまでもお寒いです。お障りもなくお過しでめらつしやい
ますか。お正月には東京へ行つてお目にかゝれるのを楽しみに
にして居りましたのに、都合で行きそこねて、残念に存じて居
ります。阿部先生のが開始になれば、東京へロケがありますの
でぜひお訪ねしたいと楽しみにしてあります。
御無沙汰お詫び旁々、では。(英百合子さん宛)

一二 思ひ忘るゝひまもなく

高尾太夫

見てもなほまたも見まくのほしければ、なるゝを人はいへと
はよう申しまゐらせ候。元より浮舟のよる邊さためぬ機枕
きのふはこなたの涙を離れ、今日はしらぬ渚に寄る波の、たつ
ともながき流れの身ながら、心までかうした事にはなく候。あ
はれゆくすゑかけてこゝろたけをこらえ、たゞいかなる宿世
に候や。立居につけて思ひわするゝひまもなく、しんそく
しらぬむかし忍びよりほかはなく候。申上度事はかさなる山
ながら、筆にて言の葉を盡すこととさつとめで度かしく。

一三 忘れねばこそ

高尾太夫

夕しほ浪のうへの御歸らせ、いよゝ御やかたの御首尾つゝが
なくおはしまし候や御けんのみまゝ忘れねばこそ思も出さず候か
しく。
君は今形あたりほとゝぎす

一四 あなたを抱くまでは

ハミルトン夫人

一七九八年九月八日ネーブルスにて

親愛なる卿。
何から申上げませう。前の日曜日から私が悦んで、狂氣
の様になつてゐることと言つたらとても書ききれません。私は
本當に感動と喜びとで大熱を出して居るのでございます。どう
したらこのことをあなたにお知らせ申すことが出来ませうか。
神様も御照覽あれ、世界中の何れの勝利にても今度ほど光榮で
今度ほど完全なのはございませぬ。私は吉報を聞いた時、失
神して打倒れて、少し許り怪我を致しました。この位が何でせ
う、私はこんな時死んだら幸福と存じますわ。いえ、私は
ナイルの勝利者を抱くまでは死なうと思ひませぬ。
あなたの——より
(註) ネルソンが、ナポレオンの佛艦隊をアプキール灣頭で
撃破した、所謂ナイルの勝利の時に、愛人のハミルトン夫人
から寄せた喜びの手紙である。

一五 唯七への遺書

武林唯七母

一筆残しまゐらせ候。扱も今日殿様御身のはて思ひもよらず
御事ゆゑ、とはうを失ひおどろき申候。しかれども力なき御事
とあきらめ申ところ、いかにしても馴れさせたまはぬ冥途の御
旅へ、たゞ御一人にてなにほどか御たよりなく、死出の山ちと

やら御まどはせ候はんと不斗心つきしより、とても老のみのながらへて何のせんなく、せめてめいどの御ともしてはなしの御ともなりまらば候はんと思ひつめ、かくはなり申候。しかし一人のそなたを捨しことにはなく、たゞ願わくはいとけなきより數十年の春秋を酬したひ奉りしところ、今更御わかれのかなしさに、一ツは身を失ひ、二ツは想もかくなり候へば、御遺恨ふくまれし御方にもさだめて君の御仇とていづれも御覺悟あるべき事なれば、なほさら御手前にかぎりて、母のために仇なりと向ふに力の入るべき事と推量いたし、及びなき事ながら、唐の王銀元直の母刃にふして義をすめし例にならひてかたぐ身を取申候。このところ得と覺悟ありて、御仇の事において、たとひ御手前一人なりとも心をつくし申さるべく候。草葉のかけより見まらせ、なにほどか悦び申べし。及ばぬ事ながら申のこしまらせ候。

一六 惣右衛門への遺書 原惣右衛門母

遺し別れの折から、返すくも母ありとおもふべからずよし申候へども、又立歸りわれをとふ事、孝に似た事の不幸たりとかく我世にあれば、かゝるみれんも見るなれば、我先だちて

死をおしへ、侍の罪なからんことをしめしまらせ候。是も子を愛するの道にもあらんと、女心の一筋におもひ極りてかくなり侍る事に候。かしく。

一七 お胸に 喜代子

私の英夫様御胸に。今日は本當に失禮致しました。家へ歸つて見ても何となく物足りなくて、そのくせ母さんや兄さん達と話をするのも臆却です。だもんで一人引込んで今日一日のことを考へながら、貴方に御手紙を書きました。フト今日のチャプリンの顔が目につんでおかしくなりました。

一八 後の世までのかたみ 巴御前

今日のやうな二人きりの日が、此次は何時來るでせう。自由に出て歩けない身が悲しうございます。その中機會をきつと作ります。その時は改めて御知らせ致します。御體を大切に。喜代子より

くりしんじ候。のちの世までのかたみく、めで度かしく。

この小袖、君よりはいいし候を、長きかたみとおくりまらせ候。

君ゆゑに露の命をしからじ

今日より後はあはずがはらに

勢州

おきよさま

一九 敵に内甲を 原惣右衛門母

一筆申しのこし候。惣右衛門こと、つね々々孝行の志深く朝夕やさしくいたしけれ候段、ゆめ々々おろそかには思ひ侍らず、しかしながら此度の仕合せ七里出て立戻るほどの心懸に母が事を思ひたまふほどならば、吉良家へ討入の時ふと母の事を思ひ出し、進む勇氣も碎けてなかく敵に内甲を見透されたまはんこと疑ひなし、これ母があるゆゑと悟りしゆゑ今宵先立申し候。跡にて心懸りなく、吉良どのは亡君の仇、母の誓と思

ひ定めて打入たまふものならば、功名手柄も人に後れ申すまじと、これのみ悦び入り申し候。何事も殊の外最期を急ぎ候まゝ、粗々申し残し候。惣三郎へもよろしく頼み候。かしく。母より

二〇 母の心を 千代女

有る時はありのすさびにつらしとやら、亡くなりて後のやる瀬なき心の淋しさ、この心持ちは幼き者に先立たれし母ならでは、おしはかりも及ぶまじ。何を見ても何をきても、今は亡き子の姿とも見え、聲とも聞え居り。醫道にたずさはる身の、かくては成らじと思ひ申し居るも詮なきわざ、やさしく慰めくる人の言の葉のかへりて涙をもよふし候ては、仇とも思ふことさへもあり、いかに努めてもつとめても、忘れがたなく悲し候。夕さればまだ此の世にある心地して歸りを待ちわび、夜半に目さめては臥床にあらぬを怪しみて胸をとどろかせ、やがて今は亡き者と泣き伏すことさへこれあり候。起きて見つ寝て見つ蚊帳の廣さかな

二一 釋迦達摩をも奴と 一休禪師母

我等婆妻の縁つき、無爲の都におもむき候、御身よき出家に
なりたまひ、佛性の見をみがき、其まなこより我々地獄におつ
るか落ちざるか、不斷添ふか添はざるかを見たまふべし。
釋迦達摩をも奴となしたまふ程の人になりたまひ候は、俗に
ても苦しからず候。佛四十餘年説法したまひ、つひに一字不
説とのたまひし上は、我と見、我とささるが肝要に候。何事
も莫妄想、あなかしこ。

九月上旬

不生不死身

千菊丸どのへ

かへすも方便のせつをのみ守るの人は糞虫と同じ事に候
八萬の諸聖教をよみて、佛性の見をみがかずんば、此文ほど
の事も解しがたかるべし。

これとてもかりそめならぬ別れては

かたみとも見よ水くきのあと

二三 一筆申し遣す

一筆申し残し参せ候。我身そもじさまへ言なづけの事は、申
すもくどく候へども、此頃おして勝浦へまゐれとの事にて、す
でに日柄もきはまり、今更かなしさのやる方なく、昨日も人し

て、とよさま、かよさまへ、ことわり申し上候へども、一圓お
開入なくかへつて、頼み候人まで勝浦へまゐるを本意とす
められ、そもじさまへ添へとの事は申す人これなく候。それ
に付、一しほそもじさま御身の上御痛はしく、我身ひとり道な
らぬ縁を結び、身に錦をよそほひ候とも、世の人は、さぞか
し我身を義理しらずとんとんじ申すべく候。また此内とよさ
まの、そもじさまと不義せしとの御しかり、御尤なる御疑ひな
がら、御情にあづかり候ことは御座なく候。たゞく言ひ
なづけの義理にひかれ、また先立ちたまふ互ひの親々へ申し
かれといひこれといひ、一方ならぬかなしさに自害をばとげ申
候。かしこ。

十一月九日

長次郎様へ

二三 日本國一の御器置 瀧川金彌

(瀧川金彌といふ、夜舟以来の馴染の
小姓。その小姓より左七への手紙)

昨日は緩々頼御目大慶に奉 存 候。簡様の事申出るも何と
やらん馴々しく御恥かしく存候へ共一昨晚の船中浮雲命御影
故助りし御厚恩といへ昨朝も申せしごとく伏見を出し暮より日

本國に御獨と有間御器置と、儀度打込後を忘れ所存の遺御
物語申せしに御同心下され、辱 奉 存 候。私心底は
御文を以て申上候。御披見下さるべく候。此以後御心に合
はざる事候は、御遠慮なふ御下下さるべく候。左右つらきは
私奉公の身、切々御目に懸 申事ならで、是のみ心にかゝり
氣の毒に存る事に御さ候。今日も十七日を幸に清水への壁
訴訟申ても且那不同心是非なく御床敷事かなと身を恨罷在
候。何卒近き内に天王寺へ参詣の暇 申請、其許へ参り、緩
々と御目にかゝり申べきと責て是を樂にいたし居申候。此
訴訟叶 候様に御心あらば其許にても諸神に御祈下さるべく候
先申上べきに爰元へ罷歸、且那手前首尾よく御さ候條御氣
遣下さる間敷候。何ごとも追々申あぐべく候。恐々謹言。

十二月十七日

瀧川金彌

橋本左七様参
人々御中

二四 我身に増す花嫁

ちれう

(その比尼が今はの際に筆
取つて左七へ残した文)

過し二月の比より願親みて誠に片時も離申さず何時までも昔
ぬ色を松の葉の千代までも諸共と思ひ候しに、八月の末より興
風煩付き、今迄の御看病何れの人か是程まで心をつくしくれ申
べくや、身にあまりぬるうれしさにこそ候へ。此てに候は、
逆も本腹も成がたく御さあるべくと存じ候まゝせめて、人心の
内にとあらまし舊置き申候。我身事かねく御物語申候こと
く所縁と申もの一人も御さなく候へば、内々はいかなる人をも
養育いたし、身の後の事共をもたのみ申べしと存じ候所に、
そもじ様と添馴れ候事今思へば一方ならぬ御うれしさとおもひ
参せ候むなしきからは黒谷へ御送可被下候。爰元清が事十二
の年より我身の傍にて生立、心ざしのおとなしさはかねて御
存知の通り、殊にそもじ様と我身事に付きよが心入忘れぬ可愛ら
しさにて御さ候。親本の事もたづね候へば、岸の和田去侍
衆の娘にて御さ候。父親空しくなり男の子なく、跡目たゞで
浪人いたし候よし、母親もきよが十六の年果申され、それよ
り我身ひとりを便に今廿一の年まで付添暮し申候。いやしか
らぬものに候へばそもじ様妹分になされ身上小儀に候共體
なる方へ御しつけ下るべく、我過行候は、身も捨申ほどになげ
き申べく候まゝ、随分御いさめ下さるべく候。そもじ様御心次

第と申ながら、御しつけなされ候時金百兩ほど御付其外の手道具もそもじ様妹分に候へばはづかしからぬほどに御しらへ、綴子三本緋五疋御さ候まゝ、夜のものも一通は新きを御仕立下さるべく候。外の女共へもきよと御談合なされ、小袖一かさねと二兩ほどづゝ御とらせ男作兵衛は内々慾しがり候まゝ、中の水篋一つ金三兩程御とらせ下さるべく候。生れつき律義なるもの殊に大阪の勝手もよくおぼえ候まゝ、いつ迄も御召つかひ下さるべく候。家ぬしの内義、愛元へ引こし候より心よき人にて、中よく念ごろにいたし申候まゝ、是へも見よき小袖二つ程かたみに御やり、娘子へも帯にても御やり下さるべく候。其外のものいつぞやも申候通、不殘そもじ様へゆづり申候。北濱の家、瓦屋町の下屋敷、五處の賣券、筆筒の襦袢に御座候、徒空くと思へば世の哀も身のの上に相成申候。君と我とがなかもらさぬ水に住鴛鴦の鴛うちかはすちぎり、幾年も幾年も替らぬ事こそ祈候ひしに、はかなき世の中とかなしく思ひ參せ候。かやうに書申内もおつる泪の暇なく跡先に成、わけも見かね申べく候、後の世までも一つうてなこそねがひ申候に、先立候事浮世の習にて候まゝ、かならず御悔なされるまじく候。御なげきのあまりに世を

捨てし御事など候は、草の影よりも御うらみに存申べく候。我身に増花御むかへ候て、跡々までめでたう御下下さるべく候。それをこそ神かけてねがひ上候。きよが事くれくたのみ參せ候。たゞをしきはこの筆と御名残にこそ。なむあみだ佛く。九月十九日。ちれう。はし本左七様

二五 高井鴻山に

かへすくも徳さまへも、わざくふもうじさしあげ度しらせのとほりあくひつにて御わらひもはづかしく、御もと様よりよろしく御わび申おき下されたく、かしこ。行水にかずかよりもはかなきは、おもはぬひとを日千度思ひあまり、心くるしさの誰に通じはらし候やうもなく、たゞいつらにすぐる月日の心くるしさ、いつかは時じせつもがなと思ふをりから、ぞんじがけなう過ぎし御せんむかひ、かねて思ひのかずくもすこしははらさんと、心は矢たけにぞんじながら、あへばさほどによう申あげ申さず、あかね別れにまたもやもとのくるしさにつけさまくのありし事のみ思の出し千々にかなしく、御もと様にもすこしは御しんも御座候は、か

ほどまでにおもふ心を御さつし下され候て、何卒今一度の御げん様かなはせ、ありしやうねがふ事に候。かつまたいつともおなじ御事にて、さだめしおもしろなき事とは御さつし候へども、御しらせのとほり、ま事にふつゝかななるこなたゆゑ、さだめし心にすまぬ御事もやまゝに候はんながら、何ぶん今の御しんのみいつ迄も御かはらせなきやう、かはゆがり下され度候。何ふんとほくへだて、たとひ一夜にてもまくらをかはしえにしむすぶも、ふかきちぎりもあればこそと、そのみ仇にはなかくぞんじ申さず、ましてやはつの御げんにも外ならず心やすき申かた、たゞひととほりにはぞんじ申さず候まゝ、何卒いつく迄も御しんもふじのかはらぬやう、これしもだいにねがふ事に候。まづは何かとしめし上候御事もやまゝ御座候へども、御しらせのとほり、まはらぬふゆゑ、ふかき御事は、またの御げんと致候。どうぞおろかもあるまじくながら、さむさのあたりもなう、御身をば大事に御なし下されまし候。やう、またもや徳様へも此よし御申つたへ下されまし、をしき筆とき、御むかひまで、あらゝかしく。

時雨月末二日
御旦那様参る

みゆきより

二六 思へば罪はこなた 高尾太。

さゝげまゐらせ候。いよく其夜もかはらぬ御様子、御歸り候ても、御首尾よくおはしまし候や、其のみ間はまほしく、誠に過ぎし夜は、たえくにて、御げはひに打むかひ、御嬉しさのほど日の本にもたとへん山もなう候。しかし逢ふ嬉しさに心せかれて、日頃つもりくし言の葉も残りがちにてたえくの別れし跡は、くやむより外なく候、たとへば秋の夜の千夜を一夜に重ぬともいふ言の葉は、いかで盡きなん。まして鳥を限りのうき契り、よしなかく長くともあれかしと、あまりの事に恨むばかりに候。今片時と存じ候へども、却りてまた御爲をおもはぬにもなりなかと留むる心もいかうおくれを取りまする候。手枕の透間をだいにひまゐらせ候に、夜寒の風さへ御身にいたいたしう御あたり候はんとばかり、いと長き道の程のうとましき、誰れ爲す業にやと思へば思へば、罪は此方にこそと、我身ながらも、うきものと思ひ、參せ候。更々もやらす、一入々々心もすみ候へども、人を尤むる犬の聲かすかに耳に觸るゝも、もしや其方のかたにや、御跡をしたふ名

残、おしはからせたまへ、さてとや御たがひに申しかはせし言の葉はよもや、御忘れあるまじく候。こなたとても、縁言ながら我身事は君にまかする身に候へども、いよ／＼行末かけての頼む木の下よそにはなきと申すものにて候。尤も御如才なき仰の上はたのもしう思ひ參せ候。強からぬ女の身、淺ましく心の迷ひゆるの飛鳥川の世の習ひなれば、家やうつろふ色もあらんかと、御心の秋風を、まだ見ぬ先にきづかはしう思ふも、にくからぬには、たとへ御見は絶え、たがひに七夕の仰せを、二人が申になす逆も、隔つる中の天の川こなたの心はいかで／＼かく申しまゐらせ候て、數多のあふなさの身なれば、うそがましう思召候はん、いと口惜くおもひまゐらせ候。

二七 これより後は戀せじと

源川采女の妻

便りの船をよろこびつゝ、そとろは取向ひまゐらせ候。絶るまもなくつかしみ思ひ侍る事もおほかれめど、心を合せ語らふべき人もなければ、聞さびひとりかたしく袖の露、床は海、枕は山と立のぼる胸の煙、はる／＼まもなき涙の雨そよぎ、いつを限りの露の身の消えやらぬ程も恨めしきぞかし、其あらましをいさゝか知らせまゐらせ候。

そこほどは世わたる業のとしげきに取りますぎれ、もはやこゝほどの事は、おぼし出さるゝ事も波の音すさまじき御心とやなりぬらんと思ひのたね心の中にしげりあひぬるまゝ、碇に向ひ獨りわづらふ事の、すみも涙のうみとやなる。

行く水に数かくよりもはなきは

思はぬ人を思ふなりけり

とよみおく和歌のふることまでも吾身の上に覺えて、その人の心のうち、おしはかり、少しはなぐさめぬ。思へば／＼、そひまゐらせぬ昔もありつるに、こは何のむくひにておはしますぞや、あさましかりつる我が心かなとは思へども、よきに止まらぬ心のくせとして、また戀しうおもひまゐらせ、物の怪もあるように、人もいひなし、我もまた心の正しからぬ事を知れり、そも心は身にそふものなれば、身のまゝになるべき物なるか、されば心のまゝに身はなるものとこそ見え侍れ、まことに心は身の主ならじと古き文に多く見えしが、げにも左と覚えぬ。いかなる神の結びあはせにや、あさはかなる契りとはなりぬらん。ある人深うかなしびあへりしことありしを、いやそれは果敢なきことにて侍るなり、たとへ思ひすてさせたまへと諫めつることもありしが、かく我身の上になりぬれば、そのしなくらう

して、あやなき事をなん思ひこがるゝも女の身なればとて、また口をしからざらめや。心を心のまゝにせざらんも、なほあきらかならず覺え侍りぬ、たとすの神の御慮には違ふことにて侍れども、これより後は戀せじとこそはいのり申すべけれ。古より今にためし少き、高麗唐土とやらんへわたりたまふ、かぎりなき海山を隔て、たがひに風の便りをさへ聞きかねまゐらせ候へば、かく思ひ絶えんとせしも、また宜べならざらんや。天正十八年の秋より某の昔こまの國へ御陣有べきむね仰せありしかども、更に實とも覺え侍らで多くの月日を過し侍りしが、いつの間やらん文祿初年の三月にも移きて、あすは、こまの國へ舟出したまふなりと、何方もこと／＼しう、の／＼しりあへりぬ、大かた夜も半近う更しかば、行末の事などかはらじとのみ談りつゝ頼めおきつるに、はやあけがたの空になりて別れをいそぐ鳥のこゑ／＼うちしきりしかば

身をかくてさすらへぬとも君があたり

さらぬかよみのかげははなれじ

とよみおく和歌のごとく、これをかたみと、たゞ紙ながら残しおきたまひしを、まことに袖より外にもらすかたもなく、恨みては讀み、よみては嘆ち、朝な夕な詠めくらし侍りぬ。

思ひつゝぬればや人のみえつらん

夢と知りせばさめざらましを

と小町がよみし言の葉も、げに左る事ぞかし
かぎりとして別るゝ道の悲しきに

いかまほしきはいのちなりけり

まことに、はかなき命ながらへ、かゝる思ひも淺ましく覺え侍れども、今一度見もし見えもし積りぬる事ども晴らしまゐらせたく候て、あだなる露の玉の緒も長かれとのみ祈るばかりにてこそ候へ、何事も／＼あはれと思召出され候はゞ、かす／＼御うれしく思ひまゐらせ候。申たき事どもこよなる多くおはしまし候へども、あはたゞしき出船の急ぎにとりまされ、いかし申し候や、見ゆるよしまゐらせ候、めでたくかし。

くり返し／＼、其後消息の音つれもおはしまさず、御ゆかしさのほど堪へがたく、あまりに人目も恥かしくこそ候へまことに出やらぬ聞のうち、深き思ひの淵となり參せ候かくあらんゆくへを知らでたのみつる

わが心をばたれにかこたん

是はみづから思ひよりにておはしまし候、御恥かしくこそ候へ、めでたく／＼。(五月九日)

せ川うねめ殿にて

人々申したまへ

二八 袖にやどる有明のかけ 小野お通

折ふしのうつりかはるにぞ、なほ戀路なん遣るかたなき。のどかなる日かげに雪の下草もえ出づるも身の上ならずや、かすみ渡りたる夕まぐれこそたゞならね、夢ばかりなる手枕に、きとの葉のこる鳥のこゑ、耳をうがち、鐘の音、心をくだく、きぬくの袖にやどる有明のかけの泪にかすまぬかは、そほふる雨にたれこめて、春の行方も知らぬにぞ人の戀しさも世のつらさも更なり、おぼろ月の覺束なきに、梅の匂ひの通ふも人のおもかげにもやと窓さゝれず、花は一入愛づるものゝえんに濃くも淡くも、おのがじゝ色をあらさふほど、ひとり見こさんいとお惜し、青葉になりゆく空の花たちばなに香のみわたり、卯の花の咲きみだるゝころ、ほとゝぎすの窓ちかく來鳴くにぞ、見はてぬ夢もやぶれ、なみだを催しつゝも、ねられぬわざなれ扇は人のかたみとて、とりかはしても戀しきものなれど、裏おもてなんあれば、また手にだに取られず、七夕まつるにこそ逢はぬつらさはまさりゆく、夜寒になるほど雁のこゑに枕さびし

く、床すさまじう、寐られぬまゝに月のみぞ心をばなやませ、萩の下葉の色づくを見るにも、人の心のうち何とやら露ばかりあはれなるはあらじ、さむれば深くなるものゝ、起きもあえず消ゆるためしなど、身のたくひにや、とりあつめて秋のみぞ、こよのふ物うしや、多かれの空、木の葉ちりしく庭の荒れはてゝ、霜のかゝれる様ぞ、とはれぬほどのうき身知らるれ、雪のあしたに君をかへす、是非なくも又なく悲しきものなれ、ふりつもる日の寒さには、また隔てなく差しむかひ盃とり、越方ゆくすゑのこと、とこしなへに物がたりせしこそ、もの事は忘らるれ。埋み火のもとに視をならしつゝ、おもふ程の御事はかきもやられぬ筆のすさみも冬の夜のみ、まざるゝかたなく思ほゆれ、つくんと一年の過ぎゆく苦しさを、戀にくちせぬ命のためし、さしも知らるれ

世をば實にわたるものから浮船の

よるべもなみに身は流れつゝ

心もつきはて参せ候、しかんゝとわけみへ申すまじく候、御推量あしきことのみ御なほし下されべく候。

二九 治國の要道

北條時頼 母

そのもと常に早く隠避のこゝろおはして、近ごろ佛敎を信じることには建長寺興隆、異國よりはるゝ本朝に遊化せられ、古今稀なる高徳貴賤渴仰の頭を傾げざるはなし。其許にも信仰淺からず常々参禮し、煩る禪の味ひを契悟せらるゝよしみづからも隨喜に堪へず候。おもふに唐土梁の武帝の時、天竺より達摩尊者梁に入り、始めて禪宗の頓悟をしめされしにしへも斯くやらん、さりながら武帝はもと聖賢の道をたつとび、武道に達せし君なりしに、既に佛道を信じ寺を建て、捨身の行をなしたまふほどに、上を學ぶ下の習ひ、高位貴官より庶人のいやしきまで、すべて佛法にかたぶき、公卿大臣は罪人あれども佛の政を破るをそれて刑を宥め、訟の事あれども尋計ること怠り、天下の政道に聞あるを窺ひ、侯景といふもの兵を發して都を攻めければ、武の備ゆるみ防ぐこと叶はず、謀叛人に和談し、武帝は憂に洗んで刷したまふ、國こそ變れ、かゝる先蹤あれば、佛道は尊き教なれども、文武を以て政を施し、國家を治むべき身にて、この道に傾きては、政道たちがたからんか御身隱避の志あるには、さてしもあらん、子孫においては唯々輕傳武備を捨てず、治國の要道を修せらるよし。かくいへばとて邪見を以て佛道の御法を禁するにあらず、貴き道は尊信す

べし、傾くべからずと申す儀なり。さて近ごろ世人殺生を事とし、獵漁を好み、鷹を臂にし、犬を牽き、山には鬘をかけ、水には網をはり獸は檻に囚へられて友を慕ひ、禽は籠に飼はれて空を戀ふ、翹さへ巢を傾け、胎を割くとうけたまはる、人と物と異るといへども、生としけるもの、命を惜しむは皆おなし以ての外の曲事なり、十惡の中に殺生最も大に、十善の中に命を救ふを専らとす。生死不知の族は物のあはれを辨へず、貪慾愚痴の人は罰の恐るべきを知らず、かゝる惑をさとすは佛の道にしくものなし、鎌倉中の道場に説法せしめ、頑固に愚を教へみちびかしめば、おのづから生類所を得るに近からん。所在いさゝか申し進じ候。あなかしこ。

三〇 逆臣の夫小田孝朝へ 妻の卯月

今日は妹葉月が七七日、朝のほどより、せめては其の冥福を祈らんものと、ひねもす甲ひの讀經をいたし居り候折柄、敵結城が陣より急ぎの密使、つよいて深夜の御密談、たゞ事ならじと胸のとどろき候まゝ、はしたなきわざながら、御密談の様子は夫の間に残らず承はり申し候。

小田の一族を救はんがため、やんごとなき御方を御首級にし

率り、結城が陣へお届け申しまるらすとか。あな無惨、あな不忠。

この城を死守して、我が小田の一族郎黨が全滅すればとて、親房卿の御運命に何程の相違かあらん、されば忍びがたきを忍びて、結城が申入れに従はんと仰せられし御言葉を承りし時のこの身の驚き、御父上様はじめ、御心にはすでに裏切魔の魅入りしものと存せられて悲しく候。

今更申すも返らぬことながら、さても情なき御心根、忌はしさ、淺ましき、悲しさ、この胸は入り亂れ候。

あれ程までに慕ひ歎ひ、頼みにしてまゐり候わが夫の、何とて世にも恐ろしき不忠不義の人と御變りなされ方ぞや。

桶殿と申し、新田殿と申し、何れおとらぬ芳しき御心魂を、何故お倣ひ遊ばさぬにや、このお城を枕に討死あそばしてこそ、建武中臣よと世にもうたはれ、千歳の後の世までも、御名はかどやき候ものを。

いかなる御胸の隙間より喰ひ入りし御護飯にか、あな穢はしき御念で、さまでに御命をしく思召され候や。

勿體なくも親房卿の御首を掻きまゐらせんと、大悪心を心に定めしその人が、我が夫とは何ごと、忠義の赤心一徹に、關の

城に立籠つて戦ふ宗純の女として生れし我が身の夫が、何といふ愁はしきことに候ぞ。

逆賊に觸れしかと思へば、現在わが肉身の、われながらこよなく穢はしく思はれ候。

卯月は逆臣の妻ながら忠臣の子に候へば、忠義のためには夫に叛きまゐらせ候。宮と親房卿は、松壽に申しつけて、今宵のうちに逃しまゐらせ候。

やんごとなき御方は、あらはせ給はぬ御徒歩にて、水こぼる谷間の岩根をふませ、暗き野道の枯草をわけて、虎の口をのがれ給ひ候。さるにても過ぎし元弘の亂のをり、先の帝には笠置に落ちさせ給ひ、大塔宮は大和の十津川へと御逃れ遊ばされ候と承はるに、今の宮は先の帝の御孫に當らせられ、大塔宮はまた御伯父君の親王にあらせられ候。

いつまでも御苦難をつよげさせられ候ことか、一日も早く黒き雲の拂はれて、御秘威の光かどやき給へと念じ奉るほか、いまはの卯月には何の願ひも候はず、さらばこれにて永き御別れに候。

現代 家庭手藝全書

定價金二圓五十錢

編者 國民手藝研究會

東京市本郷區千駄木町二一〇

發行者 殿原 一雄

東京市神田區神保町三ノ七

印刷者 中村 倍吉

東京市本郷區千駄木町二一〇番地

發行所 帝國書籍協會

電話駒込四二〇一二番
振替東京五九三三九番

昭和十五年六月十五日 印刷
昭和十五年六月二十日 發行

終

